

出雲市築山土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

寿昌寺遺跡・築山遺跡発掘調査報告書

2004年10月

出雲市教育委員会

出雲市築山土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

寿昌寺遺跡・築山遺跡発掘調査報告書

2004年10月

出雲市教育委員会

卷頭図版 1



寿昌寺遺跡 空撮写真

卷頭図版 2



築山Ⅰ区 包含層出土漆器
(出土時家紋遺存状況)



築山Ⅱ区 SK09出土土器

序

出雲市文化財室では、出雲市築山土地区画整理組合からの委託を受け、平成13年度から築山土地区画整理予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりましたが、今年度の調査報告書の刊行をもって終了する運びとなりました。本書は、平成13・14年度に発掘調査を行った寿昌寺遺跡、築山遺跡の成果をまとめたものです。

これらの遺跡が所在する上塩治地区は、県内でも有数の遺跡密集地帯となっており、数多くの歴史的文化遺産が残っています。

本書に掲載した寿昌寺遺跡からは中世の館の区画溝が確認され、付近の有力者であった塩治氏との関連も考えられています。一方、築山遺跡からは出雲平野では珍しい縄文土器が多数出土しており、貴重な資料となりました。

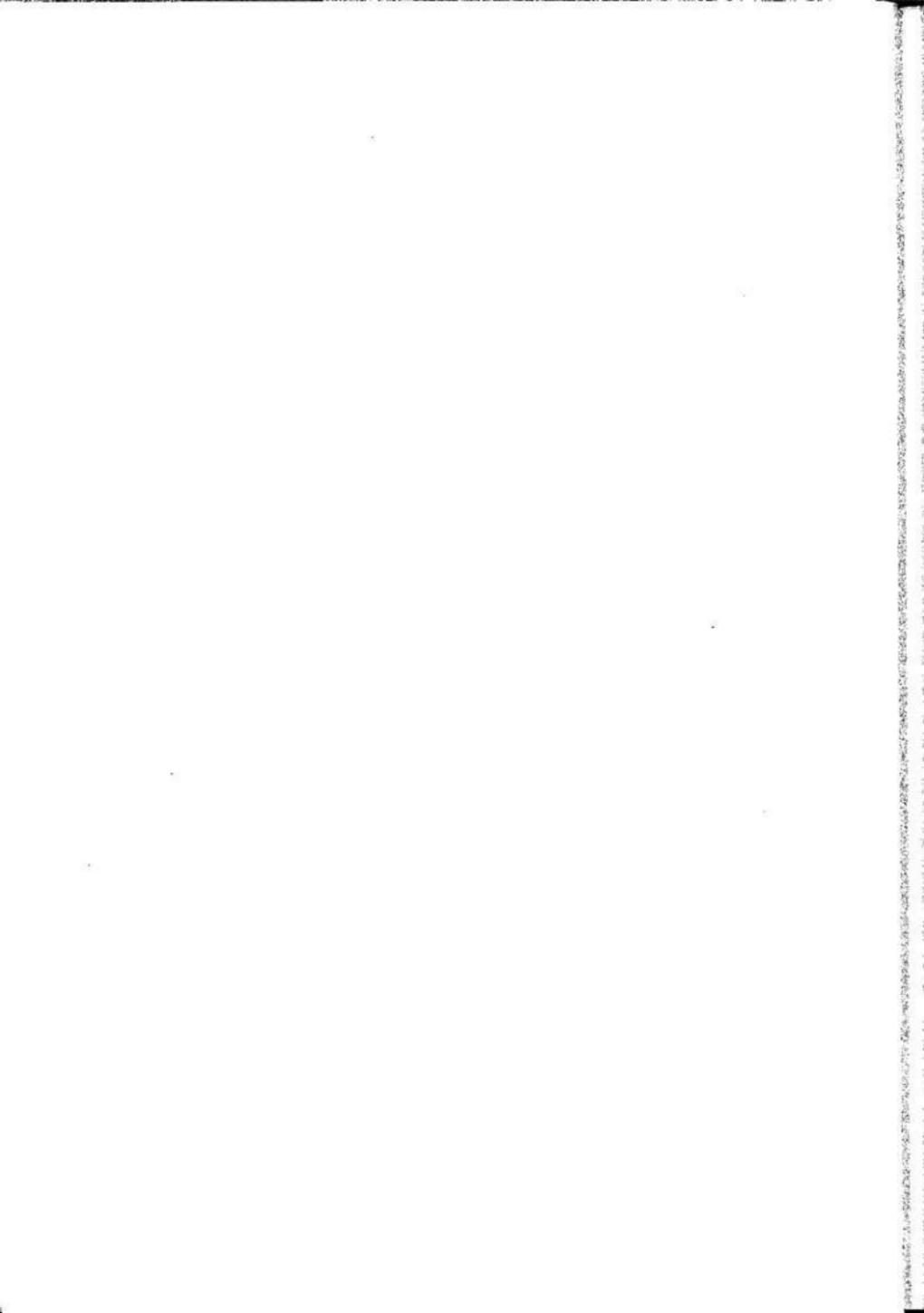
こうした調査成果は、出雲地域の歴史を解明していく上でも貴重な資料になるものと思われます。本書が地域の埋蔵文化財に対する理解や歴史解明の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の刊行にあたり御協力いただきました地元の皆様、出雲市築山土地区画整理組合をはじめ、関係の方々に対して心から御礼申し上げます。

平成16年10月

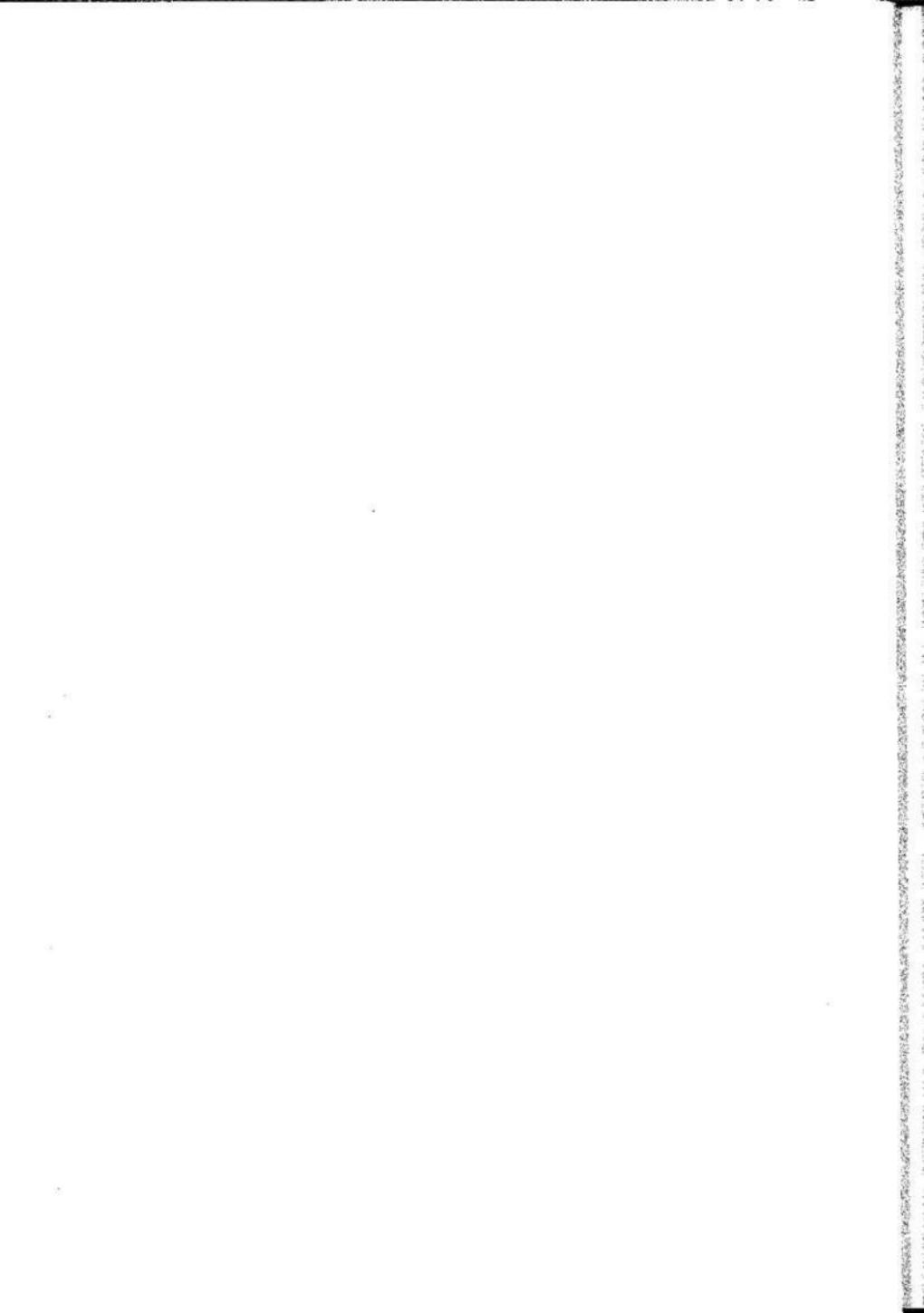
出雲市教育委員会

教育長 加藤武行



例　　言

1. 本書は、出雲市築山土地区画整理組合の委託を受け、出雲市文化財室が平成13・14年度に実施した寿昌寺遺跡、築山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、下記の期間において実施した。
寿昌寺遺跡……………平成14年1月8日～6月27日
築山遺跡……………平成14年5月3日～平成15年3月31日
3. 発掘調査を行った地番は、次のとおりである。
寿昌寺遺跡……………出雲市上塙治町351番地3ほか
築山遺跡……………出雲市上塙治町1683番地ほか
4. 調査は次の組織で行った。
平成13年度
【事務局】板倉 優（出雲市芸術文化振興課長）、川上 稔（出雲市文化財室長）
【調査員】遠藤正樹（出雲市文化財室 副主任主事）
佐々木紀明、伊藤晶子（同 臨時職員）
平成14年度
【調査指導者】伊藤徳広（鳥根県教育庁文化財課 主事）
【事務局】板倉 優（出雲市芸術文化振興課長）、川上 稔（出雲市文化財室長）
【調査員】遠藤正樹、藤永照隆（出雲市文化財室 副主任主事）
佐々木紀明、伊藤晶子、伊藤めぐみ、櫻井康行（同 臨時職員）
平成15年度（報告書作成）
【調査指導者】原田敏照（鳥根県教育庁文化財課 文化財保護主事）
【事務局】板倉 優（出雲市芸術文化振興課長）、川上 稔（出雲市文化財室長）
【調査員】遠藤正樹、藤永照隆（出雲市文化財室 副主任主事）
佐々木紀明、佐藤睦子
平成16年度（報告書作成）
【事務局】板倉 優（出雲市芸術文化振興課長）、川上 稔（出雲市文化財室長）
【調査員】遠藤正樹、藤永照隆（出雲市文化財室 副主任主事）
5. 本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。
SD—溝状遺構、SE—井戸、SK—土壤、SX—不明遺構、P—ピット状遺構、SB—掘立柱建物跡
6. 本書で示した方位は真北を示す。座標は日本測地系に基づくものである。
7. 本遺跡の出土遺物及び実測図、写真は出雲市教育委員会で保管している。
8. 本書掲載の遺物実測図及び写真撮影については、遠藤、藤永のほか、佐々木紀明、伊藤めぐみ、伊藤晶子、櫻井康行、佐藤睦子、宮崎 純、高橋亜紀、鶴口令子、岩崎晶美が行った。
9. 本書の執筆、編集は遠藤、藤永が行った。
10. 各遺跡の調査担当者は、次のとおりである。
寿昌寺遺跡……………遠藤正樹
築山遺跡Ⅰ区……………藤永照隆
築山遺跡Ⅱ区……………遠藤正樹、藤永照隆
11. 文化財調査コンサルタント株式会社 渡邊正巳氏からは玉稿を賜った。
12. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、以下の方々に御指導、御協力を賜った。
西尾克己（鳥根県教育庁文化財課）、広江耕史、柳浦俊一、林健亮（以上鳥根県埋蔵文化財調査センター）、杉原和恵（防府市教育委員会）、尾島 治（津山郷土博物館）、今岡 清（鳥根県文化財保護指導委員）。
13. 遺物整理、報告書作成作業については、次の方々に従事していただいた。
鶴口令子、岩崎晶美、吹野初子、遠藤恭子、荒木恵理子、飯国陽子



目 次

卷頭図版

序 文

例 言

目 次

本 文 目 次

第1章 調査に至る経緯と経過.....	(藤永).....	1
第2章 位置と環境.....	(藤永).....	2
第3章 寿昌寺遺跡の調査.....	(遠藤).....	4
第1節 寿昌寺遺跡の調査.....		5
1. 調査の概要		
2. 遺構と遺物		
3. 包含層出土遺物		
4. 中屋山の調査		
第2節 考察.....		61
1. 鋳冶炉遺構について		
2. 遺物の組成について		
第3節 まとめ.....		64
写真図版		
第4章 築山遺跡の調査.....		89
第1節 I区の調査.....	(藤永).....	90
1. 調査の概要		
2. 遺構と遺物		
第2節 II区の調査.....	(遠藤).....	110
1. 調査の概要		
2. 遺構と遺物		
第3節 まとめ.....	(藤永).....	154
寄稿 築山遺跡における自然科学分析.....	(渡辺正巳).....	156
写真図版		



第1章 調査に至る経緯と経過

築山土地区画整理事業準備委員会（以下準備委員会という）より、平成10年10月26日付で出雲市上塙治町築山地内土地区画整理事業に係る埋蔵文化財試掘調査の依頼が提出された。これに対し、出雲市教育委員会は平成11年2月に事業予定地内の試掘調査を実施し、事業地の大部分が周知の遺跡である築山遺跡・寿昌寺遺跡の範囲内であることを確認するとともに、事業実施前に発掘調査の実施が必要となる旨の報告を行った。

その後準備委員会と出雲市（平成13年度より文化財保護部局が市長部局へ移動）で協議を重ねた結果、出雲市と準備委員会で委託契約を締結し、平成14年1月から発掘調査を開始することで合意に至った。

こうした経緯を経て平成14年1月8日より出雲市は発掘調査を開始した。なお、同2月には出雲市築山地区土地区画整理組合（以下区画整理組合という）が設立し、準備委員会が解散することになったため、事業主体及び契約相手方が区画整理組合へ変更されることとなった。

調査は平成14年1月より同年6月まで寿昌寺遺跡の調査を、同年5月より平成15年3月まで築山遺跡の調査を行ない、築山遺跡の発掘終了と共に全ての現地作業を完了した。なお、工法上面的調査が困難な部分については、この期間内に隨時工事立会調査も実施している。

文化財保護法上の手続きについては、平成13年8月31日付で準備委員会より埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第57条の2）が出雲市經由島根県教育委員会へ提出され、出雲市は13年12月25日付で埋蔵文化財発掘調査の報告（文化財保護法第58条の2）を島根県教育委員会へ提出した。また、調査終了後の意見書については、寿昌寺遺跡に係る意見書を平成14年7月8日付で、築山遺跡に係る意見書を平成15年3月31日付で島根県教育委員会へ提出した。



第1図 寿昌寺遺跡・築山遺跡調査地位図

第2章 位置と環境

寿昌寺遺跡、築山遺跡が所在する出雲市上塩治町築山地区は、当地の二大河川である斐伊川と神戸川が出雲平野に流れ込む基点部に位置する。現在の出雲平野をとりまく環境は、北に北山山麓、南に中国山地から派生した丘陵地が連なり、東に宍道湖、西に日本海がある。宍道湖、日本海にはそれぞれ斐伊川、神戸川が注いでおり、出雲平野はこの二大河川によって形成された沖積平野である。

＜縄文時代＞ 確認される出雲平野最古の遺跡としては、縄文時代早期末の菱根遺跡(71)、上長浜貝塚(75)が挙げられ、前期末には三田谷遺跡(12)にも人々が暮らし始める。当時は縄文海進の影響によって出雲平野の大部分が海となっていたとみられ、平野の縁辺部で遺跡が確認されるのみである。

平野の沖積作用が進んだ縄文後・晩期になると、矢野遺跡(39)など平野中央部でも遺物の散布が確認され始め、築山遺跡(2)、浅柄遺跡(86)など平野縁辺部でも遺跡の増加傾向が見られる。

＜弥生時代＞ 弥生時代前期には大きな変化は見られないが、弥生時代中期中葉以降になると下古志遺跡(77)、天神遺跡(20)、などで大形の区画溝を配した大規模集落が営まれるようになり、遺跡数も激的に増加する。また、平野部の青木遺跡(62)や中野美保遺跡(47)では中期から後期にかけて貼石幕や四隅突出型墳丘墓が築かれ、南丘陵地の西谷墳墓群(32)では後期後葉に西部出雲地域の王墓と考えられる最大級の四隅突出型墳丘墓が密集して築かれる。

＜古墳時代＞ 古墳時代に入ると多くの集落遺跡は衰退する。井原遺跡(38)、三田谷遺跡(12)、浅柄遺跡(86)などで集落跡は見つかっているが、その様相は未だ明らかでない。これに対し古墳の様相は比較的明確である。前・中期には山地古墳(90)、大寺古墳(65)、北光寺古墳(94)など特筆すべき古墳は数えるほどであるが、後期後半になると神戸川東岸に大念寺古墳(28)、築山古墳(3)といった大形横穴式石室墳が、神戸川西岸に放レ山古墳(82)、妙蓮寺山古墳(81)などの中小形横穴式石室墳が続々と築かれる。また、後期末～終末期には上塩治横穴墓群(9)や神門横穴墓(89)を始め市内各所で横穴墓の造営が盛興する。

＜古代＞ 「出雲國風土記」によると、出雲平野は当時西流して神門水海に注いでいた出雲大川本流(現在の斐伊川)と神戸川に挟まれた大変肥沃な土地であったようである。当時の出雲大川を境に北を出雲郡、南を神門郡と行政区画が分かれ、古志本郷遺跡(76)では神門郡家に比定される施設が確認されている。その他、神門寺境内廃寺(22)、天寺平廃寺(34)の古代寺院、光明寺3号墓(13)、小坂古墳石櫃(96)、朝山古墓(17)、菅沢古墓(33)の初期火葬墓といった特徴的な遺跡が調査地周辺の上塩治町・古志町周辺に集中する。平野各所の集落遺跡においても遺構遺物とともに増加傾向が見られる。

＜中世＞ 中世には出雲守護職の佐々木氏(後の塩治氏)が13世紀末塩治郷に本拠を移してより、塩治高貞が幕閣の権力闘争に敗れ自刃する(1341年)までの間、塩治地域が出雲国を中心とする。高貞失脚の後も塩治氏は有力国人としての立場を守っており、1531年頃に尼子氏の圧迫を受けて塩治郷を去るまで当地は塩治氏の本拠として発展したものと考えられる。主な遺跡としては中世館跡を検出した蔵小路西遺跡(44)、渡橋沖遺跡(43)、矢野遺跡(39)、下古志遺跡(77)、寿昌寺遺跡(1)、青磁優品の出土で知られる荻籽古墓(37)、丘陵地各所に点在する山城(29・30ほか)などが挙げられる。

＜近世＞ 近世に入ると、松江藩の土地政策により網状河川であった斐伊川が1本の大河川に改

修されたほか、斐伊川西岸に来原岩壠（36）、間府岩壠（35）が開削された。こうした大規模な水利政策によって出雲平野は日本海側有数の穀倉地帯として発達することとなった。



第2図 築山遺跡周辺の遺跡

1. 寿昌寺遺跡
2. 筑山遺跡
3. 上塙治築山古墳
4. 宮松遺跡
5. 角田遺跡
6. 寿昌寺西遺跡外
7. 上塙治地蔵山古墳
8. 半分古墳
9. 上塙治横穴墓群
10. 大井谷城跡
11. 平分城跡
12. 三田谷遺跡
13. 光明寺古墳群
14. 大井谷II道跡
15. 唐墨城跡
16. 輓山城跡
17. 明山古墓
18. 白枝本郷遺跡
19. 巷丁田遺跡
20. 天神遺跡
21. 高西遺跡
22. 神門寺境内廃寺
23. 海上遺跡
24. 善行寺遺跡
25. 藤ヶ森遺跡
26. 藤ヶ森南遺跡
27. 藤山古墳
28. 今市大念寺古墳
29. 平家丸城跡
30. 向山城跡
31. 斐伊川鉄橋遺跡
32. 西谷墳墓群
33. 菲沢古墓
34. 長者原廃寺
35. 開南岩壠
36. 来原岩壠
37. 狹井古墓
38. 井原遺跡
39. 矢野遺跡
40. 大塚遺跡
41. 小山遺跡
42. 白枝荒神遺跡
43. 渡橋沖遺跡
44. 蔵小路西遺跡
45. 那原西遺跡
46. 中野西遺跡
47. 中野美保遺跡
48. 中野清水道路
49. 大津町北遺跡
50. 大津大河内遺跡
51. 高浜I遺跡
52. 高岡遺跡
53. 稲岡遺跡
54. 稲秆II遺跡
55. 高浜川遺跡
56. 高浜II遺跡
57. 里方八石原遺跡
58. 下澤道路
59. 里方本郷遺跡
60. 山持遺跡
61. 馬渡遺跡
62. 青木遺跡
63. 菅ヶ原城跡
64. 滝棚山古墳群・平林寺山古墳群
65. 大寺古墳
67. 鈍山城跡
68. 出雲大社境内遺跡
69. 真名井銅戈出土地
70. 修理免本郷遺跡
71. 菊根遺跡
72. 蔵鹿山遺跡
73. 原山遺跡
74. 南原遺跡
75. 上長浜貝塚
76. 吉志木郷遺跡
77. 下吉志遺跡
78. 吉志遺跡
79. 田畠遺跡
80. 宝塚古墳
81. 炒庵寺山古墳
82. 放レ山古墳
83. 洋上寺山城跡
84. 梨柄城跡
85. 知井宮多聞院遺跡
86. 浅柄遺跡
87. 深田谷横穴墓群
88. 保知石遺跡
89. 神門横穴墓群
90. 山地古墳
91. 待山古墳群
92. 九井川遺跡
93. 神城跡
94. 北光寺古墳
95. 高城跡
96. 岩山古墳群・小坂古墳

第3章 寿昌寺遺跡の調査

寿昌寺遺跡は上塩治築山古墳から南へ約300m、現在の寿昌寺から東へ約50mの地点に所在し(第3図)、耕土から土器片が採集されることから、調査以前より遺跡として周知されていた。

試掘調査の結果、第4トレンチから墨書き土器(土師質土器)が出土したほか、広範囲に遺跡の存在を確認した。試掘トレンチ出土遺物や北側に塩治判官館跡推定地や塩治判官高貞碑が所在することから、寿昌寺遺跡は中世を中心とした遺跡であることが推定された。

調査の結果、13～15世紀の掘立柱建物跡・溝・土壙・井戸・鍛冶炉・ピット群などが検出された。溝には幅3m弱の溝が直行するものがあり、何らかの施設の区画溝になるものと考えられる。一方、区画溝の外側では、奈良火鉢など寺院関連遺物が出土するほか、寺院の本堂の可能性がある掘立柱建物跡を確認している。東側では鍛冶炉が確認されており、自給性が高い点も寺院関連遺跡の様相と一致している。



第3図 寿昌寺遺跡周辺図

第1節 寿昌寺遺跡の調査

1. 調査の概要

寿昌寺遺跡の調査は区画整理道路計画範囲の西側部分約1,050m²を対象とし、表土を重機で掘削した後、手掘りにより作業を進めた。なお、調査終了後の路線変更により、追加調査も実施している。

<土層堆積状況>（第5～6図）

堆積土は基本的に上から近代以降の堆積土である①表土、②明褐色土、③褐灰色土（調査区北側のみ）、16世紀の堆積土である④褐色土の順に堆積し、一部ではその下層に⑤褐灰色砂質土が堆積していた。また基盤層は調査区の大半が淡橙色砂層からなっており、山際の調査区北東端部では地山面が基盤層となっている。

また表土下に堆積する搅乱土は、焰烙を含む新しい客土であるが、縄文土器を混入しており、採土した土地に縄文遺跡がある可能性もある。しかしながら採土地は特定できなかった。

<遺構>（第4図）

遺構としては、弥生時代、中世（13～15世紀）、近世以降と大きく3時期の遺構が確認された。土層堆積の①～③層が近代以降の堆積であることから、調査区内では、近代以降に大きな改変があったと考えられる。特に調査区北側では基盤層まで改変を受けており、深度のない遺構は後世の前半等によってすでに破壊されたのか、調査区北側で確認された中世以前の遺構は、井戸や土壙といった深度のある遺構のみである。

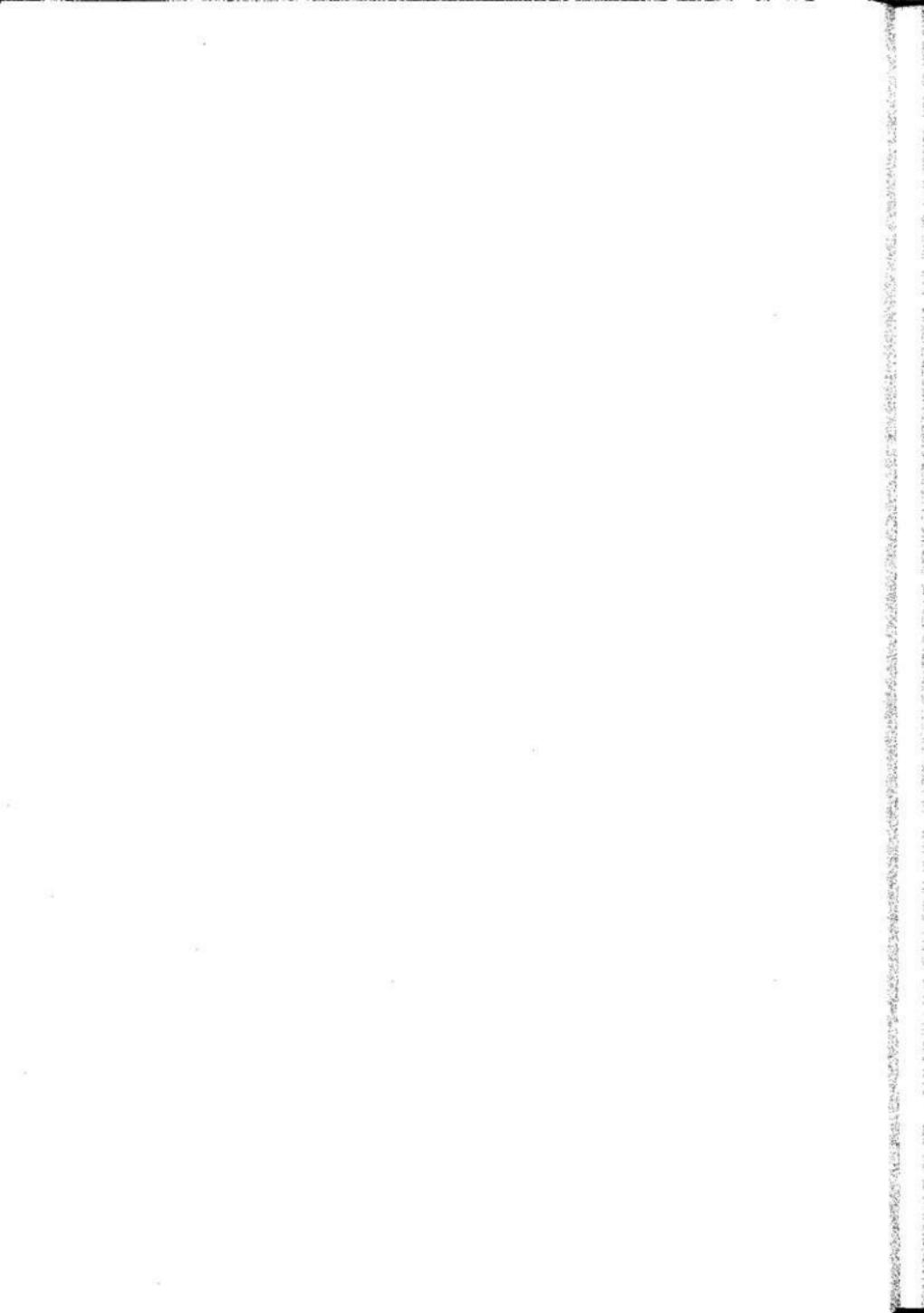
弥生時代の遺構としてはSD 29、SD 30、SK 03がある。このうち溝は弥生終末期の自然河道で、溝の方向から1条の溝として繋がる可能性もある。

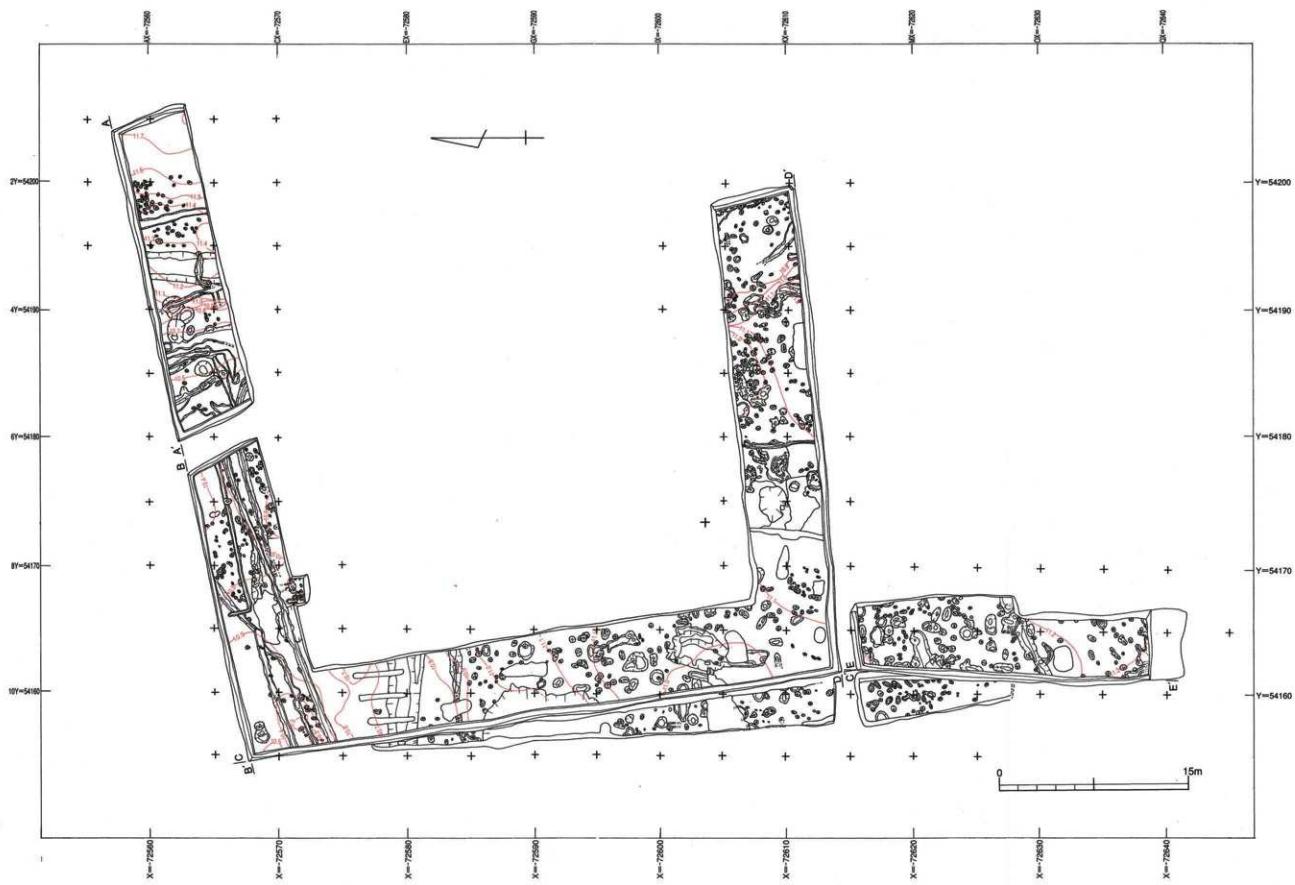
中世の遺構としては、SD 15、SD 08、SK 08、SB 01、SK 09、SX 03が13世紀、SE 01が13～14世紀、SE 03が14世紀初～15世紀前半、SE 02が14世紀後半～15世紀前半、SK 41が15世紀後半と考えている。14～15世紀の遺構としては、井戸や土壙といった深度のある遺構しか検出されなかつた。上面包含層の時期が16世紀であることから16世紀に14～15世紀の遺構面が破壊された可能性も考える必要があろう。

近世以降の遺構としては、調査区北側にSD 01、SD 02、SD 13、SD 12がある。このうちSD 01は多量の礫が充填されており、暗渠排水と考えられる。

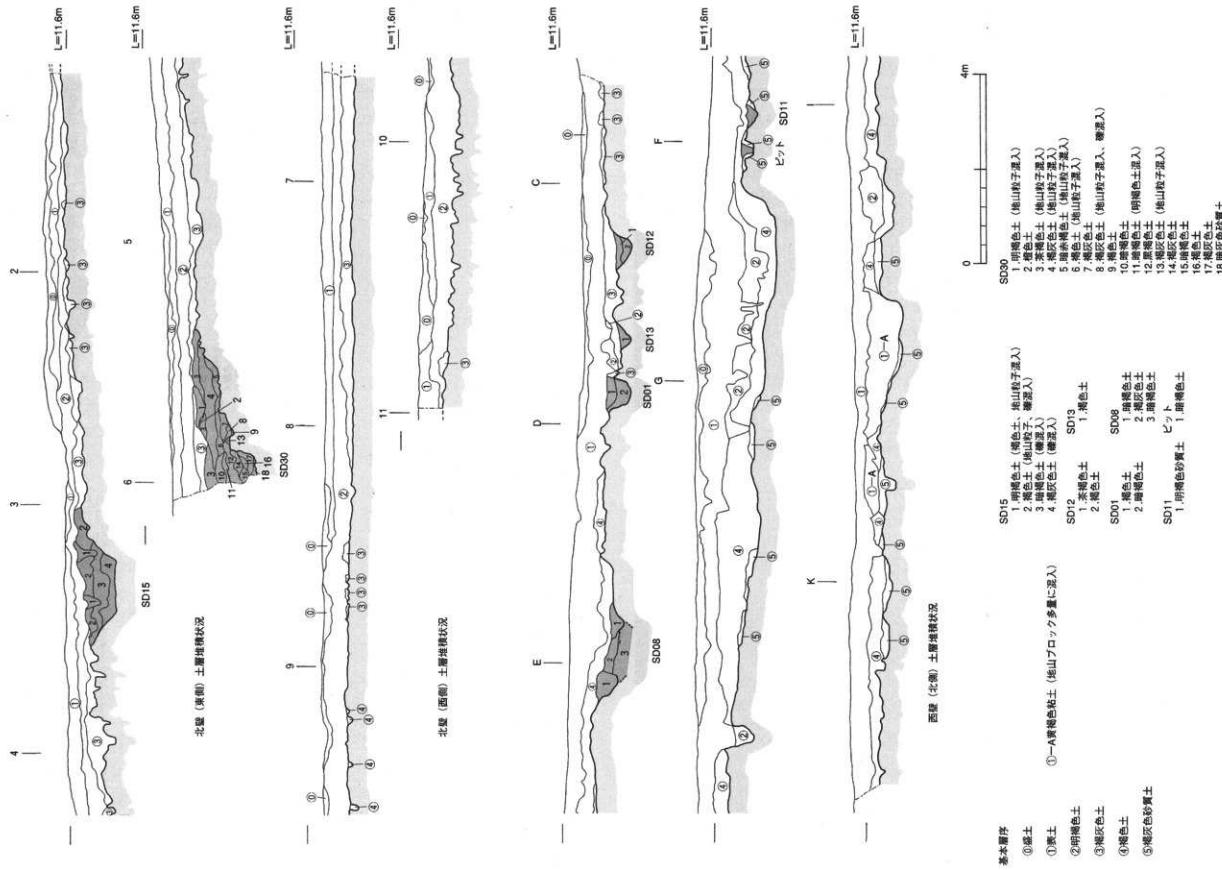
<遺物>

縄文土器から近代に至るまでの遺物が出上している。出土遺物の中心は13世紀で、多量の土師質土器のほか、瀬戸焼、備前焼、瓷器系陶器、青磁、白磁などの貿易陶磁が出土している。特徴的なのは青磁の数が少なく、この時期の遺跡に出土する鎬匙介文碗も少ない点である。出土地別で見ると、区画溝内は大部分に後世の改変を受けているため詳細は不明であるが、区画溝外側からは威信財的な白磁四耳壺の破片が出土しているほか、瓦質土器、奈良火鉢、綠釉陶器といった寺院との関連を考える必要のある遺物も出土している。また五徳、埴堀といった生産関連遺物が出土していることとも特徴的である。



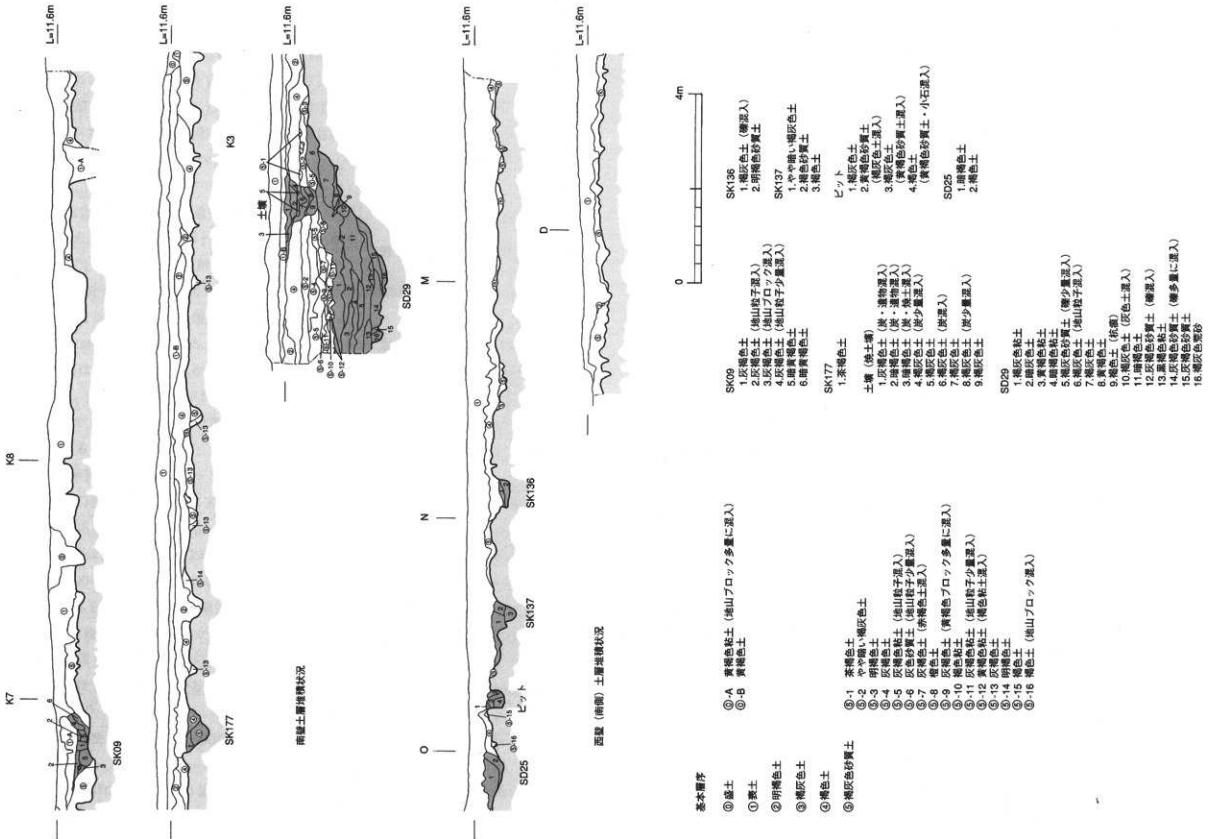


第4図 寿昌寺遺跡全体図 (S = 1 / 300)



第5図 北壁土壌地盤構造・西壁(北側) 土壌堆積状況 (S=1 / 80)

第6図 南壁土層性状図・西壁(南側)土層性状図(S=1/80)



2. 遺構と遺物

<第4トレンチ> (第7図)

調査で検出された区画溝の内側に位置するトレンチで、墨書を施した土師質土器が出土している。

第7図1は第4トレンチ出土の土師質土器片である。内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げる。外面に漢字2文字の墨書が残り、解説不明であるが、墨書文字の部首は、1文字目が「木」または「示」の可能性があり、2文字は「禾」と考えられる。

<SD 15> (第13図)

長さ6.00m以上、幅2.66mを測る溝状遺構で、溝の主軸はN~1°

~Eを呈する。壁の立ち上がりは、東側は外反しながら立ち上がり、西側は内湾気味に立ち上がる。遺物は土師質土器片が少量出土して

いる程度であるが、SD 08の主軸と垂直関係にあり、SD 08の時期と同時期の遺構と考えられる。

<SE 03、SK 85、SK 84> (第14~16図)

第14図は井戸(SE 03)と土壙(SK 85、SK 84)である。SE 03は素堀の井戸で、東西1.93m、南北1.42mを測る。壁は直立的に立ち上がる。出土遺物から14世紀初頭から15世紀前半頃の遺構と考えられる。SK 85、SK 84は床面で平坦面を作る土壙である。SK 85は東西1.74m、南北1.86m以上を測り、土壙上で、10~20cm程度の石を10個程度集積している。出土遺物から13世紀前半以降の遺構と考えられる。

第15図1~3は土師質土器である。1~2は小皿で、1は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸めに仕上げている。2は底部で、風化のため調整不明瞭であるが、内外面ともに回転ナデ調整しているものと考えられる。「」縁部は外方に直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げている。3は壺で、内外面ともに回転ナデ調整している。底部は欠損しているため不明である。口縁部の立ち上がりは、外反気味に伸び、端部は尖らせていく。4は青磁碗で、底部を厚く作り、高台付及び高台見込を露胎としている。

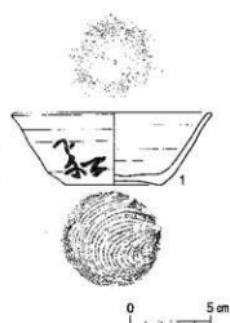
第16図1は常滑系陶器壺で、肩部のみが残存する。内外面ともにナデ調整しており、外面には押印文を残す。肩部が発達したタイプのものである。2は外面に格子タタキの残る壺片で、内面はナデ調整している。格子は3~4mm程度の方形で構成されており、胎土は軟質のものである。

<SK 76> (第8、17図)

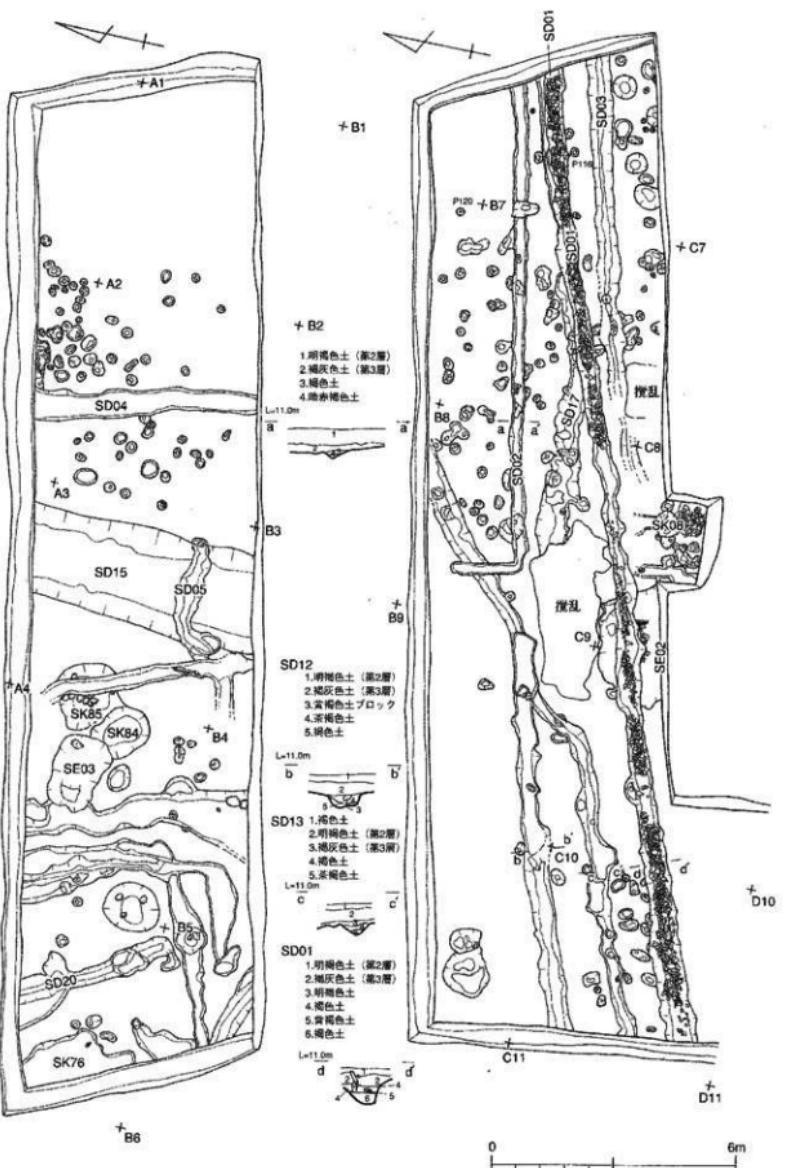
B5Grで検出された土壙(SK 76)で、検出された範囲内では深さ10cmを測る。土師質土器片と須恵器皿が出土している。

第17図1は土師質土器片である。内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を施している。2は須恵器皿で、内面はナデ調整及び回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕及びヘラ状工具痕を数条残す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

<SD 30> (第18~19図)



第7図 試掘トレンチ出土遺物



第8図 遷構平面図 1 (S = 1 / 120)

東西3.20m以上、南北6.24m以上を測る溝状遺構で、底部に小溝を作り、壁の立ち上がりは東側で緩やかに上がっていく。遺物は弥生土器のみが出土している。SD 29に繋がる可能性がある。

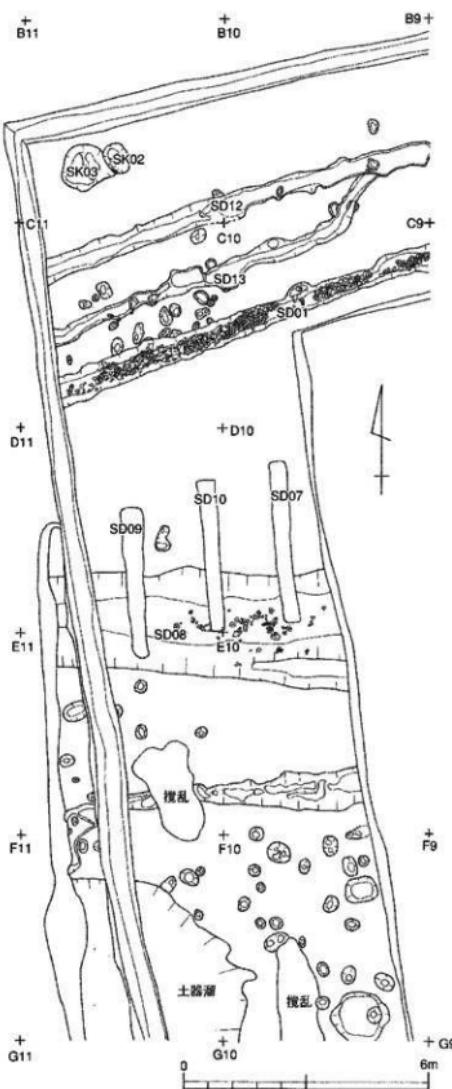
第19図1~3は弥生土器である。1は壺で、全体的に風化が著しいが、体部外縁の一部にハケ目を残す。口縁部はナデ調整し、立ち上がりは外方に直線的に伸びる。2~3は壺である。2は底部で、内面をナデ調整し、外面をヘラミガキ調整している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。3は口縁部から肩部にかけての破片で、口縁部の内外面をナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸びた後、内側に屈曲する。端部は尖らせている。

<SD 20、P 120、P 116> (第8、20図)

長さ3.8m以上、幅約0.4m、深さ約0.3mを測る溝状遺構で、出土遺物から13世紀以降の遺構と考えられる。

第20図1~2は高台を有するタイプの土師質土器壺である。1は内外面ともに回転ナデ調整している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。後付けの高台は内湾気味に伸び、端部を尖らせている。2は後付けの高台が外反気味に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。3は在地の擂鉢で、内面見込に擂目を残す。内面見込周辺は使用のためか激しく摩耗している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4は土錘である。直径5mm程度の穿孔を施し、外面はヘラミガキ調整をしている。2、3はSD 20、1はP 120、4はP 116の遺物である。

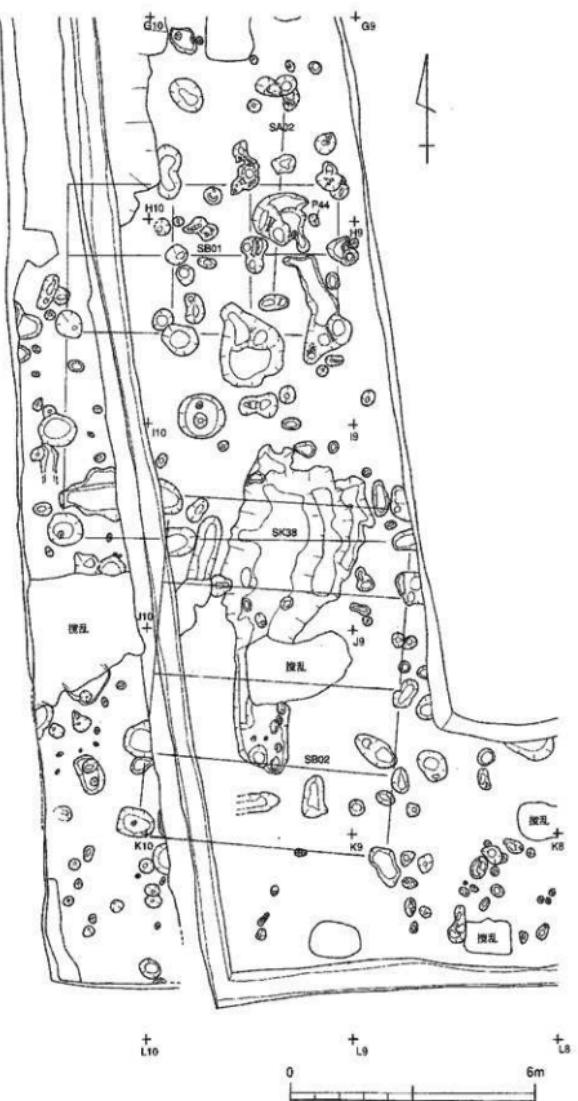
<SD 01> (第8~9、21~22図)



第9図 遺構平面図2 (S = 1 / 120)

長さ 25.0 m 以上、幅約 0.4 m、深さ約 0.1 m を測る溝状造構で、多量の礫が混入していることから、暗渠排水だったものと考えられる。出土遺物から近世以降の遺構と考えられる。

第21図1~4は土師質土器坏である。1は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には静止糸切痕を残す。底部と器壁の界線がシャープである。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。2は内面ナデ、外面回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4は内外面ともに回転ナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖らせている。5は青磁碗である。底部は厚めに作られ、高台見込は釉ハギしている。内面見込にはスタンプ文を施している。龍泉窯系統E類の遺物と考えられる。6は瓷器系陶器甕で、内外面ともにナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外反した後、端部を肥厚させて上下に突出させている。7~11は備前焼である。7~10は擂鉢で、内外面ナデ調整を施している。7は注口で、口縁



第10図 遺構平面図3 (S = 1/120)

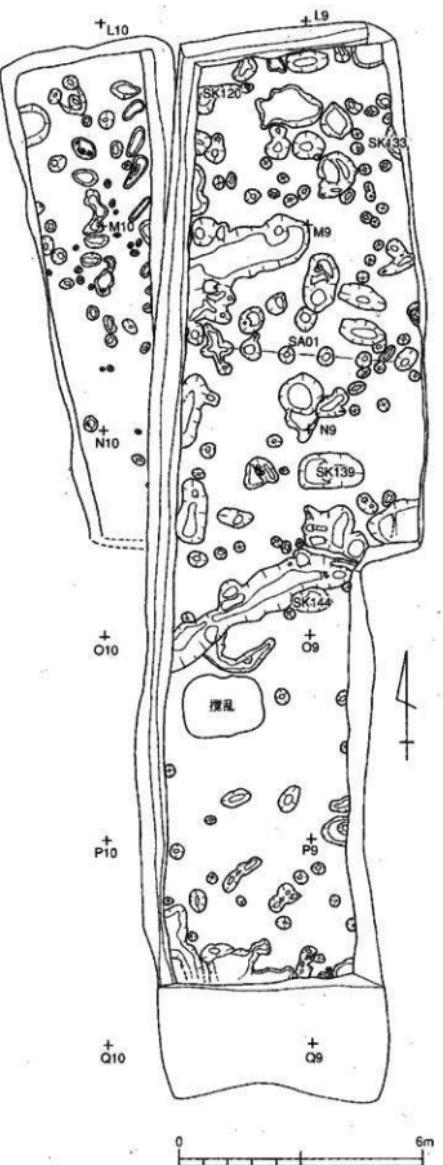
部は端部内側の突出が強調されて来ており、乗岡実氏の編年の中世3期bに相当する遺物と考えられる。8は内面に一単位9条の描目を残す。胎土が須恵質で、やや古い様相がある。9～10は内面に一単位10条の描目を残す。10は内面見込には描目を施していない。使用頻度が高かったのか描目の摩耗が著しい。口縁部は外方に直線的に立ち上がる。11は壺である。口縁部外面をナデ調整し、頸部内面にハケ目調整を施す。11縁部は内傾しながら立ち上がり、徐々に直立する。端部は外側に



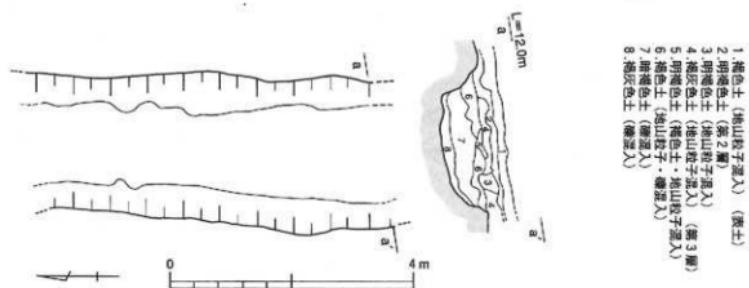
第11図 遺構平面図4 (S = 1 / 120)

丸く折り曲げ玉縁状に仕上げている。12～13は在地の擂鉢で、内外面ナデ調整を施している。12は内面に数条の擂目を残す。口縁部は外反気味に立ち上がる。13は内面に不均等な間隔の擂目を残す。14は瓦質奈良火鉢の浅鉢で、内外面ナデ調整を施し、外面には菊花文と2条の沈線によって区画された珠文帯が残る。口縁部は内側に内湾しながら立ち上がり、端部では平坦面を作る。15は土製支脚の裾部である。欠損部が多く穿孔の有無は不明である。16～17は土鍤である。16は風化のため外面の調整は不明である。直径5mm程度の穿孔を施している。17は直径4mm程度の穿孔を施し、外面はヘラミガキ調整している。18は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデを施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。19は平瓦もしくは在地の壺の破片である。外面に格子タタキが残る。20～21は肥前系陶器で、内外面施釉し、高台周辺を露胎としている。20は胎土目積焼成されたものである。高台は削り出しで、三日月高台としている。21は内面見込みに蛇ノ目ハギを施し、高台は削り出しで、三日月高台としている。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。22～23は肥前系染付である。22は皿で、内外面に染付を施す。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。23は碗で、外面に染付を施し、内外面ともに貫入が入る。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。24は陶胎染付塊で、外面には染付を施し、内外面ともに貫入が入る。高台見込は高台外側より深く繰り込み、高台疊付を露胎としている。

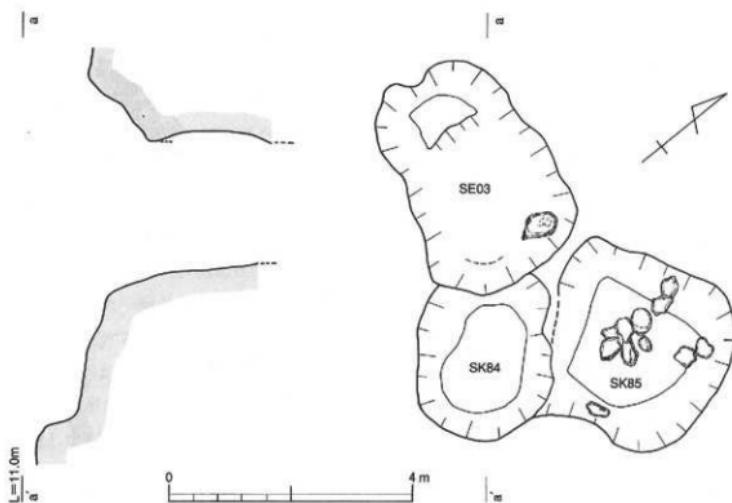
第22図1は擂鉢で、内外面を回転ナデ調整、外面下部を回転ヘラ削り調整し、内面に



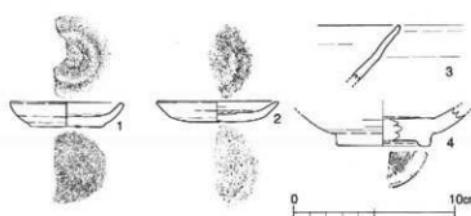
第12図 遺構平面図5 (S = 1 / 120)



第13図 SD15 遺構実測図 ($S = 1 / 80$)



第14図 SE03・SK85・SK84 遺構実測図 ($S = 1 / 80$)



第15図 SE03 出土遺物

は擇目を密に施すが、口縁部付近で一部擇目を施していない。口縁部の立ち上がりは、外方に屈曲した後、若干折り返す。端部は外側に折り曲げて肥厚させている。2は都市型焼成で、内外面をナデ調整し、底部にはヘラ削り調整を施す。口縁部はやや内側に直線的に伸び、端部は丸く仕上げている。3

は瓦質の丸瓦で、凸面にナデ調整を施し、凹面にはコビキ痕及びヘラ状工具痕が残る。凹面及び側面に粘土の接合痕が残る。

<SD 17> (第8、23図)

SD 01と切り合い関係にある遺構で、ほぼ同方向に重なっていることから、溝の大部分を欠損してい

る。切り合い関係からSD 01より古い遺構と考えられる。

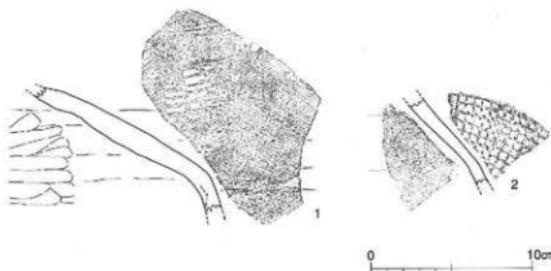
第23図は、鉈状の鉄製品で、土圧のためか大きく湾曲している。柄側には穿孔が施されている。

<SK 08> (第24～25図)

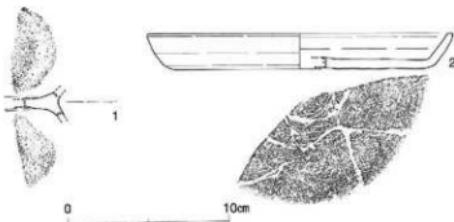
東西0.66m、南北0.62m、深さ約0.7mを測るピットで、床面に東西25cm、南北26cm、厚さ12cmの根石が置かれている。

出土物から13世紀の遺構と考えられる。一方、ピット検出面南隣には、10cm程度の礫が集石されしており、ピットとの関連性も考える必要がある。

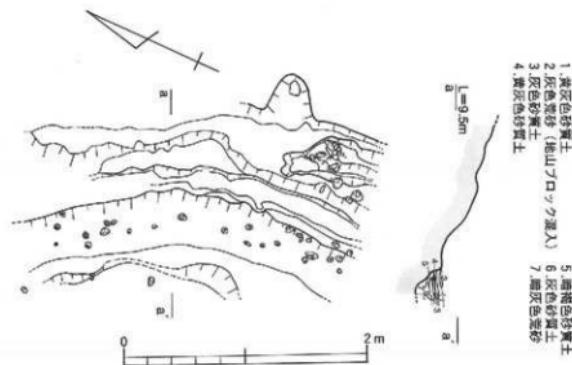
第25図1～3は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施している。



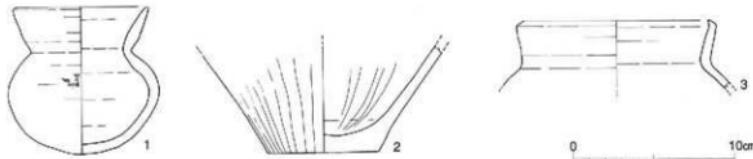
第16図 SK85出土遺物



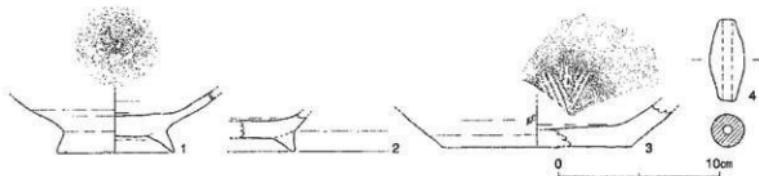
第17図 SK76出土遺物



第18図 SD30遺構実測図 ($S = 1/40$)



第19図 SD30出土遺物



第20図 SD20 · P116 · P120 出土遺物

1は小皿で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2～3は壺で、2は底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3は内面に回転ナデを施した後ナデしている。底部は回転糸切を施した後板目を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がった後、端部内側を尖り気味に仕上げる。内外面にタールが付着しており、燈明具と考えられる。4は在地のものと推定される土器片で、壺の一部と考えられる。内外面ともにナデ調整を施し、外面には文様入りの格子タタキを施している。勝間田焼などの模倣と考えられる。5は在地の捏鉢で、内面はハケ日の後、ナデ調整、外面はハケ日調整を施し、口縁部付近はナデ消している。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部には平坦面を作る。

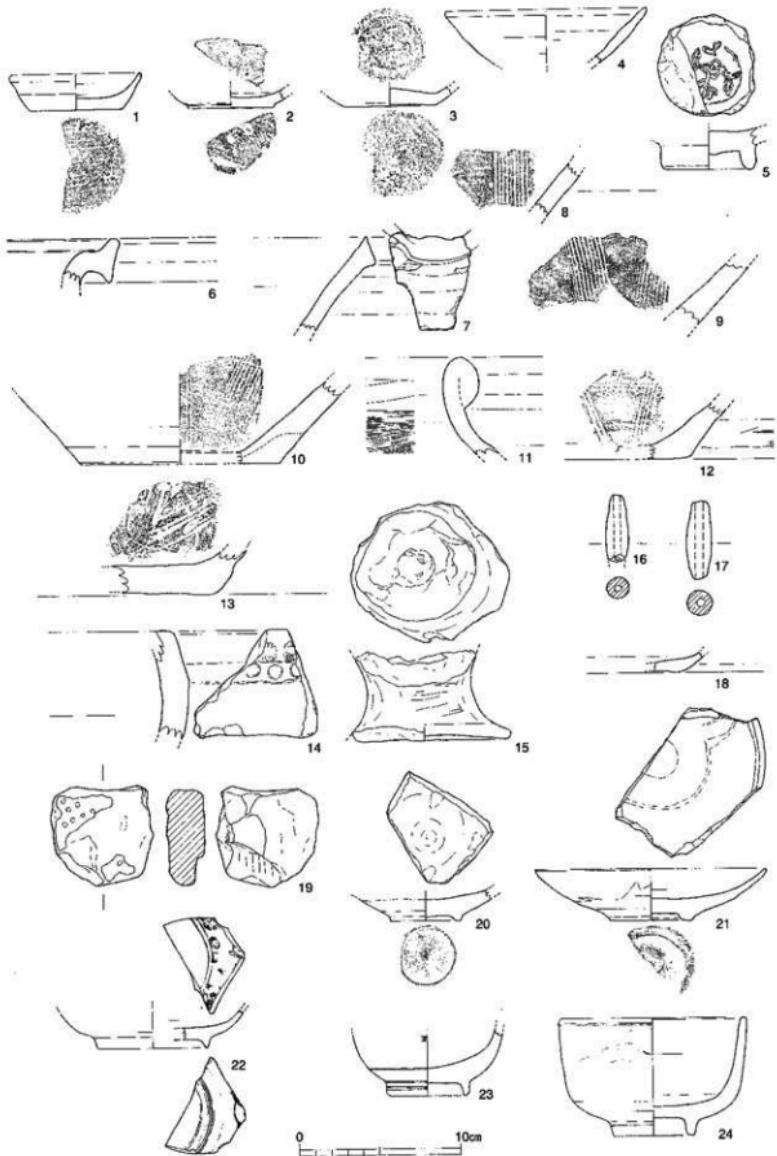
<SE 02> (第26～27図)

縦板方形の井戸枠を持つ井戸で、縦板を支える横木は3重に施されている。井戸枠の規模は、外側の横木外周で、東西1.27m、南北0.47m以上を測るが、横木外側に縦板が残ることから、実際の規模はこの大きさより一回り大きくなるものと考えられる。出土遺物から14世紀後半から15世紀前半の遺構と考えられる。

第27図1～5は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小型の壺で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖らせている。2は小皿の薄手のもので、底部に回転糸切痕が残る。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。内面にタールが付着するため、灯明具と考えられる。3～5は壺で、3～4は底部に回転糸切痕を残す。4は内面にタールが付着するため、燈明具と考えられる。口縁部は内湾しながら立ち上がる。5は底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、器底と内面見込の界線は不明瞭である。6は瓷器系陶器の頸部で、内外面ともにナデ調整を施す。頸部内面には指頭圧痕が残る。7は備前焼壺で、口縁部の玉縁状の部分の一部が出土している。乗岡氏の中世3期から中世4期の遺物と考えられる。外面にナデ調整を施している。8～10は在地土器である。8は内面はナデ調整した後板目を施し、外面はハケ日調整の後指頭圧痕を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。9は擂鉢で、内面にはナデ調整の後、数条の擂目を施し、外面にはハケ日の後、ナデ及び指頭圧痕を施す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。10は土鍋で、内外面ともにハケ日の後ナデを施す。口縁部の立ち上がりは外反するが、端部は欠損している。

<SK 02、SK 03> (第28～29図)

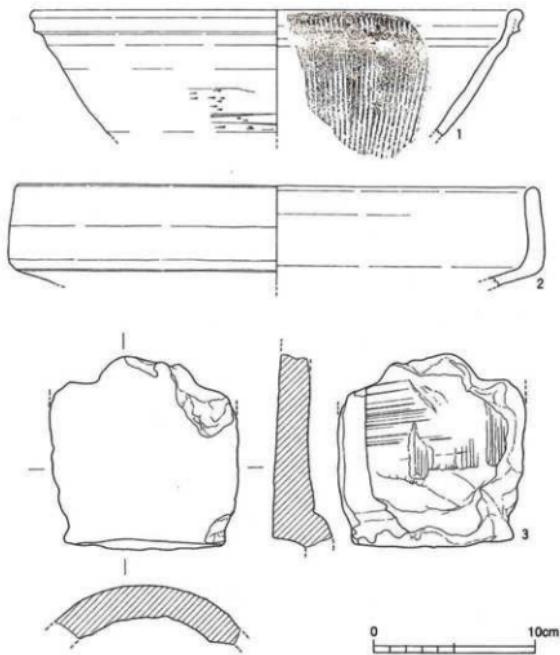
SK 02は東西0.66m、南北0.74m、深さ0.16mを測る土壙で、土師質土器が1点出土している。



第21図 SD01出土遺物 1

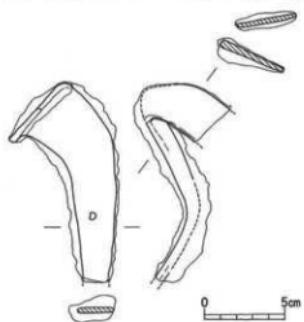
遺構の時期は、出土遺物と SK 03 との切り合い関係から、SK 03 より新しい時期と考えられる。SK 03 は東西 1.34 m 以上、南北 1.16 m、深さ 0.39 m を測る。弥生土器が出土している。

第 29 図 1 は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。2 ~ 4 は弥生土器である。2 ~ 3 は壺の口縁部で、2 は内外面ナデ調整している。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり、端部は肥厚させ上下を尖り気味に仕上げている。端部には刻目文を入れた後、2 条の凹線を入れている。3 は内面は調整不明であるが、外面にはナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは、外反気味に立ち上がり、端部は肥厚させ、上下を尖り気味に仕上げて、3 条の凹線を入れている。4 は壺の底部で、内面

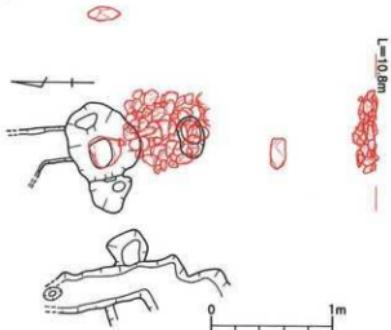


第 22 図 SD01 出土遺物 2

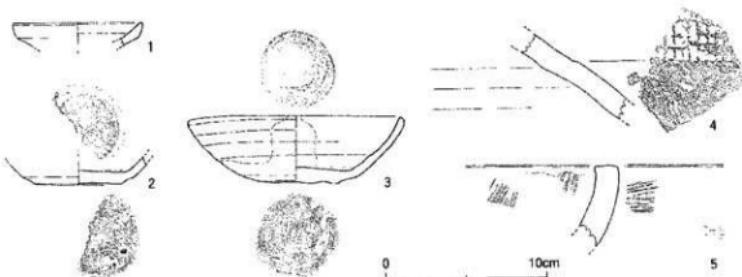
L = 10.8m



第 23 図 SD17 出土遺物



第 24 図 SK08 遺構実測図 (S = 1 / 40)



第25図 SK08出土遺物

は調整不明であるが、外面にはヘラミガキ調整を施している。1はSK02の出土遺物、2～4はSK03の出土遺物である。

<SD13> (第8、30図)

長さ8.9m以上、幅約0.4m、深さ約0.18mを測る溝状造構で、SD12と切り合い関係にある。切り合い関係からSD12より古い遺構と考えられる。近世以降の陶器が出土している。

第30図1は陶器鉢で、外面施釉し、内面見込に砂粒が少量付着する。底部高台は削り出し整形しており、高台見込を高台周辺より深く抉っている。また高台周辺は釉ハギし、露胎を作っている。

<SD12> (第8図)

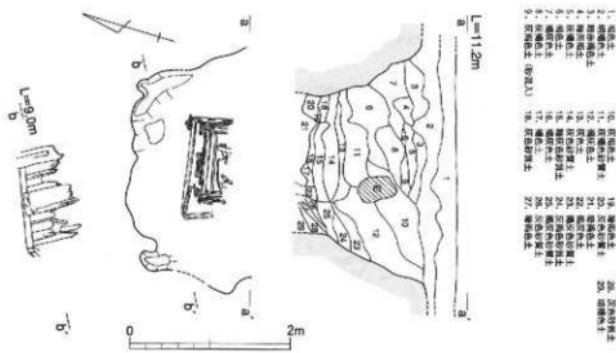
長さ9.88m以上、幅約0.4～0.5m、深さ0.24mを測る溝状造構で、SD13との切り合い関係からSD13より新しい遺構と考えられる。

<SD08> (第31～34図)

長さ5.73m以上、幅2.99m、深さ0.42mを測る溝状造構で、溝の主軸はN～89°～Wを呈し、SD15と垂直関係にある。駒の立ち上がりは、SD15よりも緩やかで、南側にステップ状の平坦面が残る。遺物は土師質土器、埴堀、在地土器、瓦質土器、鉄製品など豊富で、上師質土器の時期から造構の時期は13世紀と考えられる。しかしながら15世紀以前とされる瓦質土器角形火鉢が造構内同層2箇所から出土しており、この火鉢が13世紀まで遡れるか検討の余地がある。

第32図1～11は土師質土器である。1～2は小皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。1は口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。2は口縁部の立ち上がりは内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。外面にタールが付着しており、灯明皿と考えられる。3～11は壺で、3は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切を施した後板目を残す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。4は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面は回転ナデ調整の後ナデしている。底部には回転糸切を施した後板目を残す。口縁部の立ち上がりは内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。5～11は内外面ともに回転ナデ調整し、底部には回転糸切痕を残す。5は内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。6は口縁部の立ち上がりは中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕

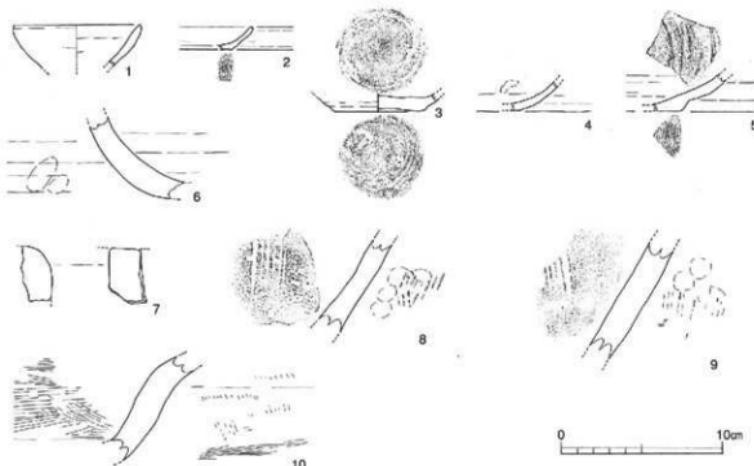
上げている。内外面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。7、9は口縁部の立ち上がりは中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせていている。9は内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。8は口縁部



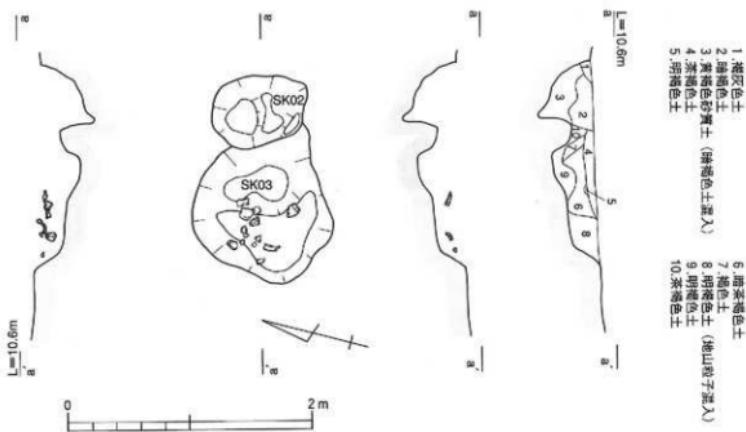
第26図 SE02 遺構実測図 ($S = 1/60$)

の立ち上がりは、中程の括れのところから内湾し、直立的に立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。10は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部で内側に巻き込んで尖らせている。内外面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。11は口縁部の立ち上がりは中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部で内側に巻き込んで尖り気味に仕上げている。12は壇堀で、内面には金属滓が付着する。緑青を吹いており銅滓と考えられる。

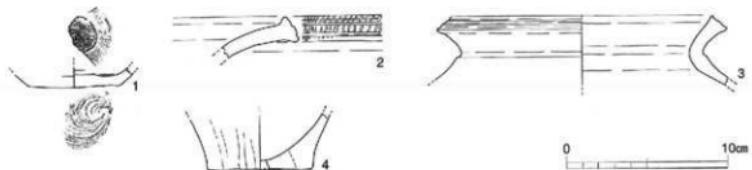
第33図1~4は在地土器である。1~2は捏鉢で、内外面ともにハケ調整した後、ナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、端部をナデ調整し平坦面を作っている。3~4は擂鉢で、3は内面は口縁部から体部にかけてハケ目調整を施し、体部にナデ調整を施した後擂目を入れ



第27図 SE02 出土遺物



第28図 SK02・SK03遺構実測図 ($S = 1/40$)



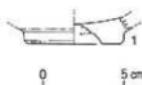
第29図 SK02・SK03出土遺物

れている。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、口唇部で内側にやや屈曲する。端部はナデ調整を施し平坦面を作っている。4は内外面ともにナデ調整を施し、体部内面には擂目が残る。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部はナデ調整を施して平坦面を作っている。5は瓦質の奈良火鉢で、角型のものである。内面はナデ調整し、外面はナデ調整及びヘラミガキ調整した後菊花文を施している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び、端部を肥厚させて平坦面を作っている。6は瓦質土器の擂鉢で、内面はナデ調整した後擂目を施し、外面には粗いナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がる。7は砥石で、3面を使用面としていたと考えられる。

第34図1～11は鉄製品である。1～10は鉄釘で、断面方形の角釘である。釘頭の形態は1～2、5、8がL字形、4、6がT字型、3は不明で、7、9～10は釘頭が欠損している。11は刀子または鉄刃の残片で、片側に刃が作られている。

<SD07、SD09、SD10> (第9、35図)

3条とともにトレンチ状を呈す。SD07は長さ4.0m、幅約0.4m、深さ約0.15m、SD09は長さ3.7m、幅約0.4m、深さ約0.25m、SD10は長さ3.71m、幅約0.4m、深さ約0.15mを測る。それぞれから少量の土師質土器が出土しており、近世以降の遺物を混入していないが、付近では最近まで長



第30図 SD13出土遺物

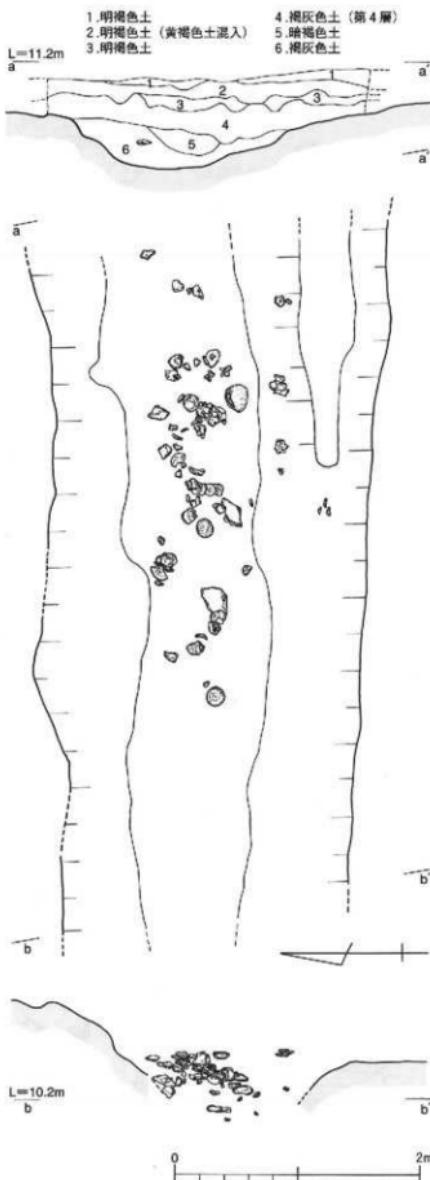
芋畠が盛んに作られていたため、長芋畠の名残である可能性もある。

第35図1～5は土師質土器で、1～3、5は壺である。1は内外面ともに回転ナデを施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部をやや肥厚させ尖り気味に仕上げる。2は内面は回転ナデの後ナデを施し、外面には回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕が残る。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3、5は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。3は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。5は立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4は小皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び、端部は肥厚させて尖り気味に仕上げている。1～2はSD 09、3はSD 10、4～5はSD 07の出土物である。

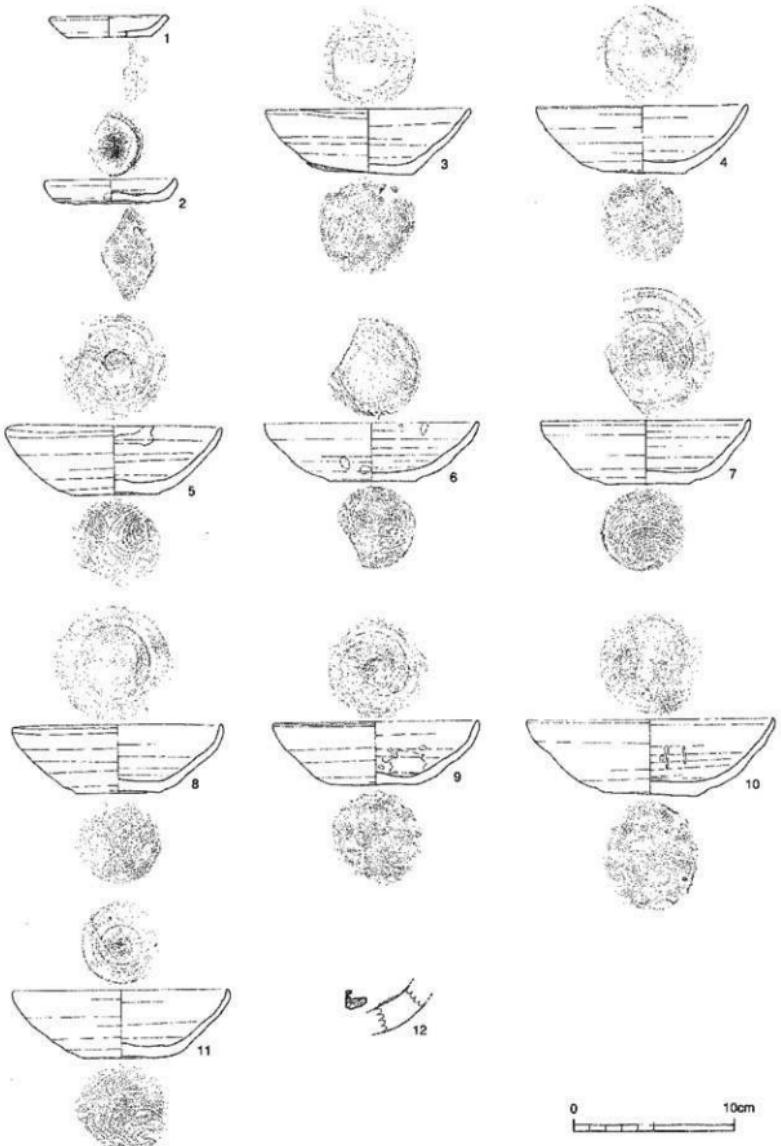
<土器溜>（第9～10、36図）

長さ7.6m以上、幅4.2m以上、深さ0.74m以上を測る土器溜で、埋土に包含層④層が堆積していた。

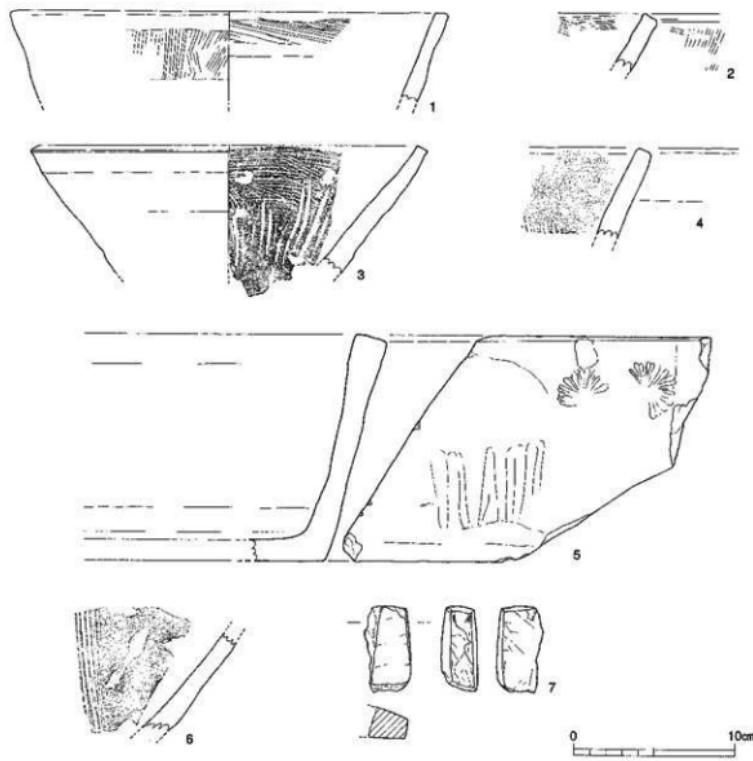
第36図1～5は土師質土器である。1は小皿で、内外面ともに回転ナデを施し、底部には回転糸切痕が残る。口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。底部と器壁の境界に括れを作る。2～5は壺である。2～3は内外面回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。2は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3は器壁中程で外側に屈曲し直線的に伸びる。4は内外面回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、



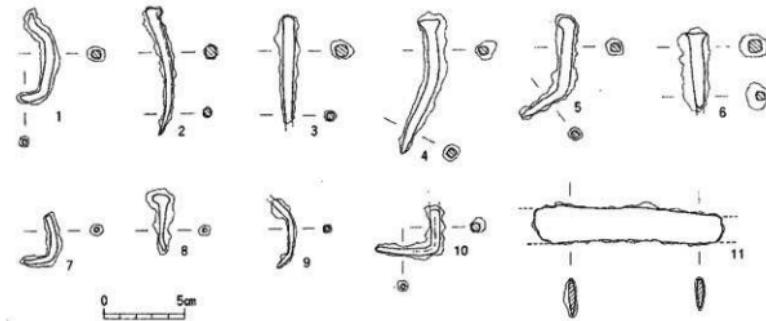
第31図 SD08遺構実測図 (S = 1 / 40)



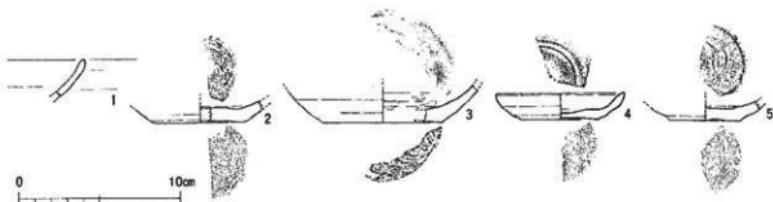
第32図 SD08出土遺物 1



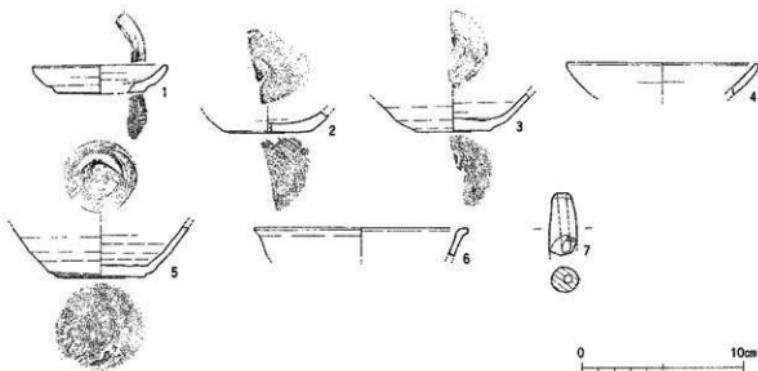
第33図 SD08出土遺物2



第34図 SD08出土遺物3



第35図 SD07・SD09・SD10出土遺物



第36図 土器窯出土遺物

内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。5は内面は回転ナデ調整の後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。6は白磁碗の口縁部で、内外面施釉している。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がった後、やや肥厚させた端部を外方に屈曲させている。7は土錘で、外面をヘラミガキ調整し赤彩している。径4.5～5.5mmの梢円状の穿孔をしている。

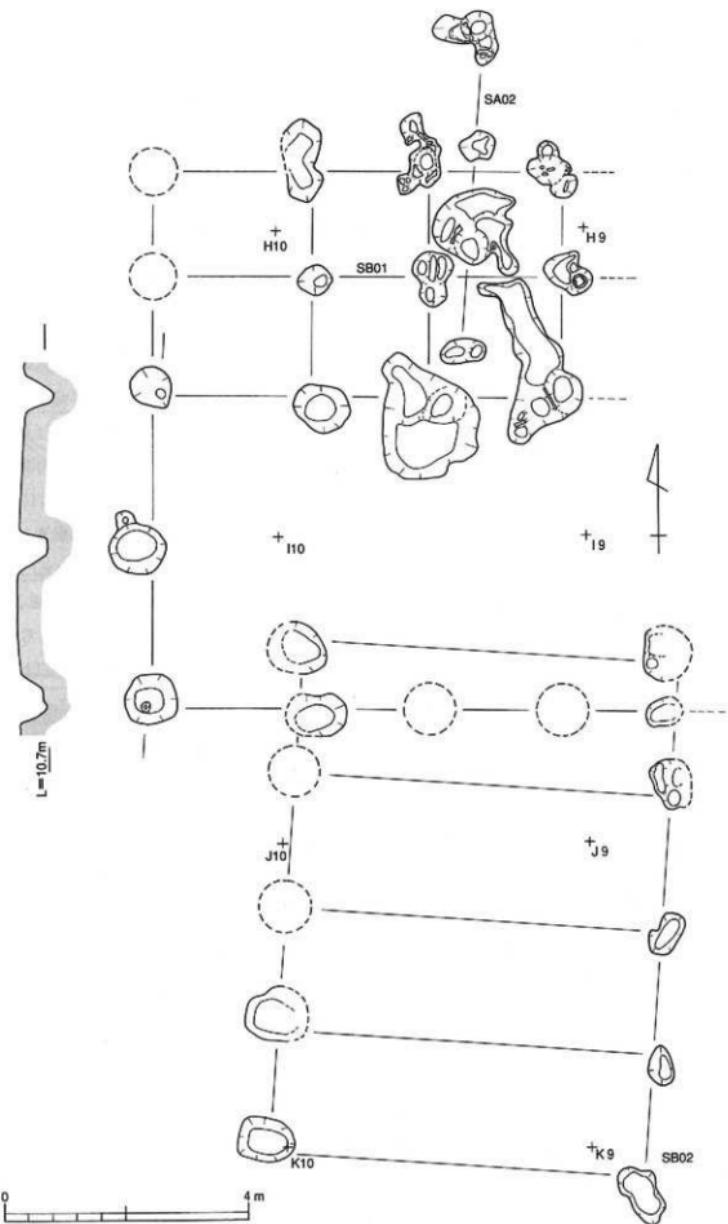
<SA 02> (第37～38図)

柱間約1.8m、3間の横列で、主軸はN～5°～Eを呈す。SB 01と重複していることから、SB 01とは時期差があるものと考えられる。

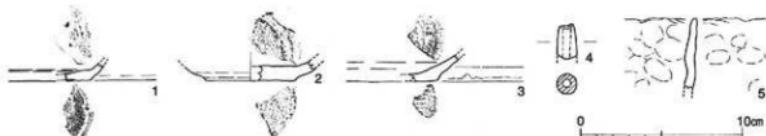
第38図1～3は土師質土器である。1は小皿で、内面は回転ナデ調整の後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕の後板目を残す。2～3は壊で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。2は内湾気味に立ち上がり、3は外方に直線的に立ち上がる。4は外面をヘラミガキ調整し、直径5mm程度の穿孔を施す。5は製塩土器で、内面にナデ調整及び指頭圧痕、外面に指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、口唇部の屈曲部から外方に直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げる。

<SB 01> (第37、39図)

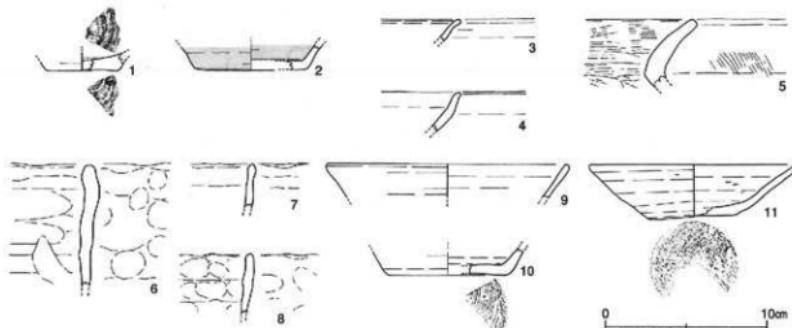
2×2間以上の総柱部分と2×4間以上の側柱建物跡が結合した状態で検出されており、寺の本堂になると考へられる。総柱部分は本堂の内陣と考えられる部分で、東端のピット1穴の床面に平石



第37図 SA02・SB02・SB01遺構実測図 ($S = 1 / 80$)



第38図 SA02 出土遺物



第39図 SB01 出土遺物

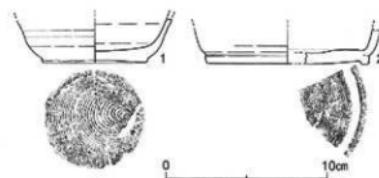
が埋設されている。平石は唯一残った根石の可能性もあるが、本堂遺構の内陣には、中央から外した位置に地鎮のための石を埋設する例があり、この遺構もその可能性を考える必要がある。内陣の両側には脇陣があると推定されたが検出できなかった。側柱部分は、この脇陣と内

第40図 P44 出土遺物

陣に対応して南側に伸びるものと考えられ、本堂の外陣にあたる部分と考えられる。建物の軸は南北でN~1° ~E、東西でN~89° ~Wで、SD 15及びSD 08の軸との平行関係で一致する。遺物の時期と建物の平行関係から13世紀の遺構と考えられる。

第39図1~4、9~10は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小皿、2~4、9~10は壺で、このうち2~3、9は赤彩土器である。1は底部に糸切痕が残る。2は内面に赤彩を施す。底部の調整は不明で、立ち上がりは外反気味に立ち上がる。3、9は内外面に赤彩を施す。3は口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がった後外傾する。9は口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部を肥厚させ丸く仕上げている。4は口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がった後外反させ、端部は丸く仕上げている。10は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程で外方に屈曲し直線的に伸び、端部は尖り気味に仕上げている。内面に少量の漆が付着している。5は土師器甕で、内面は口縁部から頸部にハケ調整を施し、体部にヘラ削り調整を施す。外面は口縁部にナデ調整を施し、頸部にハケ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外反しながら立ち

第40図 P44 出土遺物



第41図 SB02 出土遺物

上がり、端部を平坦気味に仕上げている。6～8は製塙土器である。6は内面にナデ調整、外面に指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは口唇部で内傾し、端部は丸く仕上げている。7は内面にナデ調整、外面に粗いナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外形気味に立ち上がり、端部は肥厚させ尖り気味に仕上げている。8は内外面に指頭圧痕を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。11は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。1～8は内陣の出土遺物、9～11は外陣の出土遺物である。

<P 44> (第 10、40 図)

土錐の破片が 1 点出土している。周辺は土錐の出土率がやや高い。SB 01 と重複していることから、SB 01 とは時期差があるものと考えられる。

第 40 図は土錐で、外面にヘラミガキを施す。直径 5 mm 程度の穿孔を施している。

<SB 02> (第 37、41 図)

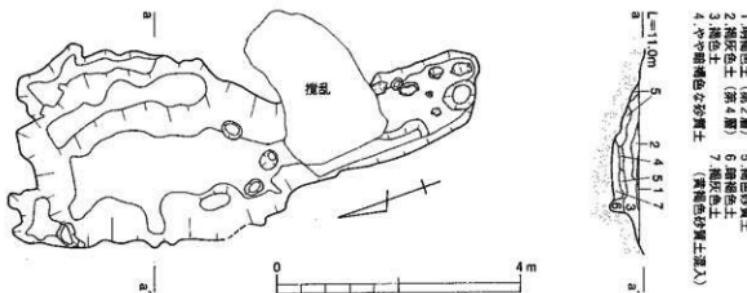
4 × 1 m 以上の建物跡で、建物の軸は南北で N ~ 4° ~ E、東西で N ~ 86° ~ W で、SA 02 の軸と平行関係で一致する。

第 41 図 1 は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。2 は須恵器坏で、内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデを施している。底部は回転ヘラ切りを施した後高台を接合している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。

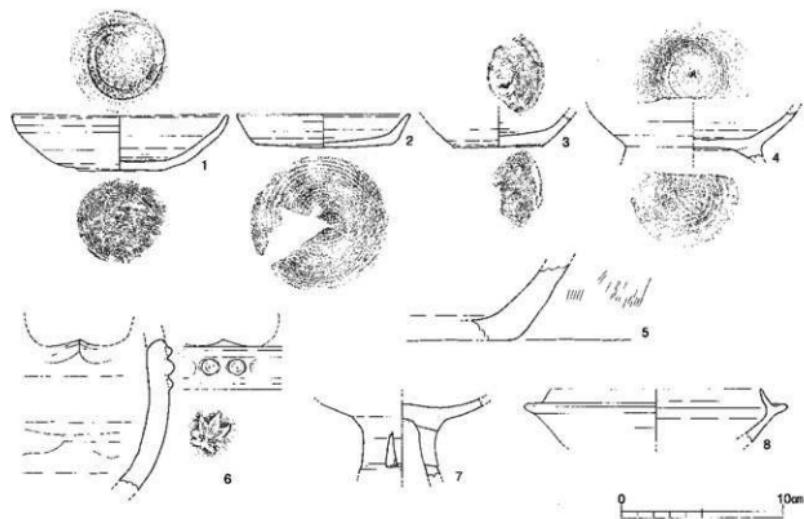
<SK 38> (第 42 ~ 43 図)

長さ 8.1 m、幅 3.34 m、深さ 0.5 m の南北縦長の土壌で、瓦質土器風炉等が出土している。

第 43 図 1 ~ 4 は土師質土器坏で、1 は内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデを施している。底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程で括れ内湾気味に立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。2 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。底部に少量の朱が付着する。口縁部の立ち上がりは外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。3 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。4 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を貼り付けて回転ナデ調整している。内面に少量のタールが付着しており、灯明具の可能性がある。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5 は在地土器捏鉢で、内面にナデ調整、外面は底部周辺でナデ調整、体部



第 42 図 SK38 遺構実測図 (S = 1 / 80)



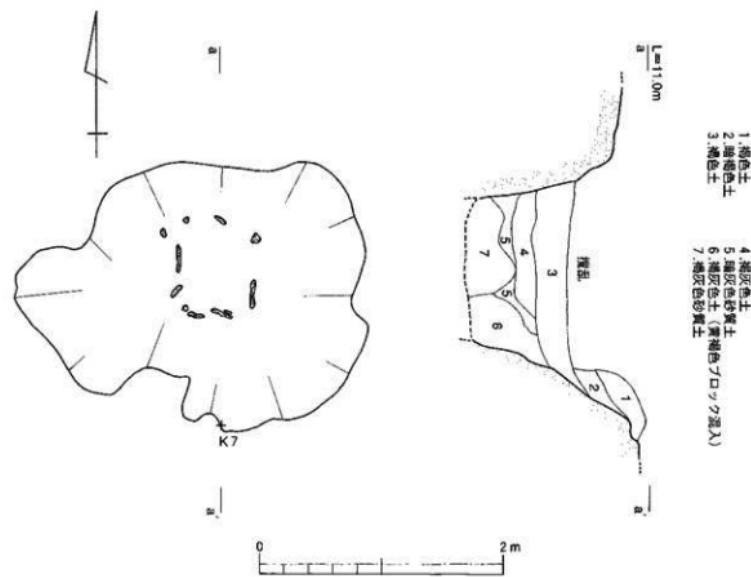
第43図 SK38出土遺物

でハケ日調整を施している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。6は瓦質土器風炉である。内面に粗いナデ調整、外面にナデ調整及びヘラミガキ調整を施し、2条の貼付突帯の間に珠文を貼付している。貼付突帯の上部には透かしの一部が残り、下部には紅葉のスタンプ文が施されている。7～8は須恵器である。7は高坏で、内面は回転ナデ調整の後ナデ調整し、外面は回転ナデ調整を施している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。脚部は3方向に三角透かしを施し、透かしの下に1条の沈線を残す。8は坏身で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。11縁部のかえりは反り上がるよう立ち上がり、端部は尖らせている。

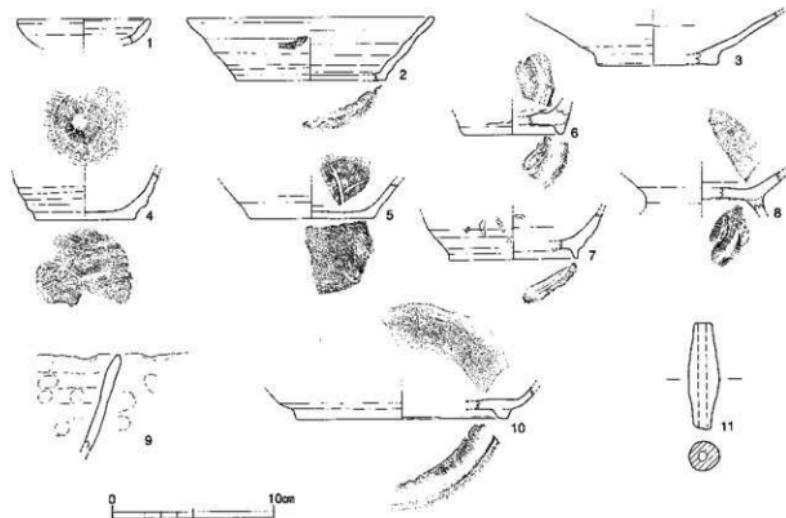
<SE 01> (第44～45図)

井戸枠は残存状況が悪いものの、元位置の井戸枠と杭から復元すると、方形状の井戸枠になるものと考えられる。上面は後世の搅乱により削平されているが、堀方は現状で東西2.9m、南北2.2mを測る。塙の立ち上がりは、北側で外反しながら立ち上がり、南側で外反気味に立ち上がる。遺物から13～14世紀の遺構と考えられる。

第45図1～8は土師質土器で、1～3、5～8は内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小皿で、口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げている。2～8は坏である。2は内外面に朱を施した後、外面に墨書きを施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。3は外方に直線的に立ち上がる。底部を強調して作っており、器壁と内面見込の界線は明確でない。4は内面に回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面には回転ナデ調整を施す。底部には静止糸切痕が残る。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は底部に回転糸切痕、内面見込にヘラ状工具痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。6は底部に高台を後付し、ナデ調整している。7は底部に高



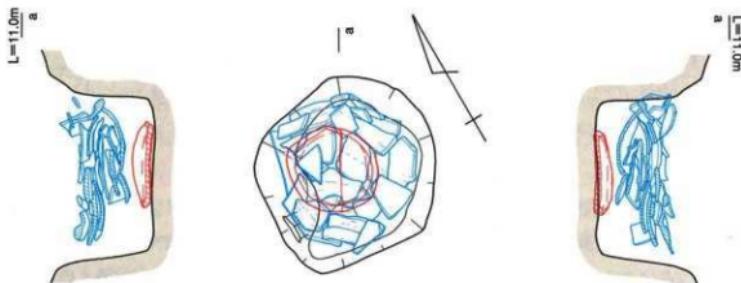
第44図 SEO1 遺構実測図 ($S = 1/40$)



第45図 SEO1 出土遺物

台を作り、高台見込には回転ヘラ削り調整を施す。内外面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。8は底部に回転糸切を施した後高台を後付し、回転ナデ調整を施している。内面には少量の朱が付着している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。9は製塩土器で、内面はナデ調整の後、指頭圧痕を施し、外面には指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。10は須恵器盤で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を後付けして、ナデ調整している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。11は土錘で、外面にはヘラミガキ調整を施す。径5.0～5.5mmの穿孔を施す。

<SK 41> (第46～47図)



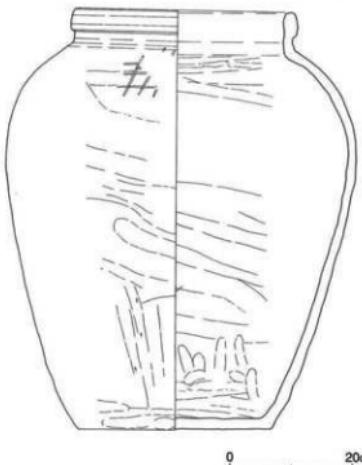
第46図 SK41 遺構実測図 ($S = 1/20$)

備前焼の大壺を埋設していたと考えられる土壤で、上面は後世の搅乱により削平されている。掘方は現状で東西0.76m、南北0.74m、深さ0.43mの平面隅丸五角形状を呈す。埋土中には同一個体の備前焼壺片が大量に混入しており、床面には底部片が元位置で残存していた。大壺の時期から15世紀後半の遺構と考えられる。

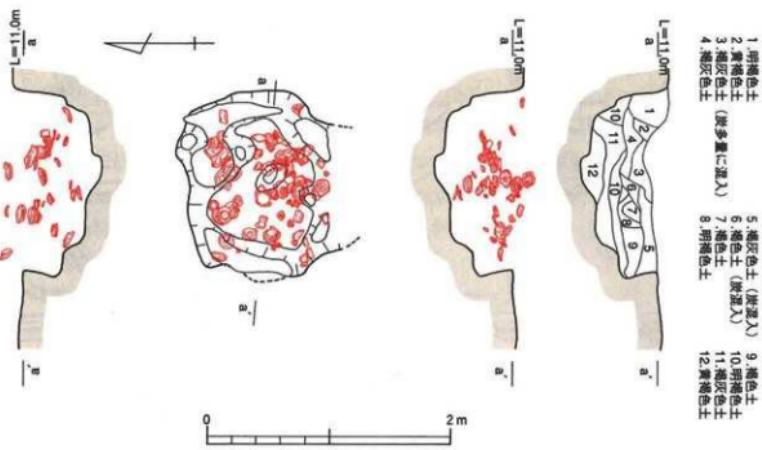
第47図は備前焼の壺で、内外面ともにナデ調整を施し、肩部にヘラ描きの窯印を残す。口縁部は直立的に立ち上がり、玉縁状の口縁を作る。端部は平坦気味に仕上げている。乗岡氏の編年の中世5期に相当する遺物と考えられる。

<SK 09> (第48～51図)

多量の遺物を含む土壤で、上面は後世の搅乱により削平されているが、現状で東西1.56m、南北1.36m以



第47図 SK41 出土遺物

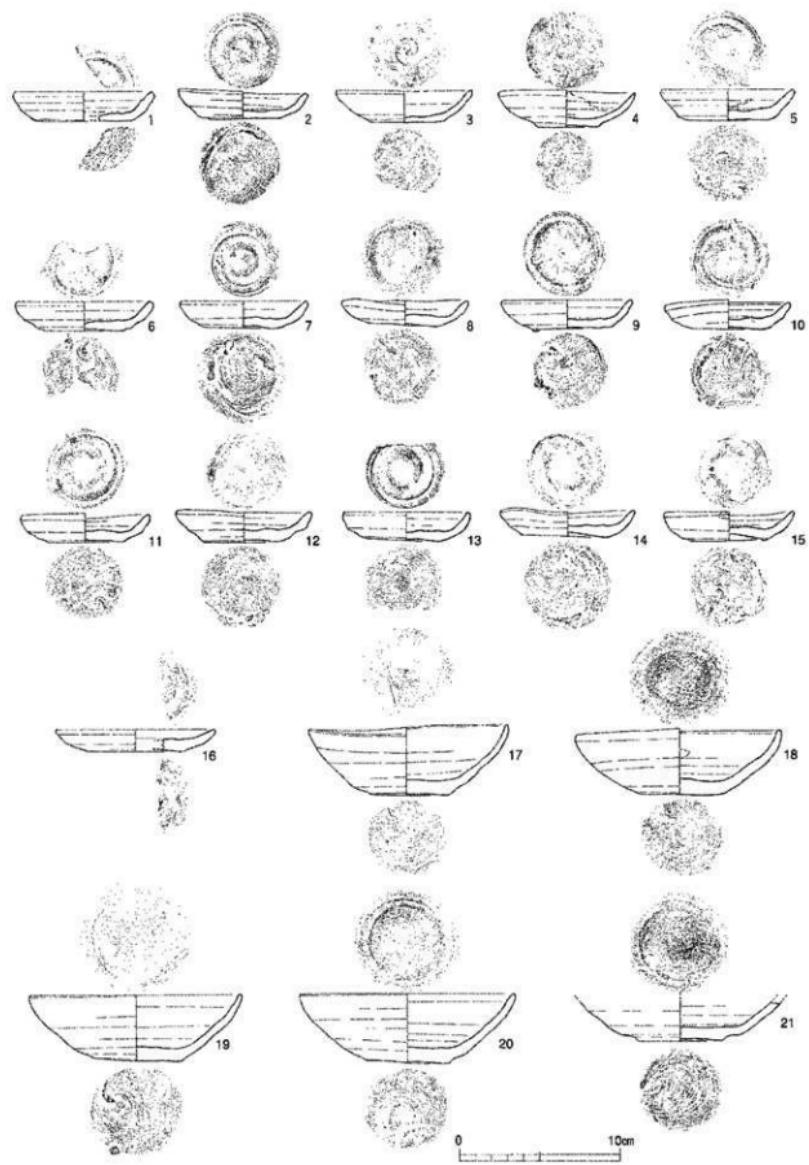


第48図 SK09 遺構実測図 ($S = 1/40$)

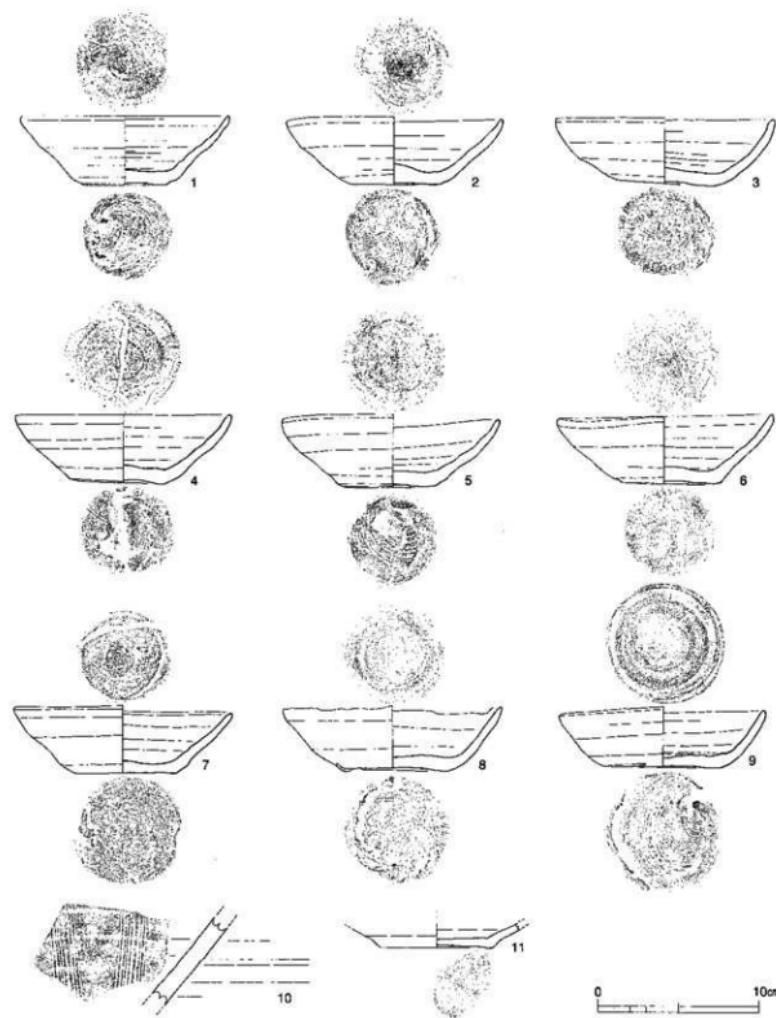
上、深さ 0.72 m を測る。床面は中央に向かって壇状に落ち込み、壁は西側で袋状に、東側で内湾気味に立ち上がる。遺物の時期から 13世紀の遺構と考えられる。

第49図1~21は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。1~16は小皿である。1~3、6、11~13、15~16は口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がる。1は端部を平坦気味に、2は端部を尖り気味に、3は端部を尖らせている。3は口縁部内面にタールが付着しており灯明具と考えられる。6は端部をやや肥厚させ丸く仕上げている。11は端部を尖り気味に、13は端部を丸めに、12、15、16は端部を丸く仕上げている。12は内面見込にヘラ状工具痕を残す。15は外面にタールが付着しており灯明具と考えられる。4は口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。内外面にタールが付着しており灯明具と考えられる。5、7~10、14は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がる。5、7、9は端部を尖り気味に仕上げている。5は内面にタールが付着しており灯明具と考えられる。8は端部をやや肥厚させ丸く仕上げている。10は端部を丸めに仕上げ、14は端部を丸く仕上げている。17~21は壊である。17~18は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。18は内外面にタールが付着しており灯明具と考えられる。19は口縁部の立ち上がりは、器壁中程周辺から内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げている。20は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。内面にタールが付着しており灯明具と考えられる。21は立ち上がりは外方に直線的に伸びる。

第50図1~9は土師質土器壊である。1~2、4は内外面回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。4は内面にタールが少量付着しており、灯明具の可能性がある。3は内外面回転ナデ調整を施し、底部は回転糸切の後板目を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げる。内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。5~6は内面は



第49図 SKO9出土遺物 1



第50図 SK09出土遺物2

回転ナデ調整の後ナデを施し、外面は回転ナデ調整している。底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、5は器壁や下方の括れのところから内湾しながら、6は内湾気味に立ち上がる。端部は丸めに仕上げている。5は内面にタールが付着しており、灯明具と考えられる。7～9は内外面回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。7は口縁部の立ち上がりは、器壁や下方の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。8～9は口縁部の立ち上が

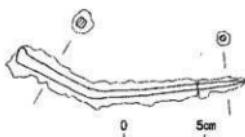
りは、外方に直線的に伸び、8は端部を尖り気味に、9は端部を丸めに仕上げている。10は陶器擂鉢で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面には一単位8条の擂目を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。上面攪乱土からの混入遺物である可能性もある。11は須恵器皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。

第51図は鉄釘で、釘頭がL字形のものである。

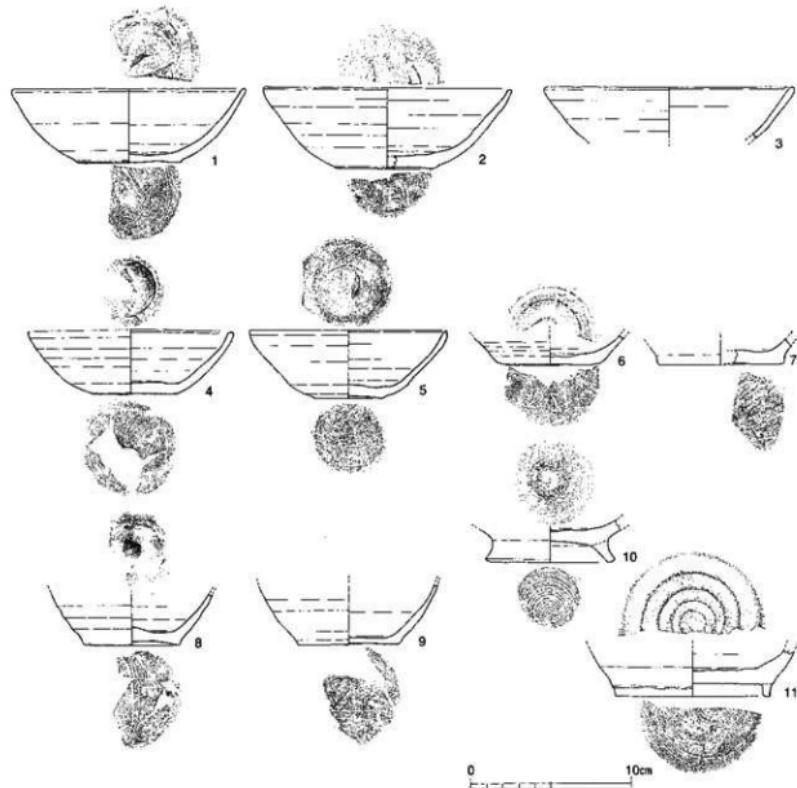
<SK 93> (第11、52図)

東西2.08m、南北0.96m以上の土壙で、遺物の時期から13世紀の遺構と考えられる。

第52図1~10は土師質土器坏である。1~2は内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。1は底部には回転糸切の後板目を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直



第51図 SK09出土遺物3



第52図 SK93出土遺物

線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。2は底部には回転糸切の後ナデを施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部で内側に屈曲し尖り気味に仕上げる。3は内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がりやや肥厚させる。端部は丸く仕上げている。4は内面に回転ナデ調整を施し、外面には回転ナデ調整の後一部にハケ目を施す。底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、口唇部で内側に屈曲する。端部は丸く仕上げている。5は内面は回転ナデ調整を施した後ナデを施し、外面は回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。6～10は内外面ともに回転ナデ調整を施す。6は底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。7～9は底部に静止糸切痕を残す。7は外面に赤彩を施す。8は内湾気味に立ち上がり、9は内湾しながら立ち上がる。10は底部に回転糸切を施した後、高台を後付している。11は須恵器瓶または鉢の底部で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切を施した後、

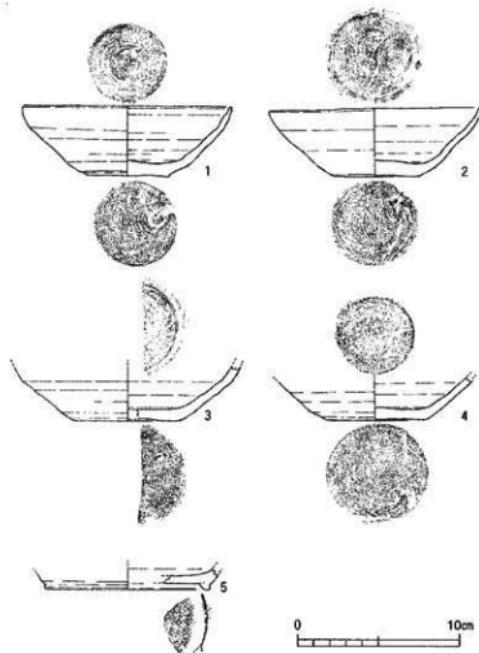
高台を後付している。立ち上がりは内

湾気味に立ち上がる。

<SX 03> (第 11、53 図)

上面は後世の搅乱により削平されていいるが、現状で平面プランは東西 3.4 m、南北 3.05 m 以上を測る。遺構の時期は出土遺物から 13 世紀と考えられる。

第 53 図 1～4 は上師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1、3 は底部に回転糸切痕を残す。1 は口縁部は器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、口縁部内側を強くナデしている。端部は尖らせている。3 は口縁部の立ち上がりは、口唇部で内側に屈曲させている。2、4 は底部に回転糸切を施した後板目を残す。2 は口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。4 は外方に直線的に立ち上がる。5 は

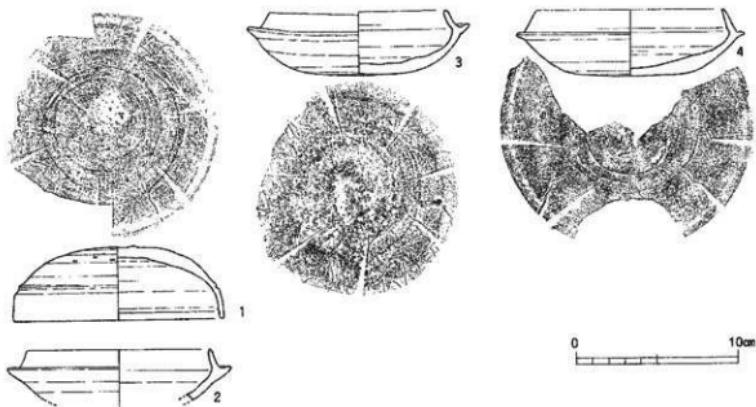


第 53 図 SX03 出土遺物

須恵器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に高台を貼付している。

<SK 96> (第 11、54 図)

東西 0.7 m、南北 0.46 m、深さ約 0.3 m を測る土壇で、遺構内上層から須恵器蓋坏の一括遺物を確



第54図 SK96出土遺物

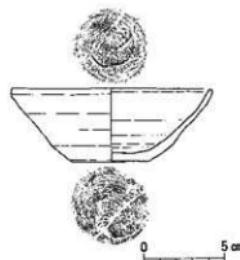
認している。遺物の時期から6世紀後半頃の遺構と考えられる。

第54図1～4は須恵器蓋坏である。1は蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施すが、天井部は内面にナデ調整、外面に回転ヘラ削り調整を施す。外面には自然釉が付着する。口縁部は内湾しながら立ち上がり、外面に1条の稜線をナデ出している。口縁部内面には1条の沈線を施し、端部は丸く仕上げている。2～4は坏身である。2は1とセット関係にあると考えられる遺物で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面には自然釉が付着する。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、かえりで徐々に直立気味となる。端部は尖り気味に仕上げている。3～4は内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込にナデ調整を施す。3は口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、かえりで徐々に直立気味となる。端部は丸く仕上げている。底部外面に自然釉が多量に付着している。4は底部外面に回転ヘラ切りを施す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、かえりは内側に直線的に伸びる。端部は尖らせている。

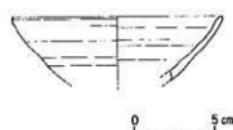
<SX04> (第11、55図)

東西1.79m、南北2.23mを測る土壌で、遺構内から13世紀の土師質土器が出土している。

第55図は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。口縁部は器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。



第55図 SX04出土遺物



第56図 SK103出土遺物

<SK 103> (第 11、56 図)

東西 0.41 m、南北 0.61 m、深さ約 0.4 m の土壤で、平面プランは南北に長くなっている。少量の土師質土器片が出土している。

第 56 図は土師質土器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、器壁中程の括れのところから内湾気味に立ち上がる。端部は丸く仕上げている。

<SK 159> (第 11、57 図)

東西 1.71 m、南北 2.06 m、深さ約 0.25 m を測る土壤である。少量の土師質土器片が出土している。

第 57 図 1～2 は、土師質土器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、立ち上がりは外方に直線的に伸びる。2 は底部に高台を貼付している。

<SK 161> (第 11、58 図)

東西 0.89 m、南北 0.52 m 以上、深さ約 0.25 m を測る土壤である。土師質土器及び瓦質土器が少量出土している。

第 58 図 1～2 は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1 は小皿で、口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。2 は壺で、底部に回転糸切を施した後板目を残す。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。3 は瓦質土器火鉢で、内面及び底部にナデ調整を施すが、外面は風化が著しく調整不明である。底部に脚部を後付している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。

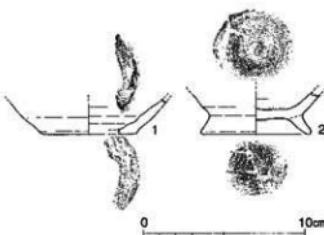
<SK 163> (第 11、59 図)

東西 0.74 m、南北 0.63 m、深さ約 0.15 m を測る土壤である。土師質土器及び須恵器が少量出土している。

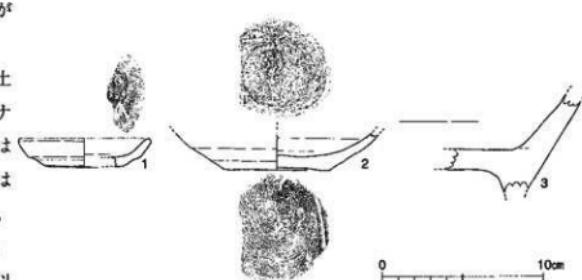
第 59 図 1～2 は土師質土器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1 は底部は風化が著しいものの板目の痕跡が残る。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。2 は底部に回転糸切痕を残す。3 は須恵器壺で、内外面ともに回転ナデを施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。

<鍛冶炉 1> (第 60～61 図)

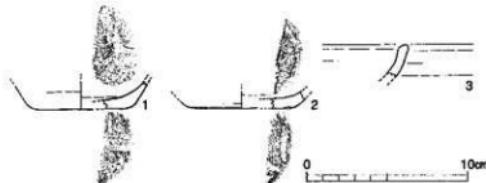
東西 0.74 m、南北 1.01 m、深さ 0.35 m を測る土壤である。周辺からは鍛造薄片が多数検出されており、鍛冶炉と考えられる。遺構内から土師質土器片と在地の奈良火鉢が出土している。



第 57 図 SK 159 出土遺物



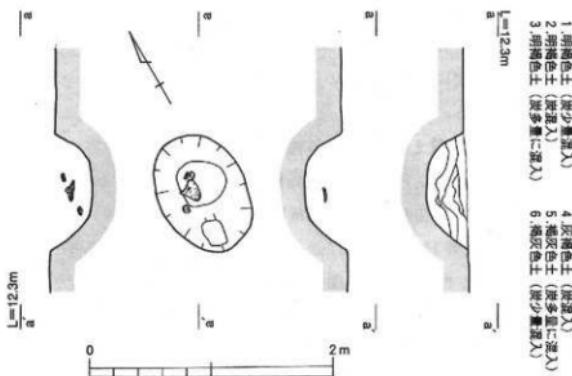
第 58 図 SK 161 出土遺物



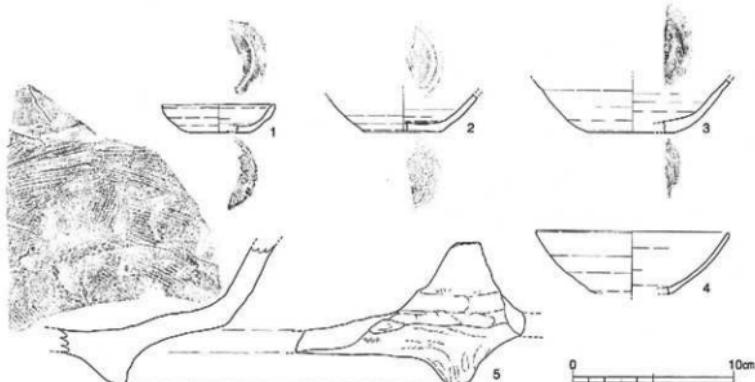
第 59 図 SK 163 出土遺物

第61図1～4は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、1～2、4は底部に回転糸切痕が残る。1は小皿で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を肥厚させて尖り気味に仕上げる。2～4は坏である。2は内湾気味に立ち上がる。

3は口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。4は口縁部の立ち上がりは、口唇部で外側に屈曲する。5は在地土器火鉢で、内面は器壁にナデ調整を、見込にハケ目調整を施す。外面は器壁にハケ目調整の後ナデ調整を施し、器壁と底部の界線上部では、2条の強いナデ調整を施している。底部には脚を貼付し、ハケ目調整の後ヘラミガキ調整を施している。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。



第60図 鋼冶炉1遺構実測図 (S = 1 / 40)



第61図 鋼冶炉1出土遺物

<鋳冶炉2> (第62～63図)

東西0.7m、南北0.79m、深さ0.33mを測る土壤である。周辺からは鍛造薄片が多数検出されており、鋳冶炉と考えられる。遺構内から土師質土器片と円筒埴輪片が出土している。

第63図1～2は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。2は底部に回転糸切痕が残り、内面見込にはタールが付着している可能性がある。立ち上がりは口唇部で外側に屈曲する。3は円筒埴輪で、透かし及びタガが残る。

<SD 28> (第 11、64 図)

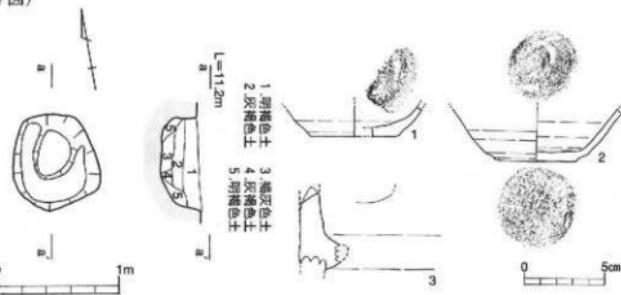
長さ 2.1m 以上、幅約 0.4 m を測る溝状遺構である。少量の土師質土器片が出土している。

第 64 図は土師質土器坏である。風化が著しいが、内外面には回転ナデ調整を施していると考えられる。

<SD 29> (第 65 ~ 67 図)

長さ 6.22 m 以上、幅 5.52 m 以上、深さ 1.62 m 以上を測る自然河道で、西側の壁は緩やかに立ち上がる。埋土は黒色系粘土と灰色系粘土または砂質土が互層となっており、堆積土による河道規模縮小の過程で、岸辺が湿地となった面が残る。西岸のこの面からは 200 以上の小ピットを検出した。その大半は岸辺に生じた植物の痕跡と考えられるが、杭跡も含まれており護岸していた可能性もある。河道からは埋土の最下層から松本岩雄氏の弥生土器編年の中の V-4 の壺片が出土しており、遺物と溝の方向から SD 30 と一連の河道である可能性がある。

第 67 図 1 ~ 12 は弥生土器である。1 は把手付短頸壺で、立ち上がりは内側に内湾しながら立ち上がる。2 ~ 11 は壺である。2 は口縁部から頸部の内面にハケ目調整、外側にナデ調整を施し、体部は内面にヘラ削り調整、外側にハケ目調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。外面にススが付着する。3 は口縁部から頸部の内外面及び体部外側にナデ調整を施し、体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を内側に丸く仕上げている。4 は口縁部から頸部の内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラ削り調整、外側にハケ目調整を施す。頸部には貼付突帯が施され、口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、3 条の凹線



第 62 図 鐵冶炉 2 造構実測図 (S=1/40)

第 63 図 鐵冶炉 2 出土遺物



第 64 図 SD 28 出土遺物



第 65 図 SD 29 造構実測図 1 (S=1/80)

を施している。5は内外面ともにナデ調整している。口縁部は複合口縁を呈し、端部は外傾させて丸く仕上げる。外面にススが付着する。6～7、10～11は口縁部から頸部内外面にナデ調整を施している。6は口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、2条の凹線を施している。7は体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を上部に拡張させて、1条の凹

1. 黄褐色粘土
2. 深褐色粘土
3. 暗褐色粘土
4. 灰褐色砂質土
5. 黑褐色粘土
6. 灰褐色礫層
7. 灰褐色砂質土(礫多量に混入)
8. 浅褐色粘土(地山粒子混入)
9. 黄灰色砂質土(礫混入)
10. 雪灰色土
11. 底褐色砂質土(礫混入)
12. 底色砂質土(礫混入)
13. 底色砂質土



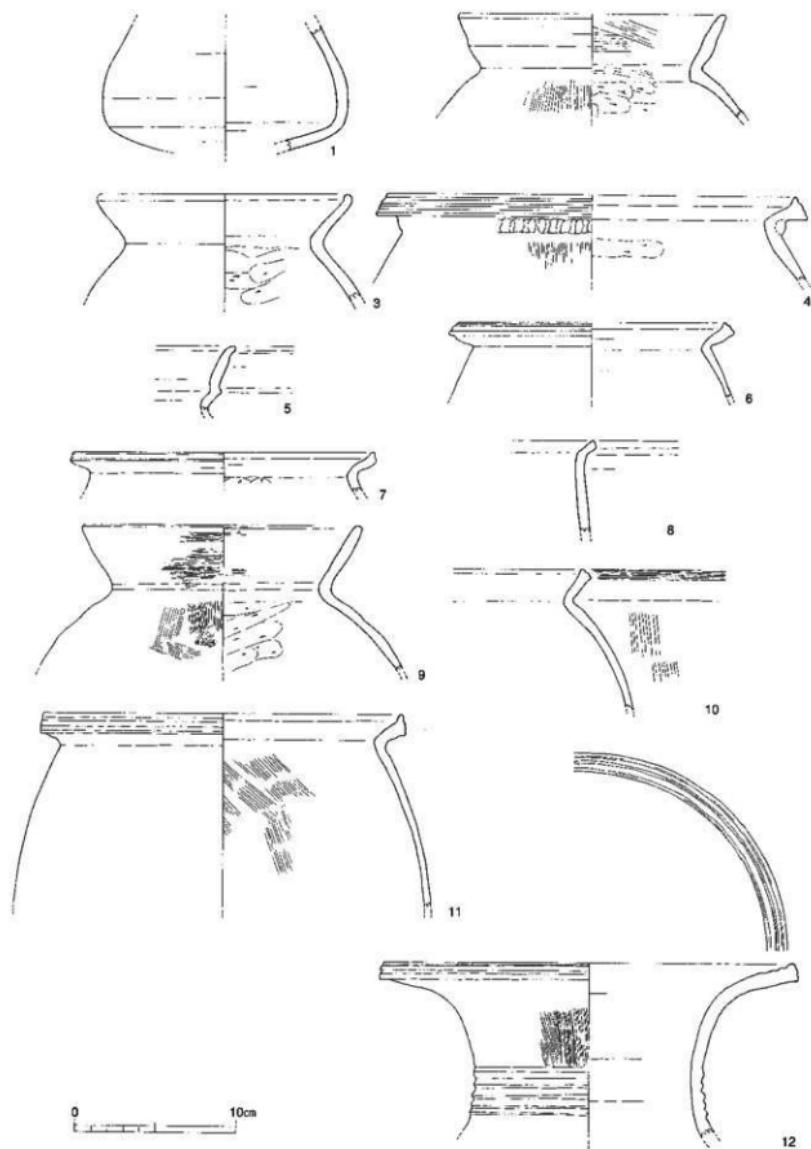
第66図 SD29 遺構実測図2 (S = 1 / 80)

線を施している。10は体部外面にハケ目調整を施している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、2条の凹線を施している。11は体部外面にハケ目調整を施している。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を上下に拡張させて、2条の凹線を施している。口縁部内外面にススが付着している。8は口縁部は外反しながら立ち上がり、端部に平坦面を作る。9は口縁部から頸部の内外面及び体部外面にハケ目調整を施した後、頸部内外面にナデ調整を施す。体部内面にはヘラ削り調整を施している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部に平坦面を作る。12は広口壺で、口縁部内外面及び頸部内面にナデ調整を施し、頸部外面にハケ目調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部に2条、口縁部内面に3条の凹線を施す。頸部には突帯文を施している。

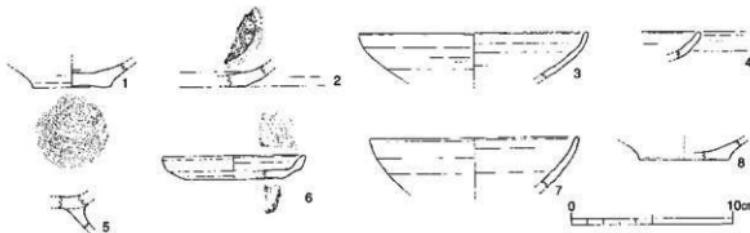
<P 255、258、259、268、359> (第11、68図)

P 255、P 259はL 5 Gr、P 258はK 5 Gr、P 268はL 3 Grで検出されたピットで、中世の遺構面からの掘り込みである。一方、P 368はK 2 Grで検出されたピットで、中世の遺構面とSD 29の間の面からの掘り込みである。

第68図1～8は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1～3、5、7～8は坏で、1は底部に回転糸切を施した後板目を残す。2は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。3、7は口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり口唇部で内湾する。端部は丸く仕上げている。5は底部に



第67図 SO29出土遺物



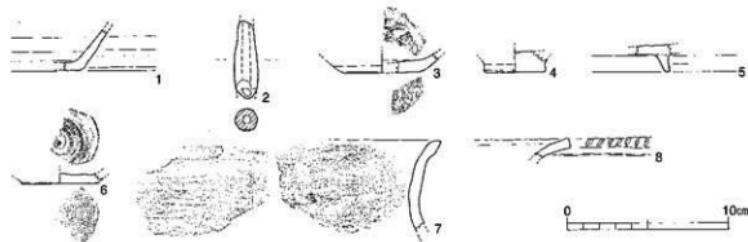
第68図 P255・P258・P268・P275・P259出土遺物

高台を貼付し、ナデ調整または回転ナデ調整を施している。4、6は小皿で、4は口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。6は底部に回転糸切痕を残す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を肥厚させ尖り気味に仕上げている。1はP 255、2～3はP 258、4～5はP 259、6はP 268、7はP 275、8はP 359の出土遺物である。

<SK 120, 139, 144>（第11、69図）

SK 120は東西1.04m以上、南北0.76m、深さ0.46mを測る土壙、SK 139は東西0.85m以上、南北0.28m以上、0.14m以上を測る土壙、SK 144は東西1.01m、南北0.61m、深さ0.41mを測る土壙である。

第69図1、3～4、6は土師質土器で、1、3～4は壺である。1、3、6は内外面ともに回転ナデ調整を施し、3、6は底部に回転糸切痕を残す。1、3～4は壺である。1は立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。3は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。4は底部周辺を強く回転ナデ調整し、底部



第69図 SK120・SK139・SK144出土遺物

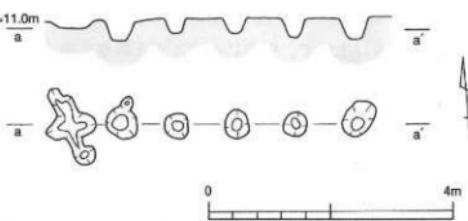
を強調している。6は壺または小皿の底部である。2は土錐で風化が著しいものの、外面にヘラミガキ調整を施している可能性がある。直径4.5～5.5mmの穿孔を施している。5は須恵器壺で、内面に回転ナデ調整の後ナデを施す。底部には高台を貼付しナデ調整している。7は縄文土器で、口縁部・肩部内外面及び頸部内面にナデ調整を施し、頸部外面にはヘラミガキ調整を施している。口縁部の立ち上がりは外反しながら立ち上がり、端部は無文の突帯を貼付して、尖り気味に仕上げている。8は弥生土器で、内外面にナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を上下にやや拡張させ刻目文を施す。1～2はSK 120、3～5はSK 139、6～8はSK 144の出土遺物である。

<SA 01> (第 70 図)

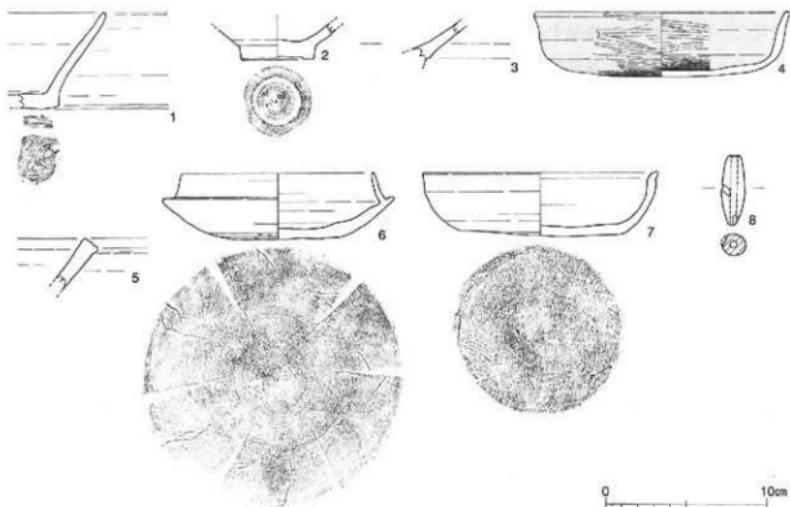
5 間以上の柵列で、柱間は 1 間約 0.96 m を測る。柵列の方向は N ~ 85° ~ W で、SB 02 の東西軸とほぼ平行関係にあり、SA 02 の軸とは、ほぼ垂直関係にある。これらの遺構は同時期に存在していたものと考えられる。

3. 包含層出土遺物

第 71 図は第 1 層の出土遺物である。1 は土師質土器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、器壁やや下方の括れのところから内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2 ~ 3 は瀬戸焼境で、内面を施釉し、底部外面に露胎を作る。2 は天目茶境で、高台は削り出し高台としている。3 は灰釉陶器境で、器壁下部に回転ヘラ削り調整を施した後、高台周辺部に回転ナデ調整を施している。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。4 は赤彩土器で全面を赤色塗彩する。内面はハケ目調整を施した後、見込端部にナデ調整を施し、外面にはヘラミガキ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、口唇部で外側にやや屈曲し、端部を丸く仕上げている。5 ~ 7 は須恵器である。5 は鉢で内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部に平坦面を作る。6 ~ 7 は口縁部外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込にナデ調整を施す。6 は坏身で、底部には回転ヘラ切り痕を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、かえりは反り上がるよう立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。7 は坏



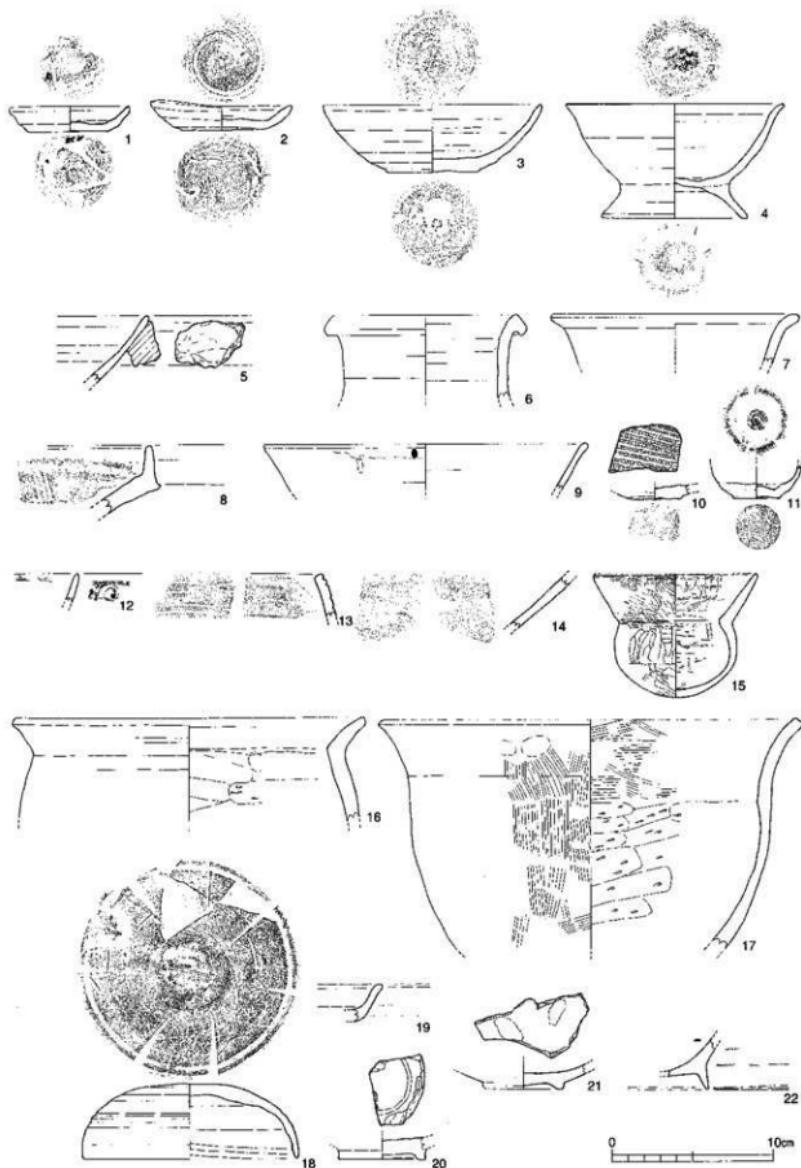
第 70 図 SA01 遺構実測図



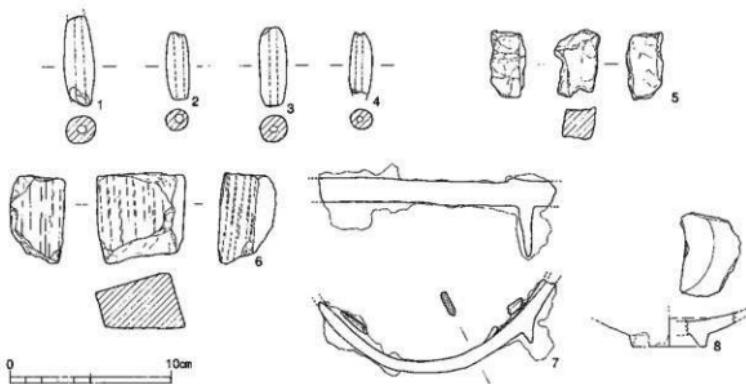
第 71 図 第 1 層出土遺物

で、底部に静止糸切痕を残す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を外側に屈曲させ丸く仕上げている。8は土錐で、外面にヘラミガキ調整を施す。直径3.5mm程度の穿孔を施している。

第72～73図は第2～3層の出土遺物である。1～5は土師質上器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1～2は小皿で、1は底部に回転糸切の後ヘラ状工具痕を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。2は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部をやや肥厚させて丸めに仕上げる。内面にタールが付着している可能性がある。3～5は坏で、3は底部に回転糸切痕を残す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。4は底部に高台を貼付し、ナデ調整している。口縁部は内湾しながら立ち上がり口唇部で外反する。端部は尖らせている。5は外面に鉄滓が付着する。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。6は白磁四耳壺で、内外面ともに施釉している。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部で鋭角に折り曲げ丸く仕上げている。威信財的な遺物と考えられる。7は青磁碗で、内外面ともに施釉している。口縁部は直線的に立ち上がり、口唇部から外反する。端部は丸く仕上げている。龍泉窯系碗D類の遺物である。8は備前焼鉢で、内外面ともにナデ調整を施し、内面に擂目を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部上側を上方に発達させ平坦気味な面を作っている。一方端部下側はシャープに仕上げている。乘岡氏の編年の中世5期aの遺物と考えられる。9～10は瀬戸焼である。9は碗で、内外面ともに施釉するが、口縁部外面の釉はかなり剥げ落ち、一部に漆が付着する。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がった後やや外反する。端部は丸く仕上げている。10は鉢皿で、内面に鉢目を施し、底部には回転糸切痕を残す。11は中国製と推定される茶入れである。内面には回転ナデ調整を施す。外面は施釉するが、底部周辺を露胎としており、回転ナデ調整を確認できる。底部には回転糸切痕が残る。12は青花で、内外面ともに施釉する。内外面に染付を施しており、このうち外面の染付は唐草文様になるものと考えられる。端部は尖り気味に仕上げている。小野正敏氏の分類のF群の遺物と考えられる。13～14は繩文土器浅鉢と考えられる。13は内面にヘラミガキ調整を施し、外面には磨消繩文を施す。口縁部の立ち上がりは、内側に内湾するものと考えられる。端部には平坦面を作っている。14は内面にヘラミガキ調整を施し、外面には貝殻条痕を残す。15は弥生土器で、口縁部内外面及び体部外面にヘラミガキ調整、体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸めに仕上げている。16～17は土師器甕である。16は口縁部及び頸部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラ削り調整を施す。口縁部の立ち上がりは外反気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。口縁部周辺にススが付着している。17は外面及び口縁部にハケ日調整を施した後、口縁部外面に指頭圧痕を施す。体部内面にはヘラ削り調整を施す。口縁部は頸部から外反しながら立ち上がり、端部に平坦面を作っている。外面にススが付着する。18は須恵器蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施すが、天井部は内面にナデ調整、外面に回転ヘラ削り調整を施した後ヘラ記号「×」を施す。肩部には粘土塊が付着する。口縁部は内湾しながら立ち上がり、外面に1条の稜線をナデ出している。口縁部内面には1条の沈線を施し、端部は丸く仕上げている。19は須恵器坏の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び外傾する。端部は丸く仕上げている。20は京都系縄釉陶器で、内外面に綠釉が残る。内面見込には1条



第72図 第2～3層出土遺物 1

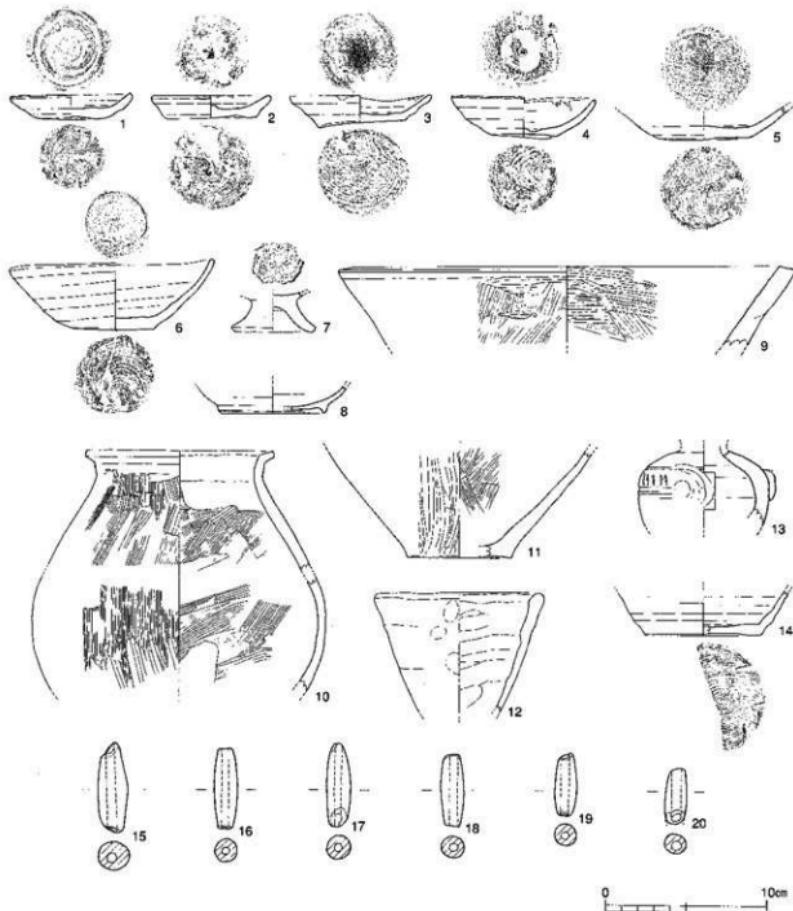


第73図 第2～3層出土遺物2

の沈線を施し、底部には削り出しの高台を施している。21は肥前系陶器である。内面見込は施釉し、胎土目積みの痕跡を残す。底部には削り出しの高台を施し露胎としている。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。22は肥前系染付広東碗である。内外面施釉し染付を施す。立ち上がりは高台に対し急角度で立ち上がる。

第73図1～4は土錠で、外面にヘラミガキ調整を施している。それぞれ3.5～5.5 mm、5 mm、4 mm、3.5 mmの穿孔を施している。5は用途不明の粘土塊で、企画性のない6面体を呈する。6は砥石で、3面を砥面として使用している。7は鉄製品で、五徳である。内面には土師質土器片が付着している。8は近世以降の白磁で、内外面ともに施釉するが、高台は露胎としている。高台は削り出し高台と考えられ、内面見込には蛇ノ目釉ハギを施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。

第74図は第4層の出土遺物である。1～6は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。1～4は小皿で、1は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部をやや肥厚させて丸めに仕上げる。2～4は口縁部にタールが付着し、灯明皿と考えられる。2～3は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、2は端部を丸く仕上げ、3は端部を尖り気味に仕上げている。4は口縁部の立ち上がりは内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせていている。5～6は壺で、5は立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。6は口縁部の立ち上がりは、器壁中程から内湾気味に立ち上がり、端部をやや肥厚させて尖り気味に仕上げている。7は土師器低胸環である。内面にヘラミガキ調整を施し、底部に脚部を貼付して、回転ナデ調整を施している。8は白磁碗で、内外面ともに施釉し高台疊付を釉ハギしている。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。小野C群の遺物と考えられる。9は在地土器捏鉢で、内外面ともにハケ目調整を施し、口縁部外面及び端部にナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、口唇部から外方に直線的に伸び、端部に平坦面を作っている。10～11は弥生土器である。10は壺で、口縁部及び頸部内外面にナデ調整、体部にはハケ目調整を施す。外面底部周辺にはヘラミガキ調整が施されているようである。口縁部の立ち上



第 74 図 第 4 層出土遺物

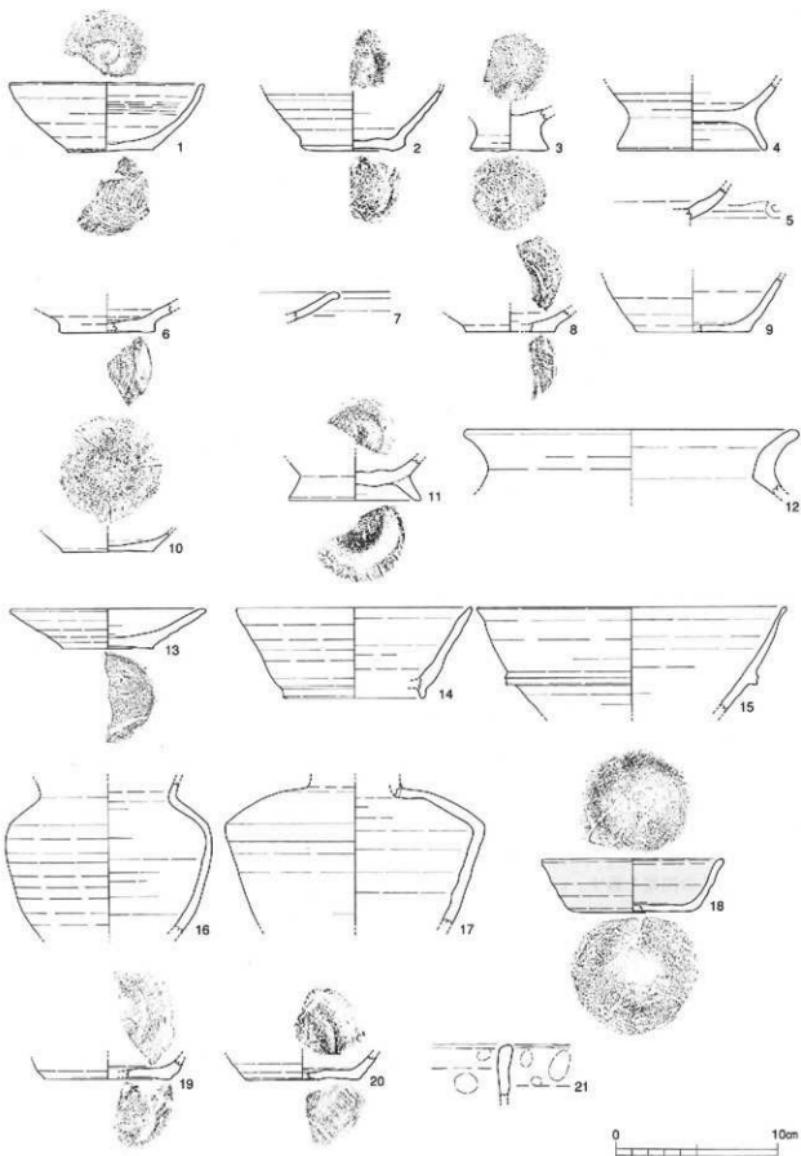
がりは、外方に直線的に伸び端部に平坦面を施している。11は壺で、内面は体部にハケ日調整、底部にナデ調整を施し、外面にはヘラミガキ調整を施す。立ち上がりは、外方に直線的に伸びる。底部外面にススが付着する。12は製塙土器で、内面にナデ調整を施し、外面にはナデ調整の後指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。13～14は須恵器である。13は壺で、内外面ともに回転ナデを施す。体部外面に1条と2条の沈線を施し、間に刺突文を施す。体部には穿孔が施されている。14は壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面見込にナデ調整を施す。底部には回転糸切痕が残る。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。15～

20は土鉢で、外面にヘラミガキ調整を施す。15は6mm、16は3.5~4mm、17は4mm、18は4.5~5mm、19は5mm、20は5mmの穿孔を施す。

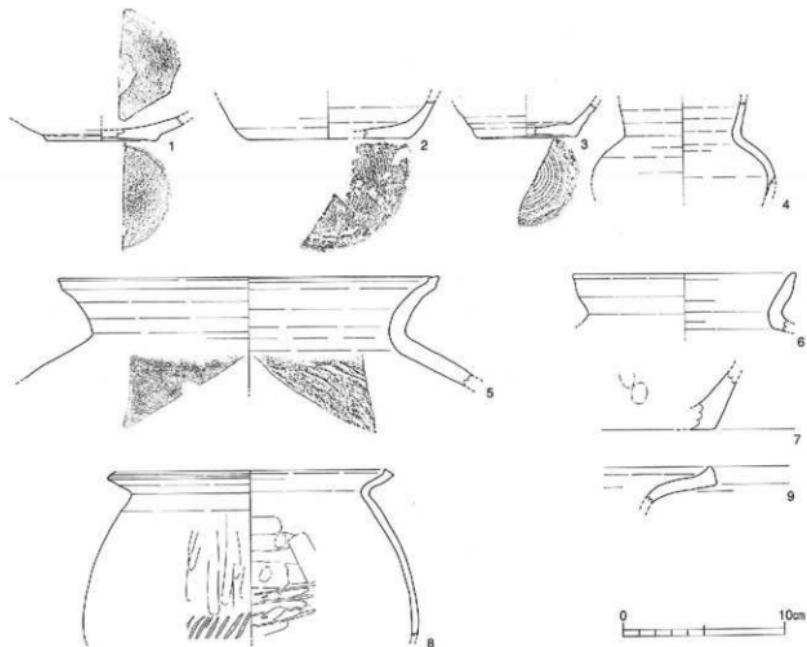
＜その他の遺物＞（第75～77図）

第75図1~4は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1~2は壺である。1は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。2は立ち上がりは外方に直線的に伸びる。3は柱状高台付壺の脚部で、底部は風化が著しいものの、回転糸切を施している可能性がある。脚部の立ち上がりは内側に直線気味に立ち上がる。4は底部に高台を貼付し、回転ナデ調整している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は白磁碗で、内外面ともに施釉するが、底部外面は露胎とし、高台は欠損しているが削り出し高台を呈するものと考えられる。底部内面には器壁と内面見込の界線を入れている。6は須恵器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。7は京都系綠釉陶器皿で、内外面ともに回転ナデ調整を施し施釉している。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり外傾する。端部は丸く仕上げている。8~11は土師質土器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。8は底部に回転糸切痕を残す。11は底部に高台を貼付し、回転ナデ調整を施している。12は土師器甕で、口縁部内外面にナデ調整を施す。風化が著しいが、体部内面にはヘラケズリ調整、外面にはハケ目調整を施している可能性がある。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。13~17は須恵器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。13~14は壺である。13は底部に回転糸切痕を残す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。14は底部に高台を施している。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。15は高壺で、外面に1条の突帯を施す。口縁部の立ち上がりは、内湾気味に立ち上がり外傾する。端部は丸く仕上げている。16は壺で肩部をやや強調している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。17は長頸瓶で肩部に界線を作り強調している。18~20は土師質土器壺である。18は内面に回転ナデ調整を施した後、見込にナデ調整を施す。外面には回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び外傾する。端部は丸く仕上げている。内外面ともに赤彩を施す。19~20は内外面ともに回転ナデ調整を施す。19は底部に静止糸切痕を残す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。20は底部に静止糸切痕を残した後板目を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。21は製塩土器で、内外面ともにナデ調整を施した後指頭圧痕を施す。口縁部は端部で肥厚させ丸く仕上げている。

第76図1は京都系綠釉陶器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部にヘラ描きを施して、全面に施釉している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。2~5は須恵器である。2~3は須恵器壺で、内面は回転ナデを施した後、見込にナデ調整を施し、外面には回転ナデ調整を施す。底部には回転糸切痕が残る。立ち上がりは2は内湾しながら立ち上がり、3は外反気味に立ち上がる。4は直口壺で内外面ともに回転ナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は甕で、口縁部内外面にナデ調整、体部内面に青海波を施し、体部外面は風化が著しいが、平行タタキを施している可能性がある。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり、端部は上方に屈

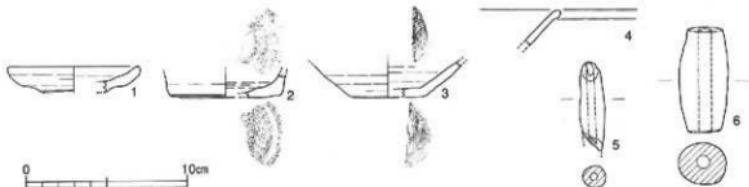


第75図 その他の遺物 1



第76図 その他の遺物2

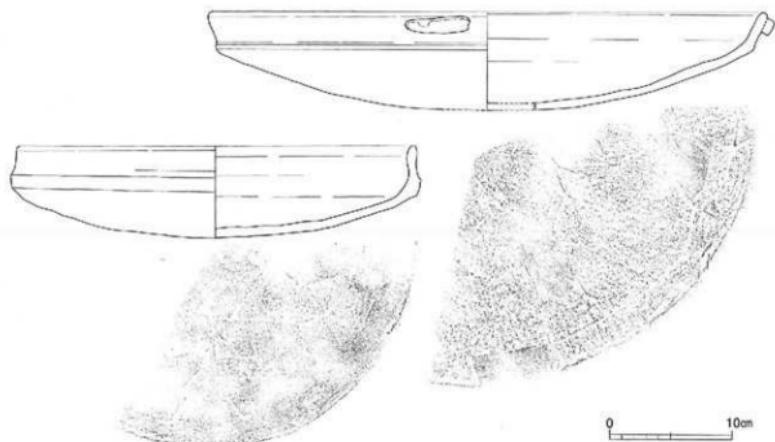
曲し平坦面を作る。6～9は弥生土器甌である。6は口縁部で内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部に平坦気味な面を作っている。7は底部で、内外面ともに風化が著しいが、内面に指頭圧痕が残る。8は口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面上部にヘラケズリ調整、下部にヘラミガキ調整を施す。体部外面にはヘラミガキ調整を施し、体部中程付近に刺突文を施している。口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部上方を拡張させている。端部には2条の凹線を施す。口縁部にはススが付着している。9は口縁部で内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部上方を拡張させている。



第77図 その他の遺物3

第77図1～3は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。1は小皿で、口縁部の立ち上がりは内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。2は底部に糸切痕を残す。立ち上がりは外反気味である。3は壺で、底部に回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。4は白磁碗で、内外面ともに施釉する。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を外側に折り曲げて玉縁を作っている。端部は丸く仕上がっている。5～6は土錐で、外面にヘラミガキ調整を施す。5は4mm、6は7～8mmの穿孔を施している。

第78図は搅乱土に混入している遺物である。1～2は焰烙で、口縁部内外面及び内面見込にナデ調整を施し、底部外面にチヂ目調整を施す。1は口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。両端に粘土紐状の把手を施している。口縁部を中心にススが付着している。2は口縁部の立ち上がりは、内傾しながら立ち上がり、徐々に直立していく。口縁部にススが付着している。搅乱土からはこのほか繩文土器の小片が出土している。



第78図 搅乱土出土遺物

4. 中屋山の調査

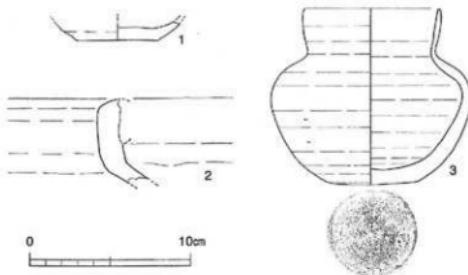
「中屋山」は山の所有者の屋号が「中屋」であることから通称で呼ばれていた寿昌寺遺跡の東に隣接する山である。当山は試掘調査で遺跡が確認されていなかったが、造成工事中に五輪塔及び宝篋印塔の石が土留めとして積み上げられているのを確認したため、緊急調査を実施した。中屋山の踏査を実施したところ、山の中腹付近で宝篋印塔の残片などの石製品を少量確認したが、既に元位置からは流れているものと考えられた。一方、土留めを確認した西側斜面には、土留めを確認した地点(T-2)と平坦面が残る地点(T-1)の2つのトレンチを設定し調査を実施した。T-2では土留めの下から近世以降の遺物を確認したため、土留めが近世以降に積み上げられたものであることが確認された。一方T-1では遺物は出土したもの、遺構は検出されなかった。五輪塔及び宝篋印塔の個体数が多く、遠方から搬入されたと考え難いことや、中屋山中腹でも宝篋印塔の残片が確

認されていることから、中屋山は中世には墓山であった可能性がある。

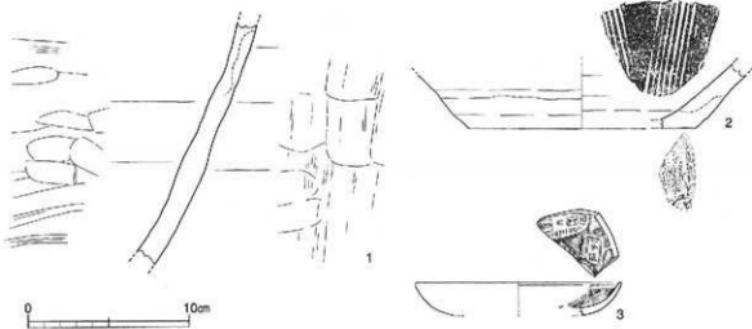
第79図はT-1出土遺物である。1は土師質土器壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。2は備前焼甕で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、内傾気味に立ち上がり、外側に折り曲げて玉縁状にしている。端部には平坦気味の面を作っている。

口縁部端部と肩部外面に灰が付着している。3は須恵器直口壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、体部中程から底部に回転ヘラケズリ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、やや外方に内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。

第80~82図はT-2出土遺物である。第80図1は壺器系陶器壺の体部である。内面にナデ調整及びヘラケズリ調整、外面にナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味である。内面は下側になるほど灰を被る。2は備前焼鉢で、内外面ともにナデ調整を施し、内面に1単位7~8条の擗目を施す。断面及び外面に粘土の繋目痕、底部にはヘラ状工具痕が残る。3はコンニャク印版の技法を用いた肥前系染付である。内湾にはコンニャク印版により、1両及び1分銀の図柄が描かれている。口縁部の立ち上がりは、内湾しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。



第79図 中屋山T-1出土遺物



第80図 中屋山T-2出土遺物

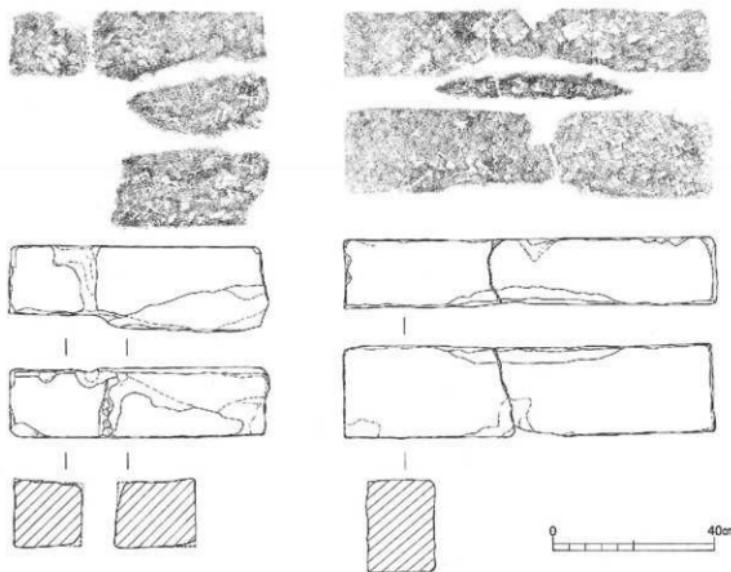
第81図1~11は五輪塔である。1~5は空風輪で、1は空輪が欠損し風輪のみが残存している。風輪を前後に平面的に作っているタイプである。2は風輪が小型のタイプで、鏡餅状に作っている。3は空輪が宝珠状になっているタイプである。4は風輪下のほぞを比較的長く作っている。5は空輪が球状のタイプで、ほぞは短く作っている。6~7は火輪で、6は天井部を広くし笠の勾配を緩やかにしたタイプ、7は天井部を狭くし笠の勾配を急にしたタイプ、8~9は水輪で、8は最大径を下方



第81図 中屋山出土五輪塔・宝鏡印塔ほか

に持つタイプ、9は最大径を中程に持つタイプ、10～11は地輪で、10は縁込を小さく作るタイプ、11は縁込を大きく作るタイプである。12～14は宝篋印塔である。12～13は相輪部、14は笠部である。15は用途不明の石製品で、断面台形のドーナツ状を呈すると考えられる。大井谷II遺跡出土遺物に類似例がある。寺院関連遺物と考えるなら、仏像下部の蓮華座の固定装置を巻き込む根巻石なども考える必要があろう。

第82図1～2は石部材である。1は片側をほぞ状に加工し、2は角柱状に加工している。

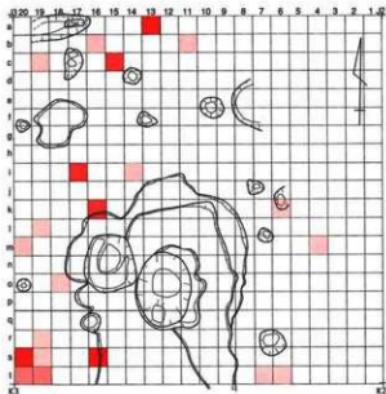


第82図 中屋山出土石部材

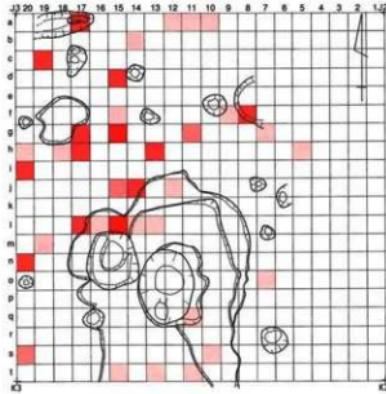
第2節 考察

1. 錫冶炉遺構について（第83～85図）

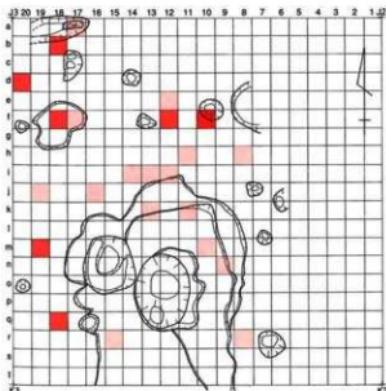
調査区東側山際から錫冶炉遺構の可能性がある土壌を2穴確認したため、約5×5mの区域内で25cmメッシュ3層に分けて土を探取し、鍛造薄片の分布状況を調べた。分布状況を調べた結果、第1面（第83図）では錫冶炉南西隣及び北側に鍛造薄片が集中しており、第2面（第84図）では北西隣に集中している。また第3面（第85図）では北東隣に集中している。調査区が狭いため錫冶炉の付属施設については検出できなかったが、鉄を鍛造する場所が時期により移動している可能性が考えられる。



第83図 鍛造薄片分布状況（第1面）



第84図 鍛造薄片分布状況（第2面）



第85図 鍛造薄片分布状況（第3面）

- 1片検出
- 2片検出
- 3片検出
- 4片検出

2. 遺物の組成について（表1～4）

寿昌寺遺跡からは、2万7千点以上の中世土器片が出上しているので、遺物の組成から若干の検討を加えてみたい。計数作業は接合作業を終えた状態（接合し同一個体と証明できた場合は1点）で、総破片数を全てカウントした。

計数作業の結果、出土遺物のうち99.07%が土師質土器で、残りを国産製品0.8%、輸入製品0.13%で占めた。出土遺物の大部分を占める土師質土器の種別の組成では、93.19%を皿・壺が占め、灯明具（3.13%）、赤彩土器（3.01%）が続く。灯明具・赤彩土器の割合は、浄土宗寺院関連遺跡と推定されている大井谷II遺跡の計数値と比較してもかなりの高率で、これらの遺物は寿昌寺遺跡の性格の一端を示すものと考えられる。

一方、土師質土器以外の中世土器を、中世朝山家惣領家の居館の可能性が指摘されている藏小路西遺跡（総破片数22,459点、土師質土器97.1%、国産製品1.7%、輸入製品1.2%）と比較してみると、寿昌寺遺跡からは国産製品で約1／2倍、青磁で約1／14倍、白磁で約1／6倍の出土しかない。また土師質土器を除く国産製品及び輸入製品の百分比は、寿昌寺遺跡が86:14であるに対し、藏小路西遺跡は58:42、大井谷II遺跡は65:35を示し、寿昌寺遺跡は国産製品の割合がかなりの高率となる。各遺跡での嗜好も考えられるため、この数値が3遺跡の経済格差をどの程度示しているかは不明である。

土師質土器以外の製品の組成を大井谷II遺跡と比較してみると、寿昌寺遺跡では瓷器系、備前が多く青磁は少ない。これらの差異は寿昌寺遺跡の国産製品偏重の主体となるものである。

瓦質土器は総数18点で多くないが、奈良火鉢、角形火鉢などが含まれており、坩埚や鋳造薄片といった生産関連遺物が見られることも寺院との関連を推定させる。

一方、寺院との関係は不明であるが、京都系綠釉陶器が同時期の須恵器とともに7点出土していることや、威信財的な遺物である白磁の水注が出土していることから、寿昌寺遺跡は以前より有力者との関係があった可能性がある。

以上を整理すると次のようになる。

- ① 在地のものが多く、藏小路西遺跡、大井谷II遺跡と比較して搬入品が少ない。
- ② 土師質土器には、灯明具・赤彩土器が高率で含まれる。
- ③ 搬入品は、藏小路西遺跡、大井谷II遺跡と比較して、国産製品の占める割合が高く、瓷器系が多い。
- ④ 奈良火鉢・角形火鉢など寺院関連的な遺物が含まれる。
- ⑤ 輸入製品には、藏小路西遺跡、大井谷II遺跡と同様に、威信財として長期に保持される可能性のある高級品が含まれる。

No	種類	破片数(点)	出土割合(%)
1	土師質土器	27608	99.07
2	瓦質土器	18	0.06
3	東播系	0	0
4	亀山系	5	0.02
5	壺器系	124	0.44
6	備前	57	0.2
7	瀬戸	19	0.07
8	青磁	20	0.07
9	白磁	11	0.04
10	青白磁	0	0
11	青花	3	0.01
12	その他の中国陶磁器	2	0.01
13	朝鮮系	0	0
	国産製品小計	27831	99.87
	輸入製品小計	36	0.13
	合計	27867	100

表1 寿昌寺遺跡 中世土器の組成

No	種類	破片数(点)	出土割合(%)
①	灯明具	865	3.13
②	赤彩土器	831	3.01
③	墨書き土器	2	0.01
④	その他の皿・壺	25728	93.19
⑤	鉢	158	0.57
⑥	火鉢	8	0.03
⑦	鍋	4	0.01
⑧	その他	12	0.04
	皿・壺小計	27426	99.34
	その他小計	182	0.66
	合計	27608	100

表2 寿昌寺遺跡 土師質土器の組成

No	種類	破片数(点)	出土割合(%)
2	瓦質土器	18	6.95
3	東播系	0	0
4	亀山系	5	1.93
5	壺器系	124	47.88
6	備前	57	22.01
7	瀬戸	19	7.34
8	青磁	20	7.72
9	白磁	11	4.25
10	青白磁	0	0
11	青花	3	1.16
12	その他の中国陶磁器	2	0.77
13	朝鮮系	0	0
	国産製品小計	223	86.1
	輸入製品小計	36	13.9
	合計	259	100

表3 寿昌寺遺跡 土師質土器以外の組成

No	種類	破片数(点)	出土割合(%)
2	瓦質土器	17	7.33
3	東播系	2	0.86
4	亀山系	10	4.31
5	壺器系	63	27.16
6	備前	38	16.38
7	瀬戸	21	9.05
8	青磁	45	19.4
9	白磁	18	7.76
10	青白磁	10	4.31
11	青花	0	0
12	その他の中国陶磁器	7	3.02
13	朝鮮系	1	0.43
	国産製品小計	151	65.09
	輸入製品小計	81	34.91
	合計	232	100

表4 大井谷Ⅱ遺跡 土師質土器以外の組成

第3節まとめ(表5)

今回の調査結果や他の関連遺跡の調査結果・資料を整理してまとめとしたい。寿昌寺遺跡の調査では13世紀を中心として13~15世紀の遺構・遺物が確認されている。関連遺跡を整理してみた。

(遺跡位置図)

	遺跡名	場所	遺構名	方 向	時 期	軸 群	備 考	文 献
1	寿昌寺遺跡	上塩治町	SB01	N~1° ~E N~89° ~W	13c	①	寺院本堂?	
2	寿昌寺遺跡	上塩治町	SB02	N~4° ~E N~86° ~W		②		
3	寿昌寺遺跡	上塩治町	SD08	N~89° ~W	13c	①	区画溝	
4	寿昌寺遺跡	上塩治町	SD15	N~1° ~E	13c	①	区画溝	
5	寿昌寺遺跡	上塩治町	SA01	N~85° ~W		②		
6	寿昌寺遺跡	上塩治町	SA02	N~5° ~E		②		
7	角田遺跡	上塩治町	SD21	(N~1° ~W) N~89° ~E	13c	①	鍛冶関連施設に伴う区画溝?	(1)
8	角田遺跡	上塩治町	SD25	N~1° ~W	13c	①	水路?	(1)
9	角田遺跡	上塩治町	SD26	N~3° ~W	13c	①	鍛冶関連施設に伴う溝?	(1)
(10)	神門寺境内廃寺	塩治町	土壘	N~1° ~E N~89° ~W	江戸時代	(参考)	神門寺に伝塩治判官高貞 首塚あり	(2)
11	淨音寺境内遺跡	塩治町	土壘	N~72° ~E N~18° ~W	15c~	③	後塩治氏の居館	
12	大井谷Ⅱ遺跡	上塩治町	石敷遺構	N~72° ~E N~18° ~W	15c	③		(3)
13	大井谷Ⅱ遺跡	上塩治町	SB01	N~73° ~E N~17° ~W	15c	③	寺院本堂	(3)
14	築山遺跡	上塩治町	SB01	(N~3° ~E) N~87° ~W			伝塩治氏居跡から最も近い位置で確認された礎石 建物	(4)
(15)	伝塩治判官館跡	上塩治町	SD01	N~12° ~E	13~14c	(参考)	自然流路	(5)
16	觀音寺境内遺跡	渡橋町	土壘	(N~82° ~E) N~8° ~W			塩治判官高貞再興 現住職朝山氏	
17	蔵小路西遺跡	渡橋町	四大溝	(N~78° ~E) N~12° ~W	13~15c	④	朝山氏船跡区画溝	(6)
18	矢野遺跡	矢野町	SD05	N~78° ~E (N~12° ~W)	14~15c前	④	屋敷地区画溝	(7)
19	渡橋沖遺跡	渡橋町	SB11	N~76° ~E N~14° ~W	13c前	④	集落 第1群中心建物	(8)
20	渡橋沖遺跡	渡橋町	SB21	N~77° ~E N~13° ~W	13c中~後	④	集落 第2群中心建物	(8)
21	渡橋沖遺跡	渡橋町	SB01	N~70° ~E N~20° ~W	13c後~14c		集落 第3群中心建物 鬼門・裏鬼門を地鎮	(8)

表5 旧塩治郷周辺遺構

表5は旧塩治郷周辺の遺構を抜粋した表である。表2の結果からおおよそ①N~3°~1°~Eの遺構群、②N~4°~5°~Eの遺構群、③N~72°~73°~Eの遺構群、④N~76°~78°~Eの遺構群の4群に分けられる。



第86図 周辺の主要中世遺跡 (1/40000)

①は寿昌寺遺跡と角田遺跡で確認した遺構群で、13世紀の遺構で確認例が多い。②は寿昌寺遺跡で確認された遺構群で、切り合い関係から①と時期差があると考えられる。③は大井谷Ⅱ遺跡と淨音寺境内遺跡で確認されている。2遺跡は直線距離で3km以上離れているが、いずれも①、②の遺構群が確認された遺跡の周辺地域に所在しており、15世紀以降の遺構という点でも共通している。④は全て北側に位置する四絆遺跡群に分布しており、中心となる朝山氏館跡（藏小路西遺跡）の軸方向に準じているものと考えられる。

①～④にはある程度の時期的なまとまりや地理的なまとまりが見られる。しかしながら、これが佐々木氏、塩治氏、後塙治氏に直接関連するのかは不明である。資料が僅少であることもあり、これについては資料の増加を待ち改めて検討することにしたい。

＜参考文献＞

- (1) 出雲市教育委員会『角田遺跡第3次発掘調査報告書』2004
- (2) 出雲市教育委員会『神門寺境内廃寺』1985
- (3) 山雲市教育委員会『斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書Ⅱ 大井谷Ⅰ遺跡・大井谷Ⅱ遺跡』2001
- (4) 出雲市教育委員会『上塩治築山古墳』2004
- (5) 出雲市教育委員会『塩治判官船跡』2003
- (6) 島根県教育委員会『藏小路西遺跡 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』1999
- (7) 出雲市教育委員会『出雲健康公園整備プロジェクト事業に伴う矢野遺跡第2地点発掘調査報告書』1991
- (8) 島根県教育委員会『渡橋沖遺跡 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』1999

寿昌寺遺跡遺物観察表

持認番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の着目	胎土	焼成	色調	備考
7-1	試掘 T-4	土師質土器 壺	口径:(12.2) 高さ:4.5 底径:6.0	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:回転糸切	1mm以下の砂粒少量混入	やや軟	外面:赤褐色 内面:褐色 (一部淡褐色)	・外間に墨書きあり
15-1	SE03 B4Gr 下層	土師質土器 小皿	口径:(7.0) 高さ:1.5 底径:(4.4)	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:回転糸切	2mm以下の砂粒混入	やや軟	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	
-2	SE03 B4Gr 上層	土師質土器 小皿	口径:(7.4) 高さ:1.3 底径:(3.8)	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:不明	2mm以下の砂粒混入	軟	明灰褐色	
-3	SE03 B4Gr 下層	土師質土器 壺	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:不明	1mm以下の砂粒や多く混入	やや軟	外面:暗赤褐色 内面:暗灰色 (一部淡褐色)	
-4	SE03 B4Gr 下層	青磁 碗	口径:不明 高さ:不明 底径:(5.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	新	良	施釉:青緑色 露胎:青灰色	・買入がある ・高台見込 ・墨付鉢ハギ
16 I	SK85 B3Gr	常滑燒 甕	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:ナチュラル 内面:ナチュラル 底部:不明	1mm以下の砂粒多量に混入	良	外面:暗茶色 内面:褐色	・外面部に押印文 ・断面に新土の接合痕 ・肩部に墨が擦る
-2	SK85 B3Gr	瓦質土器 甕	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:格子タキ 内面:ナチュラル 底部:不明	1mm未満の砂粒少量混入	軟	暗褐色	・在地産?
17-1	SK76 B5Gr	土師質土器 壺	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:回転ナチュラル	2mm以下の砂粒少量混入	軟	外面:淡褐色 内面:褐色 (高台内褐色)	・高台貼付
-2	SK76 B5Gr	須恵器 皿	口径:(18.1) 高さ:2.1 底径:(15.4)	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル、ナチュラル 底部:回転糸切	1mm以下の砂粒混入	やや軟	外面:灰白色 内面:黄褐色 (底部淡青灰色)	・底部にヘラ状工具痕
19-1	SD30 B5Gr	弥生土器 甕	口径:(8.2) 高さ:9.1	外面:ナチュラル、ハケ目 内面:ナチュラル 底部:不明	2mm未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色(一部淡褐色、暗褐色)	
-2	SD30 B5Gr	弥生土器 甕	口径:不明 高さ:不明 底径:(5.8)	外面:ヘラミガキ 内面:ナチュラル 底部:ナチュラル	1~2mmの砂粒混入	やや軟	外面:淡黄褐色 内面:黄褐色	
-3	SD30	弥生土器 甕	口径:(11.4) 高さ:不明 底径:不明	外面:ナチュラル 内面:ナチュラル 底部:不明	2mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	明黄褐色	
20-1	P120 B7Gr	土師質土器 壺	口径:不明 高さ:不明 底径:7.2	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:回転ナチュラル	1mm未満の砂粒少量混入	軟	外面:淡褐色 内面:褐色	・高台貼付
-2	SD20 B5Gr	土師質土器 壺	口径:不明 高さ:不明 底径:不明	外面:回転ナチュラル 内面:ナチュラル 底部:回転ナチュラル	2mm以下の砂粒混入	軟	淡褐色	・高台貼付
-3	SD20 B5Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 高さ:不明 底径:(11.8)	外面:ナチュラル 内面:ナチュラル 底部:不明	1mm以下の砂粒少量混入	やや軟	橙色 (一部暗褐色)	・内面見込み擂口
21-1	SD01 D9Gr	土師質土器 壺	口径:(8.2) 高さ:2.3 底径:(5.8)	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:静止糸切	黒色粒子少量混入	良	橙色	
-2	SD01 D9Gr	土師質土器 壺	口径:不明 高さ:不明 底径:(5.4)	外面:回転ナチュラル 内面:ナチュラル 底部:回転糸切	黒色粒子混入	やや軟	外向:暗褐色 内面:褐色	
-3	SD01 D10Gr	土師質土器 壺	口径:不明 高さ:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナチュラル 内面:回転ナチュラル 底部:回転糸切	1~2mmの砂粒及び黑色粒子混入	やや軟	橙色	

件名番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
21-4	SD01	土器質土器 壺	口径:(12.4) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	0.5mm未満の 砂粒多量に 混入	やや軟	淡黄褐色	
-5	SD01 C7Gr	青磁 碗	口径:不明 高:不明 底径:5.6	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:乳緑色 露胎:明黄灰色	・内面見込にスタンプ文 ・高台見込輪ハギ ・貯入がある
-6	SD01 C7Gr	免器系陶器 壺	口径:小明 器高:不明 底径:小明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:小明	1~2mmの砂 粒混入	良	暗赤褐色 (-一部黄褐色)	
-7	SD01 C7Gr	僧前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:暗赤褐色	・飛鳥昭和年中世3期 b
-8	SD01 D9Gr	僧前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗黄灰色 内面:青灰色	・内面に1単位9条 の横目
-9	SD01 D10Gr	僧前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:暗灰色	・内面に1単位10条 の横目
-10	SD01 D9Gr	僧前焼 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(12.4)	外面:ナデ 内面:ナデ	1mm未満の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:褐色	・内面に1単位10条 の横目
11	SD01 C7Gr	僧前焼 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ, ハケ目 底部:不明	密	良	外面:暗茶色 内面:暗褐色	
-12	SD01 C7Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	黑色粒子混 入	やや軟	橙色	・内面に横目
-13	SD01 C6Gr	在地土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	軟	淡褐色	・内面見込に横目
-14	SD01 D9Gr	丸質土器 火鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	軟	黒褐色	・外面上に珠文帯、菊 花文
-15	SD01 C7Gr	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	密	やや軟	外面:青灰色 内面:灰褐色	
-20	SD01 D9Gr	肥前系陶器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:4.4	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:乳緑色 露胎:暗褐色	・内面見込輪付土器 ・高台削り出し ・三日月高台
-21	SD01 D8Gr	肥前系陶器 壺	口径:(14.4) 器高:3.2 底径:(5.1)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:灰白色 露胎:淡褐色	・内面見込輪付土器 ・高台削り出し ・三日月高台
-22	SD01 D9Gr	肥前系染付 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(6.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡青白色	・内外面に染付
-23	SD01 D10Gr	肥前系染付 碗	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡青白色	・外面上に染付 ・貯入がある ・高台蓋付輪胎
-24	SD01 D9Gr	陶胎染付 碗	口径:(11.5) 器高:7.3 底径:(5.0)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡緑灰色	・外面上に染付 ・貯入がある ・高台蓋付輪胎
22-1	SD01 C7Gr	陶器 擂鉢	口径:(30.2) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ、回転ヘラ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm以下砂 粒混入	良	外面:暗茶色 内面:青褐色	

特徴番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
22-2	SD01 D9Gr	培塿	口径:(32.0) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:ハラケズリ	1~3mmの砂 粒混入	良	橙色 (一部暗褐色・ 暗褐色)	・都市型焼成
25-1	SK08 D8Gr	土師質土器 小皿	口径:(7.9) 器高:不明 底径:不明	外向:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	橙色	
-2	SK08 D8Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:5.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:棕色 (外面一部橙色)	
-3	SK08 D8Gr	土師質土器 壺	口径:(13.1) 器高:4.2 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	橙色	・外面にタール付着 ・灯明具
-4	SK08 D8Gr	在地土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:格子タキ、ナデ 内面:ナデ 底部:	1mm以下の砂 粒や多く混入	良	赤褐色	・外面スタンプ文 ・龜山系の模倣
-5	SK08 D8Gr	在地土器 搗鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙色	
27-1	SR02 D8Gr	土師質土器 壺	口径:(7.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:黃褐色 (一部暗黃褐色)	
-2	SE02	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	外面:黃褐色 内面:淡黃褐色	
-3	SK02 D8Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	3mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡橙色	
-4	SE02	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:淡褐色 内面:暗褐色 ・灯明具	
-5	SE02	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗褐色 内面:淡黃褐色 (一部灰色毛毫色)	
-6	SE02 D8Gr	盃形系陶器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ、指痕压痕 底部:不明	1mm以下の砂 粒や多く混入	良	赤褐色	・内外面に灰被る
-7	SE02	備前焼 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	0.5mm未満の砂 粒少々混入	良	暗褐色	・奈良中世3~4期
-8	SE02 D8Gr	在地土器 搗鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、指痕压痕 内面:ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒少々混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:棕色 (外面一部褐色)	・内面に1単位6条 の縦目
-9	SE02 D8Gr	在地土器 搗鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ、壓痕压痕 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗淡褐色 内面:暗褐色	・内面に1単位4条 以上の縦目
-10	SE02 D8Gr	在地土器 鍋	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	密	軟	淡橙色	
29-1	SK02 C10Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒少々混入	やや軟	褐色	
-2	SK02 C10Gr	甕生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	暗黃褐色	・端部に刻印文・2 条の凹線

埠頭番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の着微	胎土	焼成	色調	備考
29-3	SK03 C10Gr	鼎生土器 甕	口径:(16.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:黄褐色	・腹部に3条の凹線
-4	SK03 C10Gr	弦生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:(3.4)	外面:ヘラミガキ 内面:不明 底部:ナデ	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗黃橙色 内面:黄褐色	
30-1	SD13 D10Gr	陶器 鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(5.8)	外面:施釉 内面:露胎 底部:露胎	窓	良	茶褐色	・高台削り出し ・内面見込に移付着
32-1	SD08	土師質土器 小皿	口径:(7.0) 器高:1.3 底径:(5.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm未満の砂 粒混入	やや軟	淡橙色	
-2	SD08 E9Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.0) 器高:1.5 底径:(5.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:淡橙色	・外面向にタール付着 ・灯明具
-3	SD08 E10Gr	土師質土器 坏	口径:12.6 器高:4.1 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切、板目	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:黄褐色	
-4	SD08 E9Gr	土師質土器 坏	口径:13.0 器高:4.2 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転余切、板目	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡橙色	
-5	SD08	土師質土器 坏	口径:13.2 器高:4.4 底径:5.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	茶色粒子混 入	やや軟	淡橙色	・内面にタール付着 ・灯明具
-6	SD08	土師質土器 坏	口径:13.2 器高:3.6 底径:5.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	褐色	・外面向にタール付着 ・灯明具
-7	SD08	土師質土器 坏	口径:(12.9) 器高:3.9 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	褐色 (一部暗褐色)	
-8	SD08	土師質土器 坏	口径:13.0 器高:4.1 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡橙色 (一部褐色)	
-9	SD08	土師質土器 坏	口径:12.6 器高:3.9 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	3mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄白色 内面:黄橙白色	・内面にタール付着 ・灯明具
10	SD08 F9Gr	土師質土器 坏	口径:15.2 器高:4.8 底径:5.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡橙色	・内外面向にタール付着 ・灯明具
-11	SD08	土師質土器 坏	口径:13.1 器高:4.2 底径:5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	褐色	
-12	SD08 E10Gr	土師器 壇	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	良	外面:灰褐色 内面:暗褐色	・内面に網洋付着
33-1	SD08	在地土器 鋸鉢	口径:(27.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ口、ナデ 内面:ハケ口、ナデ 底部:不明	1~2mmの砂 粒混入	やや軟	黄褐色	
2	SD08	在地土器 鋸鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ口、ナデ 内面:ハケ口、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:褐色 内面:暗褐色 (一部淡褐色)	
3	SD08	在地土器 鋸鉢	口径:(23.4) 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:ハケ口、ナデ 底部:不明	1~2mmの砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:暗黃灰色	・内面に擦目

捲回番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
33 4	SD08 E10Gr	在地下器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:灰褐色	・内面に1単位7条 以上の構目
-5	SD08	瓦質土器 火鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラガキ、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:灰褐色	・外向に菊花文 ・角形火鉢
-6	SD08 E10Gr	瓦質土器 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗褐色 内面:灰褐色	・内面に1単位6条 以上の構目
35 1	SD09 E10Gr	上部質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:橙色 内面:淡橙色	
-2	SD09 E10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:4.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	黑色粒子混 入	やや軟	淡褐色	
-3	SD10 E10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:暗褐色	・外面向にクーラ付 着 ・灯明具
-4	SD07 E9Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.0) 器高:1.6 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	黑色粒子混 入	やや軟	黒色	
-5	SD07 E9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1~2mmの砂 粒混入	やや軟	外面:黄灰色 内面:暗黃褐色	
36-1	土器窯 H10Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.3) 器高:1.7 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:橙色	
-2	土器窯 H10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:暗黃褐色	
3	土器窯 H10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:4.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密 黑色粒子多 量に混入	やや軟	外面:黒色 内面:淡橙色	
-4	土器窯 H10Gr	土師質土器 坏	口径:(11.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密 黑色粒子混 入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:暗黃褐色	
-5	土器窯 H10Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:	密	良	橙色	
-6	土器窯 H10Gr	白磁 碗	口径:(13.1) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	灰白色	
38-1	SA02 H9Gr	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切、板目	黑色粒子少 量混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:黄褐色 (底部黄褐色)	
-2	SA02 H9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:淡橙色	
-3	SA02 I9Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:橙色 内面:暗黃褐色	
-5	SA02 I9G	土器 裂塗土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指捺土器 内面:ナデ、指捺压痕 底部:不明	密	やや軟	外面:黄褐色 内面:橙色	

持国番号	出土地點	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
39-1	SB01 I9Gr	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:(4.5)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:余切	黒色粒子少 量混入	軟	淡褐色	
-2	SB01 I9Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	外面:褐色 内面:赤褐色	・内面赤彩
-3	SB01 I9Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外西:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	黒色粒子少 量混入	やや軟	外面:褐色 内面:赤褐色	・内外赤彩
-4	SB01 H9Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	黒色粒子少 量混入	やや軟	外面:褐色 内面:淡褐色	
-5	SB01 H9Gr	土師器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ、ハケ目 内面:ナメ、ヘラケ目 底部:不明	1mm以下の中 粒混入	やや軟	外面:褐色 内面:暗褐色 (一部暗褐色)	
6	SB01 I9Gr	土師器 製塗上器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指痕压痕 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	褐色	
-7	SB01 I9Gr	土師器 製塗土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:黄褐色 内面:暗褐色	
-8	SB01 I9Gr	土師器 製塗土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指痕压痕 内面:指痕压痕 底部:不明	1~4mmの砂 粒多量に混 入	やや軟	淡褐色	
-9	SB01 抜張区	土師質土器 壺	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:暗褐色 内面:暗褐色	・内外赤彩
-10	SB01 抜張区	土師質土器 壺	口径:12.8 器高:3.4 底径:3.3	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:余切	密	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	・内面に少量の漆付 着
-11	SB01 抜張区	頬轡器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(7.4)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	密	良	黄褐色	
41-1	SB02 K8Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(6.3)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	密 黒色粒子多 量に混入	やや軟	褐色	
-2	SB02 J9Gr	頬轡器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(10)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ、ナデ 底部:圓軸へり、ナデ	密 黒色粒子混 入	良	外面:青灰色 内面:青灰色 (底部黄灰化)	・高台附付
43-1	SK38 K9Gr	土師質土器 壺	口径:13.3 器高:3.5 底径:5.2	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ、ナデ 底部:圓軸余切	黒色粒子混 入	やや軟	外面:淡褐色 内面:淡褐色	
-2	SK38 J9Gr	土師質土器 皿	口径:10.7 器高:2.1 底径:8.5	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	密	やや軟	褐色	・底部赤彩
-3	SK38 J9Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	1mm未満の 砂粒少量混 入	軟	外面:淡褐色 内面:暗褐色	
-4	SK38 J9Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸ナデ	密	やや軟	外面:青褐色 内面:淡黄色	・高台付 ・内面少量のカール付 ・灯明具
-5	SK38 J9Gr	在地土器挂 鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハメ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:淡黄褐色 (一部暗褐色)	

辨別番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
43-6	SK38 J9Gr	瓦質上器 風炉	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	外面:青灰色 内面:黄褐色	・2条の筋文有 ・透かしあり ・体部外側に紅葉のスタンプ文
-7	SK38 J9Gr	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:不明	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色 (一部暗褐色)	・脚部3方向に三角透かしあり ・透かしの下に1条の沈線
-8	SK38	須恵器 壺身	口径:(14.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	
45-1	SE01 K7Gr	土師質上器 小皿	口径:(8.2) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	
-2	SE01	土師質土器 壺	口径:(15.1) 器高:3.9 底径:(9.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒少景混入	やや軟	褐色	・内外面に赤彩 ・外面に墨書き
-3	SE01 K7Gr	土師質上器 壺	口径:不明 器高:(7.6) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒や多く混入	やや軟	外面:褐色 内面:黄褐色	
-4	SE01	土師質土器 壺	口径:不明 器高:6.2 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:静止系切	1mm以下の砂 粒少景混入	やや軟	褐色	
-5	SE01 K7Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:(7.6) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:黄褐色	・内面見込にへラ状 工具痕
-6	SE01 K6Gr	土師質上器 壺	口径:不明 器高:(6.2) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	黒色粒子混入	やや軟	外面:褐色 内面:淡褐色	・高台貼付
-7	SE01 K6Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:(8.0) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	褐色	・内外面にタール付 着 ・灯明具
-8	SE01 K7Gr	土師質上器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切、ナデ	密	やや軟	外面:褐色 内面:淡褐色	・高台貼付 ・内面に赤彩
-9	SE01 K7Gr	土師器 裂縫上器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指捺圧痕 内面:指捺圧痕、ナデ 底部:不明	密	やや軟	外面:褐色 内面:灰褐色 (口縁部褐色)	
-10	SE01	須恵器 盤	口径:不明 器高:(13.1) 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	1mm未満の砂 粒混入	良	青灰色	・高台貼付
47-1	SK41 L6Gr	備前焼 壺	口径:34.8 器高:69.5 底径:31.8	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	外面:暗赤褐色 内面:褐色 (底部暗褐色)	・肩部外面に焼印
49-1	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.2) 器高:1.8 底径:(5.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	密	やや軟	褐色	
-2	SK09 L6Gr	土師質上器 小皿	口径:8.0 器高:1.9 底径:4.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	1mm未満の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:暗褐色	
-3	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.3 器高:2.0 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	外面:回転ナデ 内面:黑色粒子 少景混入	やや軟	褐色 (一部暗褐色)	・口縁部内面にタール付 着 ・灯明具
4	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.4 器高:2.3 底径:3.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	1mm以下の砂 粒混入	軟	暗褐色 (一部黄褐色)	・内外面にタール付 着 ・灯明具

博調番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色 裂	備 考
-49-5	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.1) 器高:1.9 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:棕色	-内面にタール付 -灯明具
-6	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.2) 器高:1.8 底径:5.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	外面:暗褐色 内面:やや暗褐色 (一部暗褐色)	
-7	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	L1径:7.7 器高:1.7 底径:4.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm未溝の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色	
-8	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.9 器高:1.7 底径:4.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:棕色	
-9	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.0 器高:1.8 底径:4.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	棕色	
-10	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	L1径:7.6 器高:1.8 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡褐色	
-11	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.9 器高:1.8 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:棕色	
-12	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	L1径:8.2 器高:2.1 底径:4.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:やや暗褐色 内面:棕色 (一部暗褐色)	-内面見込みへラ拭 工具痕
-13	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:7.8 器高:1.8 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	棕色	
-14	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:8.2 器高:1.7 底径:5.4	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	棕色	
-15	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	L1径:7.9 器高:1.8 底径:4.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:棕色	-外面にタール付 -灯明具
-16	SK09 L6Gr	土師質土器 小皿	口径:(9.8) 器高:1.4 底径:(6.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:棕色	
-17	SK09 L6Gr	土師質土器 杯	L1径:12.3 器高:4.5 底径:5.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	棕色 (一部淡褐色)	
-18	SK09 L6Gr	土師質土器 杯	口径:12.6 器高:4.1 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:棕色	-外面上にタール付 -灯明具
-19	SK09 L6Gr	土師質土器 杯	口径:13.1 器高:4.2 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:棕色 内面:淡褐色 (一部棕色)	
-20	SK09 L6Gr	土師質土器 杯	L1径:13.3 器高:4.3 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:棕色 (一部暗褐色)	-内面にタール付 -灯明具
-21	SK09 L6Gr	土師質土器 杯	L1径:不明 器高:不明 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黄褐色 内面:灰褐色 (一部棕色淡褐色)	
50-1	SK09 L6Gr	土師質土器 杯	口径:12.8 器高:4.3 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒や多く混 入	やや軟	棕色 (一部淡褐色)	

持込番号	出土地点	種 別	法 直(cm)	手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
50-2	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.2 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	
-3	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.2 底径:6.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切、板目	1~3mmの砂 粒混入	やや軟	橙色	・内面にタール付着 ・灯明具
4	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.3 底径:5.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	・内面にタール付着 ・灯明具
-5	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.5 器高:4.5 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	3mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	・内面にタール付着 ・灯明具
-6	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.4 底径:6.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	2mm未満の砂 粒混入	やや軟	橙色 (一部淡褐色)	
-7	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.4 器高:4.2 底径:6.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	
-8	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:13.6 器高:4.1 底径:6.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	
-9	SK09 L6Gr	土師質土器 坏	口径:12.6 器高:3.8 底径:7.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:褐色	
-10	SK09 L6Gr	陶然 擂鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:小阴	審	良	外面:褐色 内面:淡褐色	・内面に1単位8条 の横目
11	SK09 L6Gr	須恵器 皿	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	軟	青灰色 (一部黄灰色)	
52-1	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(14.4) 器高:4.6 底径:(6.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切、板目	密	やや軟	淡褐色	
2	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(15.3) 器高:5.0 底径:(6.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切、ナデ	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	褐色	
-3	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(15.4) 器高:4.9 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	軟	淡褐色	
-4	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:12.7 器高:4.0 底径:5.4	外面:回転ナデ、ハケ目 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	淡褐色	
-5	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:(12.2) 器高:4.2 底径:4.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	2mm以下の砂 粒混入	軟	外面:明灰褐色 内面:明褐色	
-6	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	淡褐色	
-7	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:溝跡糸切	1mm未満の砂 粒少量混入	軟	淡褐色	・外面に赤彩
-8	SK93 K6Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:6.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:溝跡糸切	1mm以下の砂 粒多量に混 入	やや軟	褐色	

標識番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
52-9	SK93 K6Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(6.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:静止余切	1mm以下の砂 粒少量混入	軟	淡橙色 (底部褐色)	
10	SK93 K6Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:7.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切、ナデ	1mm未満の砂 粒多量に混入	やや軟	橙色	・高台貼付
-11	SK93 K6Gr	須恵器 瓢または鉢	口径:不明 器高:不明 底径:(9.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切、ナデ	密	良	外面:暗褐色 内面:暗灰褐色 (底部内青色)	・高台貼付
53-1	SX03 K6Gr	土師質土器 环	口径:12.9 器高:4.4 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	黒色粒子混入	やや軟	外面:灰褐色 内面:暗灰色	
-2	SX03 K6Gr	土師質土器 环	口径:13.1 器高:4.2 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切、板目	1~2mmの砂 粒少量混入	やや軟	外面:淡橙色 内面:橙色	
-3	SX03 K6Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(6.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	密	やや軟	淡橙色	
-4	SX03 K6Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:6.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切、板目	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	外面:暗灰褐色 内面:灰褐色	
-5	SX03 K6Gr	須恵器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(10.1)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	密	良	青灰色	・高台貼付
54-1	SK96 L5Gr	須恵器 环蓋	口径:(12.9) 器高:4.6	外面:回転ナデ、回転ヘラ 内面:回転ナデ、ナデ	密	良	外面:黄褐色 内面:青灰色 (大部分褐色)	・外面上に自然釉付着 ・外周部に1条の模様 ・口縁部内面に1条の沈線
-2	SK96 L5Gr	須恵器 环身	口径:(12.8) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	・外面上に自然釉付着 ・第54回とセット關係か?
-3	SK96 L5Gr	須恵器 环身	口径:(12.6) 器高:4.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ヘラ切り	黒 黑色粒子多量に混入	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	・底部外面上に自然釉付着
-4	SK96 L5Gr	須恵器 环身	口径:(13.) 器高:4.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ヘラ切り	密 黑色粒子多量に混入	良	外面:暗灰褐色 内面:青灰色	
55-1	SX04 K5Gr	土師質土器 环	口径:12.3 器高:4.5 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	密	やや軟	淡橙色	
56-1	SK103 K4Gr	土師質土器 环	口径:(13.0) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm程度の砂 粒混入	やや軟	淡橙色	
57-1	SK159 K3Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(6.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm程度の砂 粒少量混入	軟	淡橙色	
-2	SK159 K3Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:6.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密	やや軟	外面:暗赤褐色 内面:淡褐色 (一部暗赤褐色)	・高台貼付
58-1	SK161 K4Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.0) 器高:1.8 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:暗黄褐色 内面:淡橙色	
-2	SK161 K4Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(6.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切、板目	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡橙色	

検出番号	出土地点	種別	法尺(cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
3	SK161 K4Gr	瓦質土器 火鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:ナデ 底部:ナア	密	良	暗褐色	・断面に粘土の接合痕 ・脚部貼付
59-1	SK163 K3Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(6.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:板目	1mm以下の砂粒混入	軟	外面:灰褐色 内面:淡褐色	
-2	SK163 K3Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(6.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	赤色粒子混入	やや軟	橙色	
-3	SK163 K3Gr	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色	
-1	鐵治炉1 K2Gr	土師質土器 小皿	口径:(7.0) 器高:1.7 底径:(4.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
-2	鐵治炉1 K2Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
61-3	鐵治炉1 K2Gr	土師質土器 壺	口径:(11.9) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm未満の砂粒少量混入	やや軟	橙色	
-4	鐵治炉1 K2Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	橙色	
-5	鐵治炉1 K2Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:ハケ目、ヘラミガキ	密	やや軟	灰褐色	・脚部貼付
63-1	鐵治炉2 K2Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(5.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm未満の砂粒混入	軟	外面:灰褐色 内面:灰褐色	
2	鐵治炉2 K2Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm未満の砂粒混入	軟	橙色	・内面見込にツール付着?
-3	鐵治炉2 K2Gr	土師器 円筒埴輪	口径:不明 器高:不明 底径:不明	口径:不明 器高:不明 底径:不明	1~2mmの砂粒混入	やや軟	橙色	・透かし・タガあり
61-1	SD28 K2Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	外面:淡黃褐色 内面:淡灰褐色	
67-1	SD29 K2Gr	弥生土器 杷子付豆皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	1mm程度の砂粒多量に混入	軟	灰白色 (一部黄褐色)	
-2	SD29	弥生土器 甕	口径:(11.5) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ヘラ削り 底部:不明	2mm以下の砂粒や多く混入	やや軟	暗黃褐色 (一部暗褐色・褐色)	・外間にスス付着
-3	SD29	弥生土器 甕	口径:(15.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラ削り、ナデ 底部:不明	1mm以下の砂粒や多く混入	やや軟	外間に明黄灰色 内面:黄灰色	
-4	SD29 K2Gr	弥生土器 甕	口径:(25.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ヘラ削り、ナデ 底部:不明	3mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外間に暗黃褐色 内面:暗灰褐色 (一部暗黃褐色)	・脚部に貼付突起 ・口縁部邊部に3条の凹線
-5	SD29	弥生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂粒混入	やや軟	外間に暗黃褐色 内面:灰褐色 (一部黒褐色)	・外間にスス付着

標印番号	川土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	施土	焼成	色調	備考
67-6	SD29	発生土器 甕	口径:(16.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡黃褐色	・口縁部端部に2条 の凹線
-7	SD29	弦半土器 甕	口径:(18.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ハラ削り、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	口縁部:淡赤褐色 底部:褐色	・口縁部端部に1条 の凹線
-8	SD29	発生土器 甕	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:不明 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:暗灰褐色	
-9	SD29	発生土器 甕	口径:(17.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ハラ削り、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒やや多く混入	やや軟	外面:黃褐色 内面:褐色	
-10	SD29	弦半土器 甕	口径:小明 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:淡黃褐色 (一部黄褐色)	・口縁部端部に2条 の凹線
-11	SD29	発生土器 甕	口径:(22.2) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目、ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡黃褐色 内面:明黃褐色 底部:暗黃褐色	・口縁部端部に2条 の凹線 ・口縁部内面にス ス付着
-12	SD29	発生土器 広口甕	口径:(25.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1~3mmの砂 粒多量に混入	やや軟	外面:淡黃褐色 内面:明黃褐色	・通部に2条の凹線 ・口縁部内面に3条 の凹線 ・頸部に突脊文
68-1	P255 K3Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:4.8	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切、板目	1mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:淡黃褐色	
-2	P258 K3Gr	土師質土器 壺	口径:(14.2) 器高:小明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡褐色	
3	P258 K3Gr	土師質土器 壺	口径:小明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡褐色	
-4	P259 K3Gr	土師質土器 小皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡褐色	
-5	P259 K3Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:小明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	暗褐色	・高台貼付
-6	P268 L3Gr	土師質土器 小皿	口径:(8.8) 器高:(6.0) 底径:1.5	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	1mm未満の砂 粒少量化混入	やや軟	褐色	
-7	P275 K4Gr	土師質土器 壺	口径:(12.9) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡褐色	
-8	P359 K2Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(5.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2mm未満の砂 粒少量化混入	軟	褐色	
69-1	SK120 M9Gr	土師質土器 壺	口径:小明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	黒色粒子少 量混入	やや軟	黃褐色	
-3	SK133 O8Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(4.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転余切	密	軟	外面:淡褐色 内面:褐色	
-4	SK133 O8Gr	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:3.6	外面:不明 内面:不明 底部:不明	1mm以下の砂 粒少量混入	軟	外面:淡褐色 内面:褐色 (一部黄褐色)	

推定番号	出土地点	種別	法 疎(cm)	手 法 の 特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
69-5	SK133 O8Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ナデ	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色 (高台具品青灰色)	・高台貼付
-6	SK144 O8Gr	土師質土器 坏または小皿	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	外面:淡褐色 内面:橙色	
-7	SK144 O8Gr	縄文土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ナデ 底部:ナデ	2mm以下の砂 粒多量に混 入	やや軟	外面:淡黄褐色 内面:黄褐色	・口縁部端部に無文 の穴開
-8	SK144 O8Gr	朱生土器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm程度の砂 粒多量に混 入	やや軟	外面:橙色 内面:黄褐色	・口縁部端部に削目 文
71-1	E10Gr 第1層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	1mm以下の砂 粒少許混入	やや軟	外面:橙色 内面:暗褐色 (底部橙色)	
-2	K6Gr 第1層	瀬戸焼 天目茶碗	口径:不明 器高:不明 底径:4.4	外面:不明 内面:施釉 底部:露胎	1mm以下の砂 粒少量混入	良	施釉:墨褐色、 暗茶色 露胎:明黄灰色	・高台削り出し
3	J9Gr 第1層	瀬戸焼 灰釉陶器碗	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:淡綠色 露胎:黄灰色	
-4	K8Gr 第1層	土師器 赤彩土器	口径:(15.8) 器高:4.0 底径:(14.2)	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目、ナデ 底部:ヘラミガキ	密	やや軟	赤褐色 (底部内面黄褐色 色)	・内外面赤彩
5	H3Gr 第1層	須恵器 鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	黄灰色	
-6	L8Gr 第1層	須恵器 坏	口径:13.4 器高:4.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転ヘラ切り	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色 (外腹一部青灰色)	
7	K8Gr 第1層	須恵器 坏	口径:14.6 器高:4.0 底径:10.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:静止系切	密	良	外面:黄灰色 内面:青灰色	
72-1	K5Gr 第2層	土師質土器 小皿	口径:17.4 器高:1.5 底径:5.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	橙色	
-2	K4Gr 第2層	土師質土器 小皿	口径:8.8 器高:1.9 底径:4.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	橙色	・内面にタール付着?
-3	K4Gr 第2層	土師質土器 坏	口径:13.5 器高:4.2 底径:5.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転系切	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:淡黄褐色 内面:淡褐色	
-4	第2層	土師質土器 坏	口径:(13.6) 器高:7.1 底径:9.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡褐色 (口縁部橙色) (底合内青色)	・高台貼付
5	J2Gr 第2層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒少く混入	やや軟	橙色	・外面上鉄錆付着
-6	K3Gr 第2層	白磁 团耳壺	口径:(11.4) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	灰白色	・破壊財?
-7	J8Gr 第2層	青磁 碗	口径:(15.0) 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	淡綠色	・龍泉窑系D類

標印番号	出土場所	種別	法寸(㎝)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
72-8	C7Gr 第2層	備前焼 振鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	外面:赤褐色 内面:暗赤褐色 (一部暗赤褐色)	・糸掛年中世5期 a
9	19Gr 第2層	瀬戸焼 壺	口径:(20.2) 器高:不明 底径:不明	外尚:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	外面:淡黄褐色 内面:暗綠色	・口縁部に漆付着
-10	D9Gr 第2層	瀬戸焼 鉢皿	口径:不明 器高:不明 底径:(3.2)	外尚:施釉 内面:刻目 底部:円軋条切	密	良	黃褐色	・外面に灰釉付着
-11	C10Gr 第2層	中国製陶器 茶入	口径:不明 器高:不明 底径:(2.8)	外面:施釉 内面露胎:円軋ナデ 底部露胎:圓軋条切	密	良	施釉:暗黄色 露胎:暗米色	
12	B3Gr 第2層	青花	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	良	淡青白色	・内外面に染付 ・小野E群
-13	L5Gr 第2層	純文土器 浅鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:磨擦経文 内面:ヘラミガキ 底部:不明	密	やや軟	暗茶褐色	
-14	L5Gr 第2層	純文土器 浅鉢	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:二枚貝具痕 内面:ヘラミガキ 底部:不明	2mm以下の砂 粒やや多く混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:暗茶色	
-15	G10Gr 第2層	朱生土器 壺	口径:10.0 器高:7.7	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ、ヘラ削り 底部:ヘラ削り	2mm未満の砂 粒混入	やや軟	外面:暗青褐色 内面:青褐色	
-16	J8Gr 第2層	十郎器 壺	口径:(21.6)	外面:ナデ 内面:ヘラ削り、ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	やや軟	外面:暗褐色 内面:黒褐色 (一部橙色)	・口縁部周辺にスス 付着
-17	19Gr 第2層	土師器 壺	口径:(26.4)	外尚:ハケ目、指顎圧痕 内面:ハケ目、ヘラ削り 底部:不明	3mm以下の砂 粒混入	やや軟	外面:黒褐色 内面:暗青褐色 (一部青色未開色)	・外面にスス付着
-18	L5Gr 第2層	須恵器 壺蓋	口径:13.3 器高:4.7	外面:圓軋ナデ、圓軋ヘワ 内面:四軋ナデ、ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	・火舟部にヘラ記号 IXJ
-19	I9Gr 第2層	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軋ナデ 内面:圓軋ナデ 底部:不明	密	良	暗黃褐色	・灯明皿の可能性あ り
-20	K3Gr 第2層	須恵器 壺	口径:不明 器高:4.9 底径:5.4	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	やや軟	施釉:青綠色 露胎:青白色	・内面見込に1条の 沈線
-21	D10Gr 第2層	肥前系陶器 壺	口径:4.9 器高:不明 底径:4.8	外尚:露胎 内面:施釉 底部:露胎	密	良	外面:灰褐色 内面:淡綠色 (一部暗褐色・暗褐色)	・削り出し高台 ・砂目釉
-22	第2層	肥前系陶器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	淡青白色	・内外面に染付
73-8	D9Gr 第3層	白瓶	口径:不明 器高:(4.6)	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	施釉:灰白色 露胎:灰褐色	・内面見込に蛇ノ口 輪ハギ ・削り出し高台
74-1	J9Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:7.3 器高:1.6 底径:3.9	外面:圓軋ナデ 内面:四軋ナデ 底部:圓軋条切	2mm以下の砂 粒少量混入	やや軟	褐色	
-2	E9Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:(7.1) 器高:1.5 底径:(5.4)	外面:圓軋ナデ 内面:四軋ナデ 底部:圓軋条切	2mm以下の砂 粒混入	軟	淡橙色	・内外面に染付テー ル付着 ・灯明具

標印番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
74-3	I19Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:(8.7) 器高:2.0 底径:(5.3)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	密	やや軟	橙色	・内外面に染付ターブル付着 ・灯明具
-4	E9Gr 第4層	土師質土器 小皿	口径:(8.8) 器高:2.6 底径:(4.1)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	3mm以下の砂粒混入	やや軟	橙色	・内外面に染付ターブル付着 ・灯明具
-5	J9Gr 第4層	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.5	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	2mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	淡黃褐色 内面:淡橙色	
-6	G9Gr 第4層	土師質土器 坏	口径:(12.6) 器高:4.5 底径:5.1	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	密	やや軟	橙色	
7	G9Gr 第4層	土師器 低脚坏	口径:不明 器高:不明 底径:4.8	外面:不明 内面:ヘラミガキ 底部:圓軸ナデ、ナデ	黑色粒子混入	やや軟	外面:暗黃褐色 内面:暗褐色	・脚部附着
-8	J9Gr 第4層	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:(6.4)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	良	乳白色	・高台裏付施ハギ ・小野C器
-9	G9Gr 第4層	在地土器 捏鉢	口径:(28.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ナデ 内面:ハケ目 底部:不明	黑色粒子混入	やや軟	淡藍色	・罐面に粘土の擦合痕
-10	G9Gr 第4層	弥生土器 壺	口径:(11.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ハケ目、ヘラミガキ、ナデ 内面:ハケ目 底部:ナデ	2mm以下の砂粒混入	良	外:暗黃褐色 内:暗黃褐色 (一部暗褐色)	
-11	G9Gr 第4層	弥生土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(6.4)	外面:ヘラミガキ 内面:ハケ目 底部:ナデ	1mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	外:暗黃褐色 内:暗黃褐色 (底部暗褐色)	・底部外面にスス付着
-12	I9Gr 第4層	土師器 製塙土器	口径:(10.0) 器高:不明 底径:不明	外面:擦頭圧痕、ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂粒混入	やや軟	橙色	
-13	I9Gr 第4層	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	密	良	暗青灰色 (底部暗褐色)	・他器外間に1条と2条の沈板 ・体部に剥突文 ・体部穿孔
-14	J9Gr 第4層	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(7.3)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	密	良	外:青灰色 内:青灰色	
75-1	B5Gr	土師質土器 坏	口径:12.0 器高:4.3 底径:5.4	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	2mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	口縁部:暗茶色 底部:暗褐色 その他:暗褐色	
2	J3Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(6.1)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:不明	2mm以下の砂粒混入	軟	外:暗褐色 内:暗灰色	
-3	K2Gr	土師質土器 桔状高台付	口径:不明 器高:不明 底径:4.9	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切?	2mm以下の砂粒多量に混入	やや軟	暗黃褐色	
-4	J3Gr	土師質土器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:(9.0)	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸ナデ	2mm以下の砂粒少量混入	軟	外:淡橙色 内:橙色	
-5	I9Gr	白磁 碗	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:露胎	密	良	淡黃白色	・削削出し高台
-6	K3Gr	須恵器 坏	口径:不明 器高:不明 底径:5.9	外面:圓軸ナデ 内面:圓軸ナデ 底部:圓軸余切	1mm以下の砂粒混入	柔	外:青灰色 内:暗青灰褐色	

検査番号	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
75-7	K3Gr	縄織陶器 皿	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:施釉 内面:施釉 底部:不明	密	やや軟	淡緑色	
-8	K2Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:小明 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	1mm未溝の砂 粒少混入	やや軟	外面:淡黄橙色 内面:暗褐色	
-9		土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:褐色 内面:淡褐色	
-10	K2Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:小明 底径:5.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	軟	外面:黄褐色 内面:暗褐色	
-11	K2Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(8.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ナデ	1mm未溝の砂 粒少混入	軟	淡褐色 (凸台内淡黄褐色)	・高台附付
-12	K2Gr	土師器 甕	口径:(20.4) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ、ハケ目 内面:ナデ、ハラケズリ 底部:不明	1mm以下の砂 粒多量に混入	軟	外面:淡褐色 内面:淡黃褐色	
-13	K2Gr	須恵器 环	口径:(12.0) 器高:2.5 底径:(5.6)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切	密	良	青灰色	
14	K2Gr	須恵器 环	口径:(14.6) 器高:5.6 底径:(8.9)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	外面:淡黃灰色 内面:淡青灰色	・底部・高台を施す
-15	K3Gr	須恵器高 环	口径:(19.2) 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	青灰色	・外面に1条の文帯
-16	K2Gr	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外褐色 内面:青灰色	
-17	K2Gr	須恵器 長颈瓶	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外褐色 内面:暗青灰色	
-18	K2, J2	土師質土器 环	口径:(11.2) 器高:3.3 底径:(8.1)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:小明	密	軟	淡褐色 ・内外面赤彩	
19	K2Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(7.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:溝糸切	黑色粒子少 量混入	軟	外側:青灰色 内面:淡黄褐色 (底部褐色)	
-20	K2Gr	土師質土器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:溝糸切、板口	1mm以下の砂 粒混入	軟	外側:淡灰褐色 内面:淡褐色	
-21	K2Gr	土師器 深腹上器	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:指壓糸切、ナデ 内面:指壓压痕、ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒混入	軟	褐色	
76-1	K2Gr	縄織陶器 口	口径:不明 器高:不明 底径:(6.8)	外面:施釉 内面:施釉 底部:施釉	密	軟	外面:明青綠色 内面:淡綠色	・底部にハラ括きを 施す
-2	K2Gr	須恵器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(10.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	密	やや軟	青灰色	
-3	K2Gr	須恵器 环	口径:不明 器高:不明 底径:(6.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ 底部:回転糸切	密	良	青灰色	

辨別番号	出土施点	種 別	法 量(cm)	手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
76-4	K2Gr	須恵器 直口壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	良	外面:暗褐色 内面:青灰色	
-5	K2Gr	須恵器 壺	径:(23.5) 器高:不明 底径:不明	口外面:平行タキ? 内面:青海波文 底部:不明	密	良	外面:暗褐色、墨灰色 内面:深灰色、青灰色	
-6	K2Gr	弥生土器 壺	口径:(13.8) 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	淡褐色	
-7	K2Gr	弥生土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:不明 内面:指標压痕 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混 入	やや軟	外面:淡赤褐色 内面:淡黄褐色	
8	K2Gr	弥生土器 壺	口径:(16.6) 器高:不明 底径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ヘラミガキ、ヘラミガキ 底部:不明	2mm以下の砂 粒混入	やや軟	暗黃褐色 (一部褐色)	・作部外面に列文文 ・口部端縁部に2条 の凹線 ・口部部にスス付着
-9	K2Gr	弥生土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	2mm以下の砂 粒多量に混 入	軟	淡褐色	
77-1	K2Gr	土師質土器 灰色砂質上	口径:(8.2) 器高:不明 底径:(4.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	密	軟	褐色	
-2	K3Gr	土師質土器 灰色砂質土	口径:不明 器高:不明 底径:(7.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:糸切痕	1mm未満の砂 粒混入	軟	淡褐色	
-3		土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(4.8)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転糸切痕	1mm未満の砂 粒少量混入	やや軟	淡褐色	
-4	K2Gr	灰色砂質土 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:鉛錫 内面:施錫 底部:不明	密	良	淡褐色	
78-1	K7Gr	土師質土器 煙灰土	口径:45.2 器高:8.0 底径:43.6	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:チヂレ目	密	良	淡褐色 (一部黒褐色)	・粘土紐の把手を施す ・スス付着
-2	M8Gr	土師器 煙灰土	口径:32.0 器高:7.5 底径:33.0	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:チヂレ目	密	良	良 内面:微色 (一部黒褐色)	・口縁部にスス付着
79-1	中尾山 T-1	土師質土器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:5.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:不明	1mm未満の砂 粒混入	軟	淡褐色	
2	中尾山 T-1	備前燒 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	密	良	暗茶色	・口縁部端部・肩部 外縁に灰付着
-3	中尾山 T-1	須恵器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部:回転ヘラケズリ	密	良	黄灰色	
80-1	中尾山 T-2	壺形系陶器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:不明	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ、チヂ 底部:不明	密	良	暗赤褐色 (内面・部黃褐色 氣味)	・内面に灰被る
2	中尾山 T-2	壺形系陶器 壺	口径:不明 器高:不明 底径:(14.0)	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:不明	1mm以下の砂 粒少量混入	良	外面:暗褐色 (やや渋みを含む) 内面:灰褐色	・底面に上單化ナデ ・内面に灰被る ・内面に熱土 ・底面にヘラ状工具
-3	中尾山 T-2	壺形系陶器 壺	口径:(12.8) 器高:不明 底径:不明	外面:鉛錫 内面:鉛錫 底部:不明	密	良	白色	・内面コニャック印版

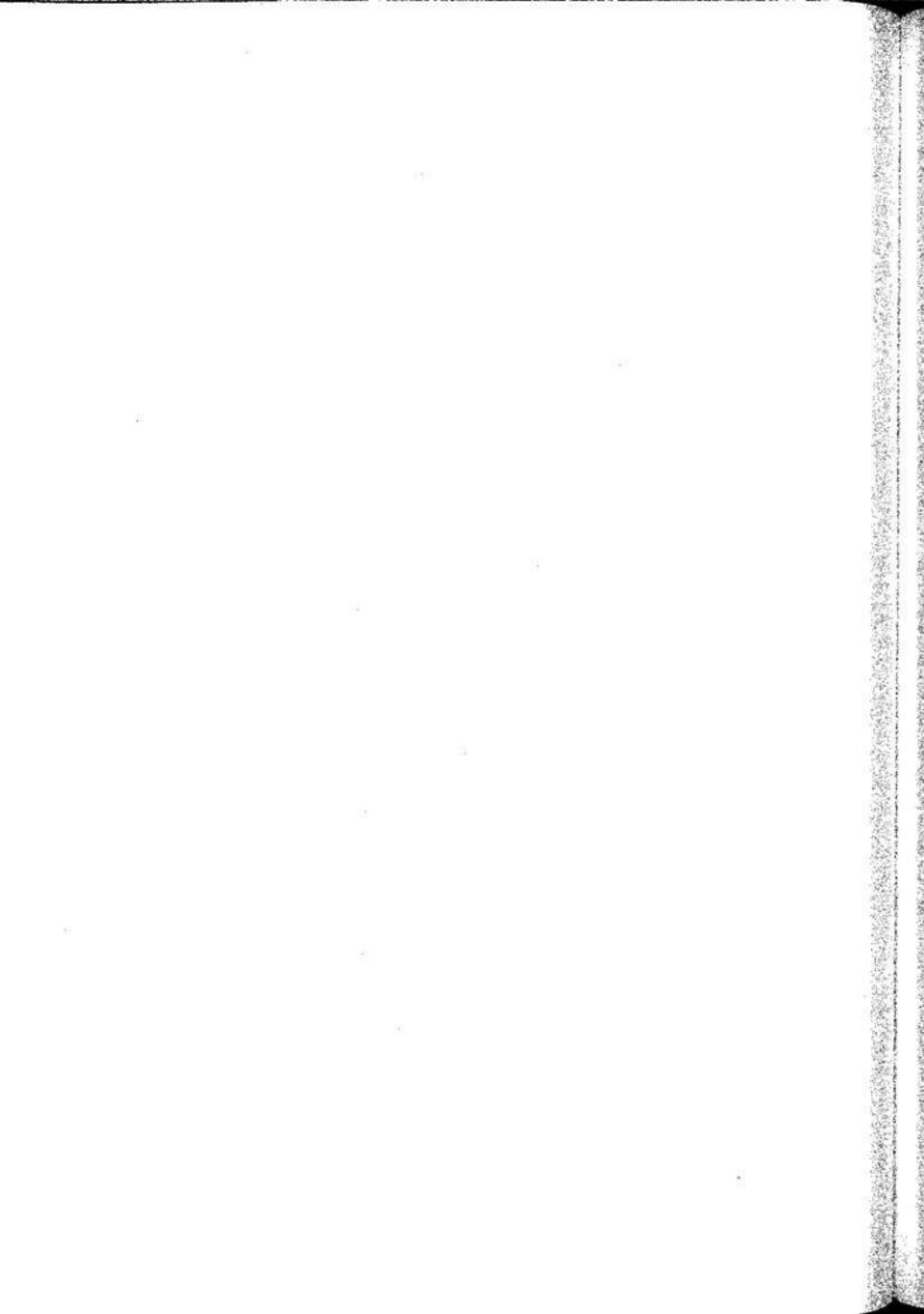
寿昌寺遺跡遺物観察表2

部品番号	出土地点	種別	法量(cm)	備考
20-4	P116 C6Gr	土製品 鍵	総長:5.1 横幅:2.2 孔径:0.5	
21-15	SD01 D9Gr	土製品 支脚	底径:9.9	
16	SD01 D8Gr	土製品 鍵	総長:4.9 横幅:1.5 孔径:0.5	
-17	SD01 D8Gr	土製品 鍵	残存長:4.1 横幅:1.4 孔径:0.4	・孔径4mm程度の穿孔を施す
-19	SD01 C7Gr	土製品 平瓦	残存長:6.2 残存幅:6.3	・外周に格子タッキ ・在地下空器の可能性もあり
22-3	SD01 D9Gr	瓦質製品 丸瓦	残存長:12 横幅:11.7	・凹面にコビキ底・ヘラ状工具残る。 ・側面に粘土の接合痕
23-2	SD17 C6Gr	鉄製品 針?	残存長:12 残存幅:4.0 口径:0.5	・穿孔あり
33-7	SD08 F9Gr	石製品 砥石	残存長:5.3 残存幅:2.9 肥厚:2.2	・3面使用
34-1	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	総長:5.5 最大径:0.6	・釘頭L字形
-2	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	総長:7.8 最大径:0.8	・釘頭L字形
-3	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	残存長:6.6 最大径:0.8	・釘頭形態不明
-4	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	総長:8.3 最大径:0.6	・釘頭T字形
5	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	総長:6.2 最大径:0.7	・釘頭L字形
-6	SD08 E10Gr	鉄製品 釘	総長:4.7 最大径:0.8	・釘頭T字形
-7	SD08	鉄製品 釘	残存長:3.1 最大径:0.4	・釘頭欠損
-8	SD08 F9Gr	鉄製品 釘	総長:3.5 最大径:0.6	・釘頭L字形
9	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	残存長:4.2 最大径:0.4	・釘頭欠損
-10	SD08 E9Gr	鉄製品 釘	残存長:4.1 最大径:0.7	・釘頭欠損

検査番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	備 考
31-11	SD08	鉄製品 刀子	残存長:11.7 残存幅:2.4 肥厚:0.4	・片側に刃
38-7	上器窓 G10Gr	上製品 鍤	残存長:3.8 横幅:1.8 孔径:0.45~0.55	・外面赤色鉛彩
38-4	SA02 I9Gr	土製品 鍤	残存長:2.2 残存幅:1.2 孔径:0.5	
40-1	P44 II9Gr	土製品 鍤	残存長:2.6 残存幅:1.5 孔径:1.5	
45-11	SE01 K6Gr	土製品 鍤	綫長:6.6 横幅:1.9 孔径:0.50~0.55	
51-1	SK09 L6Gr	鉄製品 釘	綫長:14.2 最大径:0.6	・釘頭L字形
69-2	SK120 M9Gr	土製品 鍤	残存長:4.8 横幅:1.5 孔径:0.45~0.55	
71-8	I9Gr 第1層	土製品 鍤	残存長:4.3 横幅:1.5 孔径:0.35	
73-1	I9Gr 第2層	土製品 鍤	残存長:5.6 横幅:1.9 孔径:0.35~0.55	
-2	I9Gr 第2層	土製品 鍤	綫長:4.2 横幅:1.4 孔径:0.5	
-3	C6Gr	土製品 鍤	綫長:5.0 横幅:1.7 孔径:0.4	
4	R5Gr 第2層	土製品 鍤	残存長:3.8 横幅:1.4 孔径:0.35	
-5	K2Gr 第2層	土製品 用途不明	綫長:4.2 横幅:2.8 肥厚:2.2	
-6	D9Gr 第2層	石製品 砥石	残存長:5.6 横幅:3.5 肥厚:3.4	・3面使用
-7	J2Gr 第2層	鉄製品 瓦鎧	口径:(16.8) 高さ:4.9	・内面に土器質土器片付着
74-15	I9Gr 第4層	土製品 鍤	綫長:3.6 横幅:1.8 孔径:0.5	
-16	I9Gr 第4層	土製品 鍤	綫長:4.9 横幅:1.4 孔径:0.35~0.40	
17	I9Gr 第4層	土製品 鍤	綫長:3.2 横幅:1.45 孔径:0.4	

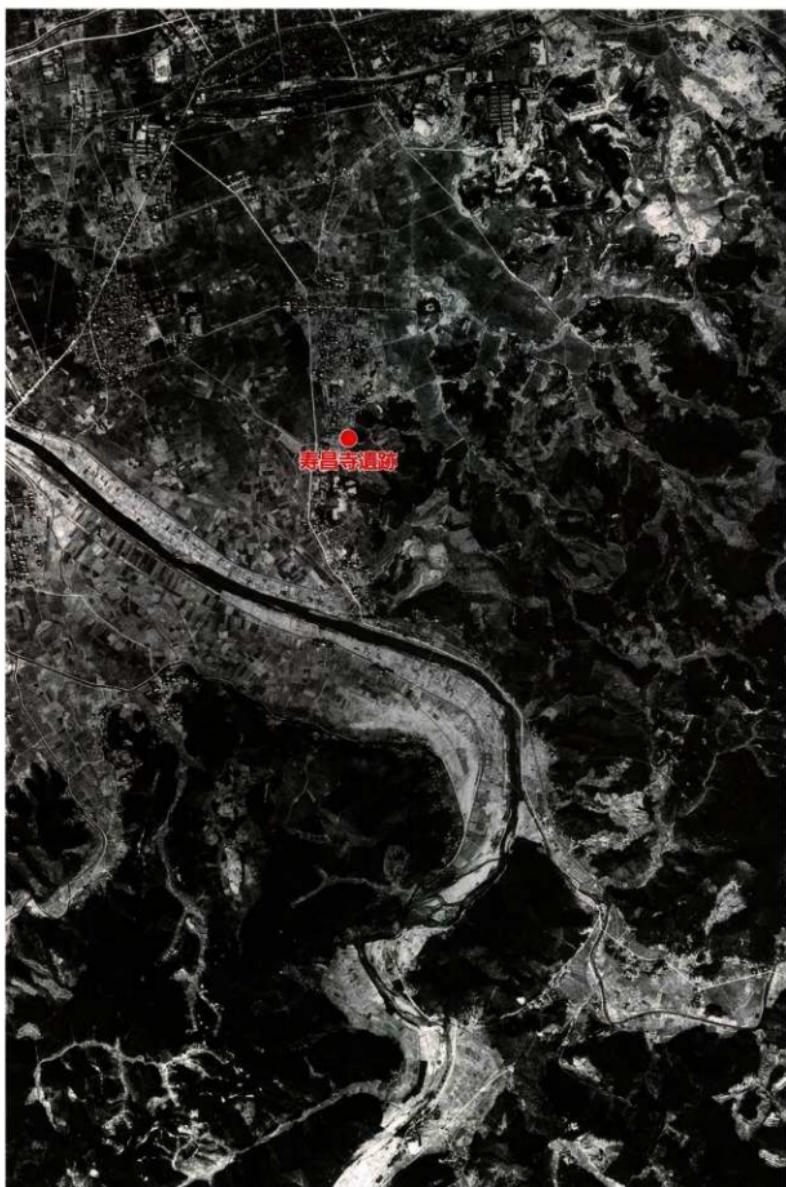
特固寺跡	出土場所	種別	法量(cm)	備考
74-18	I9Gr 第4層	土製品 鍤	縦長:4.5 横幅:1.4 孔径:0.45~0.50	
-19	I9Gr 第4層	土製品 鍤	縦長:3.9 横幅:1.35 孔径:0.50	
-20	I9Gr 第4層	土製品 鍤	残存長:3.4 横幅:1.3 孔径:0.5	
77-5	出土地不明	土製品 鍤	残存長:5.5 横幅:1.6 孔径:0.4	
-6	排水中	土製品 鍤	縦長:6.5 横幅:3.0 孔径:0.7~0.8	
81-1	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 空頭輪	残存高:15.8 横幅:15.8	
-2	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 空頭輪	横幅:10.6 高さ:11.4	
-3	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 空頭輪	横幅:17.8 高さ:28.4	
-4	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 空頭輪	横幅:15.6 高さ:28.6	
-5	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 空頭輪	横幅:16.8 高さ:27.2	
6	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 火輪	横幅:32.0 高さ:15.8	
-7	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 火輪	横幅:22.0 高さ:11.8	
-8	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 水輪	横幅:32.0 高さ:17.8	
-9	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 水輪	横幅:26.6 高さ:17.8	
-10	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 池輪	横幅:23.4 高さ:15.2	
-11	中屋山 T-2	石製品 五輪塔 池輪	横幅:31.8 高さ:22.0	
-12	中屋山 T-2	石製品 空印塔 相輪形	横幅:10.3 残存高:9.6	
-13	中屋山 T-2	石製品 空印塔 相輪形	横幅:11.9 残存高:8.2	

博聞番号	出土地点	種別	法長(cm)	備考
81-14	中層山 T-2	石製品 宝篋印塔 笠部	残存幅:32.4 高さ:23.1	
-15	中層山 T-2	石製品 用途不明	残存幅:26.9 残存高:6.4	・根巻石
82-1	中層山 表探	石製品 用途不明	残存長:64.8 横幅:17.2 肥厚:20.2	
-2	中層山 表探	石製品 用途不明	縦長:93.0 横幅:23.0 肥厚:16.7	



寿昌寺遺跡 図 版

図版 1



米軍空撮写真(寿昌寺遺跡周辺)

図版 2



SD15土層堆積状況



SD15完掘状況



SK85土層堆積状況

図版 3



SD30



SD30遺物出土状況



SD30完掘状況